科目名	基礎演習Ⅰ
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	１単位（30 時間）　必修　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	(社福)様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。 (こども)様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉、教育・保育の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。 大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉、教育・保育への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。 3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。 5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 6. レジュメ、レポートの書き方を修得する。
授業計画	＜担当教員名＞和久田佳代、渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、二宮貴之、福重浩之 （全員で毎回担当する） ＜授業内容・テーマ等＞　＜主な担当者＞ 第 1 回 : 学びへの導入　スチューデントスキルとスタディースキルとは　和久田佳代 事前事後学修について　WebClass による学修の記録 第 2 回 : 読み方のヒント　渡辺泰宏 読むことの重要性　三色ボールペン方式で読む 第 3 回 : 文章の書き方　説明文には型がある　和久田佳代 大学生活の目標を立てる　DP ルーブリックについて 第 4 回 :『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する 第 5 回 :『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる 第 6 回 : 図書館の使い方　大学図書館、図書館サポーターを活用しよう 大学生活で困ったときには　学習支援室や学生相談室等を活用しよう 第 7 回 : コンピュータを活用するー基本的な使い方ー 情報倫理を学ぼう　コンピュータの基本的な操作を確認しよう 第 8 回 : 社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール　井川淳史 ボランティアのすすめ　（アドバイザータイム） 第 9 回 : レジュメの作り方　要旨をアウトプットする　二宮貴之 体験談から大学生活について学ぶ（1） 第 10 回 : 資料整理の仕方　授業資料・ノートを整理して活用しよう　村上武敏 体験談から大学生活について学ぶ（2） 第 11 回 :　レポートの書き方（1）　レポート作成スケジュール　和久田佳代 レポートの中に文献を登場させる方法 第 12 回 :　レジュメに基づき、発表する（『ロボットが家にやってきたら…』） 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する 第 13 回:　定期試験・レポート課題等に対する心得　和久田佳代 学修時間・学修行動を振り返る　（アドバイザータイム） 第 14 回 :　レジュメに基づき、意見交換（『ロボットが家にやってきたら…』） 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる

	第 15 回：学びの確認　まとめ　　レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する ＜受講者へのメッセージ＞演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 　基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。
アクティブラーニング	○ディスカッション、○グループワーク 少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、WebClass に学びを記録する。
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% 　・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	名古谷隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』岩波書店 遠藤薫『ロボットが家にやってきたら…人間と AI の未来』岩波書店
参考図書	授業にて紹介する
事前・事後学修	毎回、WebClass に学びを記録する。 小レポート（第 3 回、第 5 回、第 7 回、第 9 回） 上記も含め、毎回、主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	聖隷クリストファー大学 HP　図書館、ICT センター、キャンパスライフ等 大学 ICT 推進協議会『情報倫理デジタルビデオ小品集』
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示する。 渡辺泰宏　社会福祉学部　2708 村上武敏　社会福祉学部　2613 井川淳史　社会福祉学部　2605 二宮貴之　社会福祉学部　2602 福重浩之　社会福祉学部　2607
実務経験に関する記述	なし

科目名	基礎演習Ⅱ
科目責任者	渡辺　泰宏
単位数他	１単位（30 時間）　必修　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	(社福)様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。 (こども)様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。 4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。 5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモティベーションを高める。
授業計画	＜担当教員名＞渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、和久田佳代、二宮貴之　福重浩之 （全員で毎回担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション　図書館利用・文献検索について 第 2 回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(1) 第 3 回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(2) 第 4 回：福祉の日記念講演に参加し、社会福祉への関心を深める 第 5 回：参考文献リストの作り方・研究倫理について　（アドバイザータイム） 第 6 回：本学図書館を利用する　参考文献リストを作成する 第 7 回：体験談　キャリアデザイン 第 8 回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(1) 第 9 回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(2) 第 10 回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第 11 回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ 第 12 回：選択したテーマについて発表し、討論する(1) 第 13 回：選択したテーマについて発表し、討論する(2) 第 14 回：定期試験に向けて　（アドバイザータイム） 第 15 回：レポートのまとめ（提出前の最終チェック） ＜受講者へのメッセージ＞演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。

アクティブラーニング	○PBL（課題解決型学習）、○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。WebClass に学びを記録する。
授業内のICT活用	WebClass のアンケート機能を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点50%・レポート50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし。参考書については、授業中に紹介する。
参考図書	各教員より、適宜連絡する。
事前・事後学修	第1回、第7回、第12回において、WebClass に学びを記録する。 大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとについて行う。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	渡辺泰宏　社会福祉学部　2708　時間については初回授業時に提示する 村上武敏　社会福祉学部　2613 井川淳史　社会福祉学部　2605 和久田佳代　社会福祉学部　2709 二宮貴之　社会福祉学部　2602 福重浩之　社会福祉学部　2607
実務経験に関する記述	なし

科目名	キャリアデザイン　※社会福祉学部
科目責任者	福田　俊子
単位数他	１単位（15 時間）　必修　５～６セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 教養基礎
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本講義では、社会で「働く」ことの意義を大学で「学ぶ」こととの関連で理解した上で、就職活動に必要な知識、技術並びに心構えを学びながら、社会人として求められる基礎力を身に着けます。そして、学生一人ひとりが「人」として、「社会福祉専門職者」としての人生設計をいかに創造していくのかについて考えます。
到達目標	1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力表現力などを身につける。 3. 社会福祉専門職者としての自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　福田俊子、落合克能、飯田真也 第１回：社会で「働く」とは。 社会福祉専門職の社会的役割とキャリアデザインについて考える 第２回：社会人基礎力とは何か。 社会人として求められる力について考える 第３回：社会人としての基礎力を身につける①（マナー） あいさつ、みだしなみ、礼儀作法などのマナーを身につける 第４回：社会人としての基礎力を身につける③（ストレスマネジメント） 働くこととストレスについて考え、その対処方法を学ぶ 第５回：　採用側が学生に望むこと。 ゲストスピーカー2 名 第６回：４年生による福祉の仕事報告会 社会福祉の現場に就職が決まっている先輩から、就職活動の実際を学ぶ 第７回：自己分析と自分のキャリアデザインを描く 自己分析の方法を学び、自分のキャリアデザインを考える 第８回：社会人としての基礎力を身につける④（エントリーシートを書く） エントリシートの書き方を学んだ上で、各自が作成を試みる

アクティブラーニング	グループ討議や共同作業を織り込んだプログラムを展開する。
授業内のICT活用	WebClassを利用する
評価方法	授業態度20%、課題レポート・提出物等80%
課題に対するフィードバック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパー等へコメントする。
指定図書	特になし
参考図書	・加藤容子他（2014）『わたしのキャリア・デザイン　社会・組織・個人』ナカニシヤ出版 ・笹川孝一（2014）『キャリアデザイン学のすすめ　仕事、コンピテンシー、生涯学習社会』法政大学出版局
事前・事後学修	事前学修：次回の授業テーマをその都度、出しますので、そのテーマについて調べてください。 事後学修：授業内容について復習をするとともに、授業の理解度を自己評価してください。 目安時間40分。
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	英語Ⅲ
科目責任者	パターソン・ドナルド
単位数他	１単位（30 時間）　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。 代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	＜担当教員名＞ パターソン・ドナルド、他 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第 2 回 : Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする 第 3 回 : Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する 第 4 回 : Assessing Patients’ Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする 第 5 回 : Taking Vital Signs バイタルサインを確認する 第 6 回 : 発表会 第 7 回 : まとめ、中間テスト 第 8 回 : Assessing Pain　疾病・負傷による痛みをアセスメントする 第 9 回 : Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする 第 10 回 : Improving Patients’ Mobility 体の機能回復を介助する 第 11 回 : Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする 第 12 回 : Coping with Emergencies 緊急時に対処する 第 13 回 : グループ発表会 第 14 回 : グループ発表会 第 15 回 : 最終テスト、まとめ

アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用、
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、レポート 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表 20%、最終テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder（作者）（Cengage センゲージ）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CD を活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。 学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
科目責任者	担当指導教員
単位数他	２単位（30 時間）　必修　　Ⅰ＝６セメスター、Ⅱ・Ⅲ＝７・８セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。（総合演習ガイダンス参照） 6 セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7 セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する 8 セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する ＊詳細は担当指導教員の Web シラバス参照

アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。
授業内のICT活用	＊担当指導教員のWebシラバス参照
評価方法	＜社会福祉学科・介護福祉学科＞ Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅲ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ＜こども教育福祉学科＞ Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ・最終提出物はルーブリック（moodleに掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	＊担当指導教員のWebシラバス参照
参考図書	＊担当指導教員のWebシラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える ※　原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープンエデュケーションの活用	＊担当指導教員のWebシラバス参照
オフィスアワー	＊担当指導教員のWebシラバス参照
実務経験に関する記述	＊担当指導教員のWebシラバス参照

科目名	キリスト教社会福祉
科目責任者	坂本　道子
単位数他	1単位(15時間)　選択　4セメスター
DP番号と科目領域	DP1　(社福)専門　(こども)専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感を持って実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。受講者数によっては演習形式で進めることもある。
到達目標	1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：はじめに―キリスト教社会福祉における人物史研究の視点 石井十次の生涯と慈善・救済事業　坂本 第2回：石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業　坂本 第3回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動①　坂本 第4回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動②　坂本 第5回：糸賀一雄の生涯と福祉活動　坂本 第6回：田内千鶴子の生涯と福祉活動　坂本 第7回：留岡幸助の生涯と慈善・感化事業　坂本 第8回：井深八重の生涯と社会福祉活動　坂本 まとめ――対人援助の根底思想としての「ディアコニア」
アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。事前に人物についての要約、自己学習を課する。授業後は学びを振り返り言語化する。これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。
授業内のICT活用	視聴覚教材を使用します
評価方法	授業態度20%、毎回授業時入力Webclass20%、期末試験レポート60%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対するフィードバック	授業中に行う

指定図書	室田保夫 2006『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
参考図書	室田保夫 2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 一番ヶ瀬康子監修『シリーズ　福祉に生きる』1～63 巻　大空社 阿部志郎・岡本榮一監修・日本キリスト教社会福祉学会編 2014『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房 取り上げた人物の参考図書は授業中に提示する
事前・ 事後学修	毎回、指定図書あるいは Webclass の資料を事前学修において少なくとも 1 度は読む。それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。事後学修では、知識を毎回、Webclass にて定着させる（目安時間 40 分） 期末のレポートの準備をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉発達史
科目責任者	坂本　道子
単位数他	1単位（15時間）　　選択　社福・こども　4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	今年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。
到達目標	1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。 2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。 3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　坂本道子 第1回：オリエンテーション，人物史研究の視点，近代西洋社会福祉の歴史概要 第2回：社会調査から社会保障の動きにかかわった人々 第3回：セツルメント運動から生活改良の動きへかかわった人々 第4回：子ども問題に寄り添った人々 第5回：障がい者問題に寄り添った人々 第6回：対人援助の根底思想に関わった人々 第7回：宗教と社会福祉 第8回：実践の共通点と継承されること

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。人数によっては演習形式で進めることもある。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度20%、Webclass入力20%、定期試験レポート60%
課題に対するフィードバック	授業中に提示する
指定図書	室田保夫2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
参考図書	シリーズ『福祉に生きる』大空社
事前・事後学修	事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をする。また、毎回、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解する 事後学修：毎回、再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみを味わう 期末のレポートの準備をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床心理学
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　４セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	(社福)社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (こども)教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する学問であり、現代社会において関心が高まっている学問である。主には、心理検査・心理治療・地域援助という３領域から成り立っており、各領域は、有機的なつながりをもちながら対人援助を実践する。歴史や理論を辿りながら、臨床心理学がどのように地域社会で発展し役に立ってきたのかを学ぶ。
到達目標	１．臨床心理学の基本的な知識を習得し、包括的に理解する。 ２．福祉現場における保育士やソーシャル・ワーカーとして、心理学的な知見を活用できる態度や知識を身につける。 ３．日常生活において活用できる臨床心理学の知識を習得・体験しながら、自己理解に努める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：　パーソナリティの心理 第２回：　パーソナリティをみる　―パーソナリティ検査法― 第３回：　心の成り立ち　―交流分析とエゴグラム― 第４回：　無意識のはたらき　―夢とコンプレックス― 第５回：　自己を見つめる　―自己評価― 第６回：　自己をつかむ　―自我同一性― 第７回：　対人関係の心理 第８回：　乳幼児期と母子関係 第９回：　対人関係を振り返る　―対人地図― 第 10 回：対人態度を知る　―基本的対人態度― 第 11 回：　人とのかかわり方　―社会的スキル― 第 12 回：　心理臨床の実際　―乳幼児期― 第 13 回：心理臨床の実際　―児童期― 第 14 回：心理臨床の実際　―思春期から成人期― 第 15 回：心理臨床の地域活動と領域

アクティブラーニング	心理テストの概要版等を使用しながら、実際のパーソナリティのアセスメントをグループワーク等で学ぶ。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験（70%）、課題提出物（30%）、計 100% （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーへのコメントを行うことで、全員で意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	「これからを生きる心理学」　川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩　著　　ナカニシヤ出版
参考図書	参考書については、授業中に授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。事後学習はノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。（目安時間は、事前・事後学習それぞれ 40 分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	２号館６階の 2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」および「臨床心理士」の実務経験を有する講師が子どもにおける心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(社福) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (こども)教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理解や技術を体系的に修得している。
科目概要	生涯発達の土台となる乳幼児期および児童期以降の発達を教科書と DVD を用いて丁寧に確認し、各時期の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解するための授業です。授業を受動的に受けるのではなく、学んだことや自己学習の成果を主体的にまとめ、各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイル（ポートフォリオ）にして提出する必要があります。
到達目標	1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人や物や事象との相互作用の中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から、発達過程や初期経験の重要性と保育・教育との関連性が説明できる。
授業計画	＜授業計画・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション : 授業の概要・「発達」と「学習」 第 2 回 : 子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育 第 3 回 : 0 歳児前半の発達と保育 第 4 回 : 0 歳児後半の発達と保育 第 5 回 : 1〜2 歳児の発達と保育 第 6 回 : 2〜3 歳児の発達と保育 第 7 回 : ポートフォリオ中間発表会 第 8 回 : 3〜4 歳児の発達と保育 第 9 回 : 4〜5 歳児の発達と保育 第 10 回 : 5〜6 歳児の発達と保育 第 11 回 : 児童期以降の発達と教育・学習①生涯発達と発達援助 第 12 回 : 児童期以降の発達と教育・学習②発達障害と発達支援 第 13 回 :「成長」「発達」「学習」・子ども観と教育観 第 14 回 : 心理学理論のまとめ ①発達の理論 第 15 回 : 心理学理論のまとめ ②学習の理論 定期試験

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
授業内のICT活用	各自のポートフォリオ製作の際には、PCやインターネットの使用を推奨します。
評価方法	ポートフォリオ 100%
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』(学研) その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	バターワース・ハリス『発達心理学の基本を学ぶ』(ミネルヴァ書房)、田中昌人『子どもの発達と診断１～５』(大月書店)、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』(ぎょうせい)、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』(エイデル研究所)
事前・事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10 分） 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。（60 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	特別支援教育
科目責任者	伊藤　信寿
単位数他	１単位(15 時間)　選択　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(社福)社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (こども) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	様々な理由により特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ２）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ３）障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　伊藤信寿、大須賀優子 第 1 回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み　伊藤 第 2 回：発達障害や知的障害の特性について　伊藤 第 3 回：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について　伊藤 第 4 回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について　大須賀 第 5 回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成について　大須賀 第 6 回：支援体制の構築について　大須賀 第 7 回：特別支援教育における専門家の役割について　伊藤 第 8 回：教育、医療、福祉、家庭との連携について　伊藤

アクティブラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていく。
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います
評価方法	定期試験（60%）、確認テスト（20%）、課題（20%）
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし，質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	指定無し
参考図書	よくわかる特別支援教育[第 2 版]（湯浅恭正 編著　ミネルヴァ書房）
事前・事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる（30 分程度） 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する（10 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日　12 時～13 時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	アダプテッド・スポーツ
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30 時間）　選択　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	（社福）社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 （こども）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。
到達目標	1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。 2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。 3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：スポーツの意義と価値　学びへの導入 スポーツとは○○○である 第 2 回：障がいとは　アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり 第 3 回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前　パラリンピックの発展 第 4 回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを数えるな。残されたものを最大限生かせ」 第 5 回：身体障がいとスポーツ（1） 身体障がいの理解と支援　車いす利用者　その他の肢体不自由 第 6 回：身体障がいとスポーツ（2）（実技含む） 視覚障がい　聴覚障がい 第 7 回：身体障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践 第 8 回：知的障がいとスポーツ（1） 知的障がいの理解と支援 第 9 回：知的障がいとスポーツ（2）（実技含む） 発達障がいの理解と支援 第 10 回：知的障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践 第 11 回：精神障がいとスポーツ　（実技含む） 精神障がいの理解、障がいに応じた工夫・実践 第 12 回：パラ・アスリート等に関する書籍からの学びを共有し、深める（グループワーク） 障がいを負った経緯とスポーツをはじめたきっかけ 第 13 回：パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する（発表） スポーツの意義・魅力、効果・影響 第 14 回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他 第 15 回：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、安全管理 障がい者スポーツ指導者制度 ＊各実技において、安全管理の内容を含む。 ＊実施順序は、体育館や車いす等の使用可能状況により、前後します。

	＜受講者へのメッセージ＞ 　初級障がい者スポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得希望者は、同時に地域実践アクティブラーニング（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。　履修希望の学生は、第1回目から出席してください。 　体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。
アクティブラーニング	○実技、演習　○グループワーク　○プレゼンテーション 意見交換を多く行い、学び合います。 体育館での実技と連動しながら行います。
授業内のICT活用	WebClassのアンケート機能を活用する。 グループ発表をプロジェクターを活用して行う。
評価方法	筆記試験60%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、WebClassへの学びの記録）40%
課題に対するフィードバック	授業内及びWebClassやメールを活用し、フィードバックする。
指定図書	日本障がい者スポーツ協会編 「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」ぎょうせい
参考図書	矢部京之助編「アダプテッド・スポーツの科学」市村出版 植木章三「イラスト アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 齊藤まゆみ「教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学」大修館書店
事前・事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後にWebClassにて学びを記録し、課題に取り組む。(40分) 第13回グループ発表に向けて、課題に取り組み、発表準備をする。 課題「パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する」(120分) 授業での学びを実習等に活用する。
オープンエデュケーションの活用	日本障がい者スポーツ協会　障がい者スポーツ映像配信　事前事後として視聴する。 国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』を参考とする。
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示
実務経験に関する記述	本科目は「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
科目責任者	太田　雅子
単位数他	2単位（90時間）　選択　4～8セメスター　※こども教育福祉学科はⅠ・Ⅱのみ
DP番号と科目領域	DP7　専門
科目の位置付	(社福)社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (こども) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）　※　国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1.　聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 ２．訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 ３．日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 ４．自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 ５．価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜科目担当者＞　太田雅子　川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ ・実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について−「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる−実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） ・本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国　東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） ・実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
授業内のICT活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表　　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2604です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験、保育士・幼稚園教諭として認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉入門
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位(30 時間)　必修　社福　１・２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、「専門職連携の基礎」と連動した科目であり、ソーシャルワークの基盤である「ソーシャルワーカーの意義と役割」「他職種の専門性と役割」を学ぶ。当事者、外部講師、他学部教員の講義を通して、前半は、社会福祉の対象者の生活に関わる専門職の実践について、後半は、ソーシャルワーカーが連携する他職種の実践について理解を目標とする。
到達目標	１．社会福祉現場の実際にふれることで、社会福祉の学びへの意識が高まる。 ２．社会福祉専門職がおこなう社会福祉活動を知る。 ３．連携する他職種の支援の実際を理解し、専門職連携の意味を知る。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 【春セメスター】 第１回：オリエンテーション：社会福祉の支援領域について　川向雅弘 第２回：ソーシャルワーカーの役割と実際①（医療福祉領域）　ゲストスピーカー 第３回：ソーシャルワーカーの役割と実際②（精神保健福祉領域）　ゲストスピーカー 第４回：ソーシャルワーカーの役割と実際③（社会的排除の領域）　ゲストスピーカー 第５回：ソーシャルワーカーの役割と実際④（司法福祉領域）　ゲストスピーカー 第６回：ソーシャルワーカーの役割と実際⑤（就労支援領域）　ゲストスピーカー 第７回：自らの実践から振り返る「ソーシャルワーカー」　社会福祉学科教員 第８回：春セメスター講義の振り返り（ グループディスカッション）　川向雅弘 【秋セメスター】 第 ９回：看護師の役割と実際①（病棟ケア）　看護学部教員 第 10 回：看護師の役割と実際②（在宅ケア）　看護学部教員 第 11 回：養護教諭の役割と実際　看護学部教員 第 12 回:作業療法士の役割と実際　リハビリテーション学部教員 第 13 回：臨床心理士の役割と実際　ゲストスピーカー 第 14 回：自らの実践から振り返る「多専門職連携」　社会福祉学科教員 第 15 回：秋セメスター講義の振り返り（ グループディスカッション）　川向雅弘

アクティブラーニング	グループ学習を取り入れる。ゲストスピーカーの話を通して学びます。
授業内のICT活用	ゲストスピーカーの講義内容による。
評価方法	授業への取り組み:４０%、期末レポート：６０% レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	各セメスター最終回にゲストスピーカーの講義に対するフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の事前学習として、次回テーマ領域についての新聞記事等を確認して臨むこと。毎回の学びをWebclassに提出すること。また、各回の講義内容に関する文献・新聞記事等について事後学習を行うこと。(目安時間40分)　セメスター終了後にレポートを提出する。
オープンエデュケーションの活用	ゲストスピーカーの講義内容による。
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉専門職、臨床心理士、養護教諭、看護師等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉学概論Ⅰ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(30時間)　必修　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	（社福）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （こども）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習および介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者総合援制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。 福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、現代社会における社会福祉の課題・役割、社会福祉の基盤となる価値・理念・原理、社会福祉の概要、社会福の歴史などについて、できるだけ学生自身の生活や関心に結び付けて学ぶ。
到達目標	1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点が身に付き、生活と社会の関係性を捉えることができる 2. 現代社会の特徴と社会福祉の意義、役割が理解できる 3. 社会福祉の発展過程について理解できる 4. 社会福祉、社会保障に関する法、制度、実施体制の概要が理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞佐藤　順子 第１回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」 第２回：社会と生活のしくみ、社会福祉を理解するための基本的枠組み 第３回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～① 第４回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～② 第５回：社会福祉をとりまく状況 少子高齢社会、現代家族の動向、地域社会の変化、雇用形態の多様化 第６回：社会福祉の基盤となる考え方　社会福祉援助者に共通する価値・理念・原理 第７回：社会福祉の歴史　欧米の歴史 第８回：社会福祉の歴史　日本の歴史①　古代～近代 第９回：社会福祉の歴史　日本の歴史②　現代の福祉政策・制度の動向 第10回：社会福祉の法と諸制度 社会福祉関係法制、社会保障制度、社会福祉の実施主体（行政、施設）、専門職 第11回：低所得者の福祉　貧困問題とその対策の歴史、公的扶助、生活保護 第12回：高齢者の福祉　高齢者福祉を取り巻く状況と老後・老人問題、介護を支える諸制度 第13回：障害者の福祉 「障害者」の概念、共生社会実現と障害者支援のための諸制度、支援のあり方 第14回：子ども家庭支援と福祉 子ども・家庭を取り巻く状況と福祉政策の現状、子ども・家庭支援の制度・サービス 第15回：　その他　日本と諸外国における社会福祉の政策動向

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて行う
授業内のICT活用	・パソコンを利用して調べ学習を行う ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出する
評価方法	授業態度10%、課題への取り組み20%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	『社会福祉概論Ⅰ　現代社会と福祉』全社協（「社会福祉学習双書」編集委員会編）全国社会福祉協議会
参考図書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著『社会福祉入門』有斐閣アルマ 古川孝順著『福祉ってなんだ』岩波ジュニア新書 菊池正治・清水教惠・田中和男・永岡正己・室田保夫編著『日本社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく 3回目の授業に向けて「福祉に関する気になるニュース」をまとめる 5回目の授業に向けて、関連データを読み込み、まとめる 11～14回の授業に向けて、特にどういうことに関心があるかまとめる 事後学修：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する 7～9回終了後復習問題に取り組む　（事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅰ
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　必修 １セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	(社福)社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (こども)教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	対人援助専門職への学習の入門編として、視聴覚教材を用いながら、感性を養い、「自己理解・他者理解」「生活とは」「生活問題」などについて、専門職としての多元的複眼的なものの見方を修得する。そのうえで、福祉専門職の歴史的変遷、基本的な価値や知識、技術を取得し、現代社会における福祉専門職の役割と意義について理解することを目的とする。なおこの科目は「ソーシャルワーク総論Ⅱ」と共に社会福祉士指定科目「相談援助の基盤と専門職」および精神保健福祉士指定科目「相談援助の基盤（基礎)」に該当する。
到達目標	1. 対人援助専門職の役割と意義、および福祉専門職（社会福祉士､介護福祉士、精神保健福祉士、保育士など）の役割と意義を説明できる 2. 対人援助専門職の基本姿勢について説明できる。 3. 感性と表現力・分析力を磨き、感じたこと、理解したこと、考えたことを言語化できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション－－「援助」「生活」ということ、「論」「演習」「実習」との関係 第 2 回 : 社会福祉における「生活」のとらえ方 第 3 回 : 当たり前すぎる「生活」－－生活をとらえる視点 第 4 回 :「生活」を客観的に見る視点－－生活問題のとらえ方 第 5 回 :「生活」の中で対人援助技術を磨く－－自立支援の考え方、相談援助の技法、言語化 第 6 回 : ソーシャルワーカーの役割－－福祉専門職（資格）の役割と意義 第 7 回 : 対人援助の概念と範囲－－ジェネラリストとしての援助の意義と内容 第 8 回 : ソーシャルワーカーの専門性－－相談援助の理念（人権尊重・社会正義・利用者本位・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・社会的包摂・ノーマライゼーション等) 第 9 回 : ソーシャルワークの価値と倫理－－専門職倫理の概念、倫理綱領、倫理的ジレンマ 第 10 回 :　ソーシャルワークの歴史①－－ソーシャルワークの萌芽 第 11 回 :　ソーシャルワークの歴史②－－ソーシャルワークにおける理論化 第 12 回 :　ソーシャルワークの歴史③－－資格制度、国際定義、ジェネラリスト、小テスト 第 13 回 : 相談援助における権利擁護 第 14 回 : ソーシャルワークとチーム－－ジェネラリストとしての多職種連携の意義と内容 第 15 回 : まとめ；これからの福祉専門職－－相談援助にかかる専門職の概念と範囲

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイ、グループワークなど、演習形式も取り入れ展開する。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度10%、毎回授業終了後Webclassに入力20%、中間小テスト20%、期末レポート試験50%
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	印刷物や資料を随時提示し、Webclassに反映する
参考図書	空閑浩人2015『ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房 空閑浩人2009『ソーシャルワーク入門――相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	１，授業中に配布された資料やWebclassに掲載された資料を毎回、事前・事後に熟読し、授業内容を理解する ２，毎回、授業によって得た知識をWebclassに入力し、生活の中で、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める ３，中間小テストの準備をする事 ４，期末のレポートを作成すること （目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅱ
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（30 時間）　選択 ２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	(社福)社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (こども)教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰと同様に、ジェネラリストとしての相談援助の基盤と専門職について理解させることを目的としている。具体的には、「面接場面」の視覚教材を積み上げ方式で用い、次の 3 点を理解させる。①相談援助の概念と範囲　②専門職倫理と倫理的ジレンマ　③総合的かつ包括的援助と他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容。これらによって、専門職の役割と機能や専門性を学び、専門家像を形成する。なおこの科目は「ソーシャルワーク総論Ⅰ」とともに、社会福祉士指定科目「相談援助の基盤と専門職」および精神保健福祉士指定科目「相談援助の基盤（基礎)」に該当する。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の意義、機能および役割を理解する。 2. 他者を様々な側面から理解できるようになる。 3. 人権尊重および社会正義に関心をもつようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1 回：ソーシャルワーク総論Ⅰの振り返りと、本講義の概要 第2 回：相談援助の概念と範囲　①――ＳＷにかかる各種の国際定義 第3回：相談援助の概念と範囲　②――ＳＷの理論と動向（前史・誕生・論争・批判・統合） 第4回：相談援助の概念と範囲　③――ＳＷの理論と動向（胎動・ＧＷ・ＣＷ・日本・欧米） 第5回：相談援助の理念　①――相談援助ｻｰﾋﾞｽの視座（価値・知識・技術、専門性、視点） 第 6 回：　相談援助の理念　②――相談援助ｻｰﾋﾞｽの視座（ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄ、利用者主体、権利擁護、ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ、ｽﾄﾚﾝｸﾞｽ、尊厳の保持、社会的包摂、自立支援） 第7回：中間テスト、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容　①――ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの機能、さまざまの職種等との連携・協働 第8回～第12回：総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容　②③④⑤――ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄとしての社会福祉援助活動の展開過程 第13回：相談援助における権利擁護の意義――社会福祉士が捉える権利擁護 第14回：専門職倫理と倫理的ジレンマ――社会福祉士の価値と倫理 第15回：相談援助にかかる専門職の概念と範囲――契約下における援助のあり方、諸外国の動向

アクティブラーニング	課題解決型学習を展開する。授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度10%、毎回授業終了時Webclass入力20%、毎回Webclass小テスト30%、定期試験40%
課題に対するフィードバック	授業のなかで行う。また最後の授業で15回分の振り返りを行う。
指定図書	『ソーシャルワーク』空閑浩人2015ミネルヴァ書房
参考図書	宮本節子2013『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書 木下大生2015『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレット 赤羽克子2015『3福祉士の仕事がわかる本』日本実業出版社 八木亜紀子2012『相談援助職の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	１，授業中あるいはWebclassに掲示された資料や指定図書を毎回、事前・事後に熟読し、授業内容を理解する ２，授業によって得た知識を毎回、Webclassに入力し、生活の中で、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める ３，毎回の小テストの準備をすること ４，期末のレポートの準備をすること （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅰ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	（社福）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （こども）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「援助関係形成の意義と方法」について理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②援助関係形成の原則を理解すること、③援助関係形成過程について理解することを目的としている。
到達目標	1. ４つの援助モデルについて説明できる。 2. 生活問題を人と環境の視点で捉えようとする。 3. 援助関係の重要性を認識し、自己覚知の必要性を理解する。 4. 事例を通して、バイステックの７原則の重要性について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：講義の概要説明 第 2 回：　「人を助けるということ」について映画から考える 第 3 回：人を助けるということ（Unit0） 第 4 回：社会福祉の援助活動の特徴①（Unit1 対人援助の構成要素） 第 5 回：社会福祉の援助活動の特徴②　（Unit2 社会福祉援助の対象） 第 6 回：社会福祉の援助活動の特徴③（Unit3 社会福祉援助の視点 第 7 回：個人モデル・環境モデル（Unit4） 第 8 回：物語モデル（Unit5） 第 9 回：文化モデル（Unit6） 第 10 回：個別援助の展開過程と援助関係（Unit7） 第 11 回：物語モデルの展開過程（Unit7） 第 12 回：援助関係を形成するための原則① （クライエントを個人として捉える・クライエントの感情表現を大切にする ・受けとめる・援助者は自分の感情を自覚して吟味ずる） 第 13 回：援助関係を形成するための原則②（クライエントの自己決定を促して尊重する） 第 14 回：援助関係を形成するための原則③　（秘密を保持して信頼感を醸成する） 第 15 回：援助関係を形成するための原則のまとめ ＜その他＞ ・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。
評価方法	課題レポート20%、定期試験60%、授業への取り組み20%として評価する。 ＜課題レポートのテーマ・様式＞ ・テーマ：『社会福祉をつかむ』の第8章を読み、ユニットごとに「学んだこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」をまとめる。 ・字数：2400字程度、パソコン書き、表紙つき ・ルーブリックを用いて評価する ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出等は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ【第3版】』有斐閣
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	＜事前学習＞ ・第3～11回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読しておくこと。 ＜事後学習＞ ・第3～11回の授業後は、該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。 ・配布資料を参考にしながら、自分にとってわかりやすい講義ノートを作成すること。 ・レポート「『社会福祉をつかむ』を読んで」を作成すること。（160分＝4回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	（社福・介護）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （こども）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「援助関係形成の意義と方法」を基盤とし、ソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワーク理論の歴史を理解すること、②ソーシャルワークの展開過程の実際を理解すること、③初回面接技術の実際を理解することを目的としている。
到達目標	1. ソーシャルワークの展開過程を説明できる。 2. 分析的な思考にもとづいて、他者を様々な側面から理解しようとする。 3.　ソーシャルワークの理論・実践史を理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：講義概要・自己紹介 第 2 回：初回面接の技術 第 3 回：ソーシャルワークの展開過程①（インテーク） 第 4 回：ソーシャルワークの展開過程②（アセスメント） 第 5 回：ソーシャルワークの展開過程③（アセスメントツール） 第 6 回：ソーシャルワークの展開過程④（プランニング・介入） 第 7 回：ソーシャルワークの展開過程⑤（モニタリング） 第 8 回：ソーシャルワークの展開過程⑥（終結・評価） 第 9 回：ソーシャルワークの歴史①（1890 年代末～1910 年代） 第 10 回：ソーシャルワークの歴史②（1920～1940 年代） 第 11 回：ソーシャルワークの歴史③（1950 年以降①） 第 12 回：ソーシャルワークの歴史④（1950 年以降②） 第 13 回：ソーシャルワークの歴史⑤（まとめ） 第 14 回：ソーシャルワークの歴史（小テストの実施） 第 15 回：まとめ ＜その他＞ ・国家試験受験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題され、暗記が必要とされる。ただし、単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。
評価方法	小テスト20%、課題レポート20%、定期試験50%、授業への取り組み10%として評価する。 ＜小テスト・定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む）。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜課題レポート＞ ・テーマ：映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。 ・様式：Ａ４版用紙、原則としてﾊﾟｿｺﾝ書き（図は手書きでも可）、字数2000字数以上、 ・ルーブリックを用いた評価はしない。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	＜事前学習＞ ・第2～8回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読しておくこと。 ＜事後学習＞ ・第9～13回の授業後は、WebClass内の小テストに回答すること。 ・レポート「『あしがらさん』の支援計画」を作成すること。（160分＝4回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	特になし
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得した内容を基盤として、①グループワーク（集団援助）の理論と実際、②スーパービジョン、③相談援助における個人情報及び ICT の活用について理解することを目的としている。
到達目標	1.　グループワークの理論と実践について、利用者のニーズと結びつけて理解することができる。 2. スーパービジョンに関する学習を通して、自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 3. 対人援助・社会支援のさまざまな関連施策、特に個人情報について理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1 回：講義概要　福田俊子 第 2 回：グループワークとは　福田俊子 第 3 回：特徴的なグループワーク（回想法など）　福田俊子 第 4 回：グループワークの原則と援助関係　福田俊子 第 5 回：グループワークの展開過程①　福田俊子 第 6 回：グループワークの展開過程②　福田俊子 第 7 回：グループワークの展開過程③　福田俊子 第 8 回：セルフヘルプ・グループ　福田俊子 第 9 回：グループワークの歴史　福田俊子 第 10 回：グループワークのまとめ　福田俊子 第 11 回：スーパービジョンの意義・目的・方法　川向雅弘 第 12 回：スーパービジョンの実際①　川向雅弘 第 13 回：スーパービジョンの実際②　川向雅弘 第 14 回：相談援助における個人情報の保護　川向雅弘 第 15 回：まとめ　川向雅弘 ＜その他＞ ・「覚えること」と同時に「考えること」も大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	復習テストなどを実施し、その場で解答を提示する。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。
評価方法	課題レポート20%、定期試験60%、授業への取り組み20%として評価する。 ＜課題レポート＞ ・テーマ：集団生活における集団援助の意義と役割ー『カッコーの巣の上で』からー ・様式：2000字程度、A4版用紙、表紙はつけず、ﾚﾎﾟｰﾄの冒頭にﾃｰﾏ・学籍番号・氏名を記入 ・ルーブリックを用いて評価する。 ＜定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・あなたがおススメの文献の紹介分の作成（WebClass）
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やWebClassで作成した資料をもとに、グループディスカッション等を、適宜取り入れる。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣 社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	＜事前学習＞ ・第4・5・8回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読しておくこと。 ＜事後学習＞ ・第4・5・8回の授業後は、該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。 ・第9・10回の授業後にWebClass内の小テストに回答すること ・レポート「集団生活における集団援助の意義と課題」を作成すること （160分＝4回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ　※社会福祉学科
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉士及び介護福祉士としての実践の基礎となる人間および人間の関係性に関する理解を深め、対人援助を行う際の人間関係の形成に必要なコミュニケーションに関する基礎的知識と技術を、個別指導並びに集団指導を通して身につける。 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、心理学的支援の視点を踏まえた実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解）や、他者との情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養い、相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の修得を図る。
到達目標	・援助の専門家になるためには「自己覚知」「他者理解」といった人間理解、コミュニケーションの基礎となる人間の関係性を理解する必要があることを説明でき、その探求を行う姿勢を身に付ける。 ・非言語コミュニケーションと言語コミュニケーションの内容と技法を学び、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎に関する知識、技術を修得する。
授業計画	＜担当教員名＞　福田俊子、佐藤順子、落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回　オリエンテーション、グループ分けの発表、グループ作りのゲームやバズセッション、自己紹介　他己紹介 第2回　初めての人と会う時の「自分」理解――アイコンタクト・表情・姿勢についての自己分析 第3回　自己理解と他者理解①　エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第4回　自己理解と他者理解②　ジョハリの窓、自分イメージ、ジェノグラム・ファミリーマップ・エコマップ 第5回　自己理解と他者理解③　食べさせられる体験、聞こえない体験 第6回　自己理解と他者理解④　話せない体験、見えない体験 第7回　自己理解と他者理解⑤　車いす体験、高齢者体験、振り返り 第8回　コミュニケーションの基礎①　対人援助に必要な人間の関係性とコミュニケーション機能の理解、ラポール確立のための面接者の態度；視線、姿勢、癖、空間、表情、スピード等（ビデオ） 第9回　コミュニケーションの基礎②　ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際；自分のノンバーバルコミュニケーションの点検 第10回　コミュニケーションの基礎③　対人援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、面接におけるラポールと傾聴の重要性（ビデオ） 第11回　コミュニケーションの基礎④　日常会話と面接場面でのバーバルコミュニケーションの実際 第12回　コミュニケーション技法と面接の基礎①　促しの技法、繰返しの技法、要約の技法、 第13回　コミュニケーション技法と面接の基礎②　共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法 第14回　コミュニケーション技法と面接の基礎③　ロールプレイ 第15回　まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行う。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行う。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行う。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応する。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用する。
参考図書	岩間伸之『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008
事前・事後学修	【事前学修】 ・第12回授業終了後に、次回の発表準備をしておくこと。 【事後学修】 ・第7・9回授業後には、ビデオ教材から学んだことを記入シートに整理しておくこと。 ・第3・6・11回授業終了後に、小レポートを作成すること。（160分＝4か回分を要する） ・第13回授業終了後に、逐語録等を作成すること。（160分＝4回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　※社会福祉学科
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の2つの内容に焦点化する。
到達目標	１．自己覚知の必要性を理解し、それを深める。 ２．受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 ３．相談援助における価値と倫理について理解を深める。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘、村上武敏 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション 第２回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理） 第３回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義） 第４回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正） 第５回：自他の価値 ①（価値と価値観） 第６回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値） 第７回：自他の価値 ③（価値の形成） 第８回：自他の価値 ④（価値の変位） 第９回：自他の価値 ⑤（価値の定着） 第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則） 第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション） 第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用） 第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化） 第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える） 第15回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	WEBCLASSを活用した、資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開等を行います。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、 前半レポート：40%、後半レポート：30% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	演習グループに教員が随時関与しフィードバックします。
指定図書	『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介します。
事前・事後学修	次回演習への準備が事前課題となります。また、次回演習への準備には学びの整理（事後学修）が必須です。課題や授業へのリアクションを期日までにWebClassに提出します（目安時間40分） 9回目終了時に前半レポート、15回終了時に期末レポートを提出します。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学科：2705研究室）時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の２つの内容に焦点化する。
到達目標	１．自己覚知の必要性を理解し、それを深める。 ２．受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 ３．相談援助における価値と倫理について理解を深める。
授業計画	＜担当教員名＞　落合克能 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション 第２回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理） 第３回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義） 第４回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正） 第５回：自他の価値 ①（価値と価値観） 第６回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値） 第７回：自他の価値 ③（価値の形成） 第８回：自他の価値 ④（価値の変位） 第９回：自他の価値 ⑤（価値の定着） 第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則） 第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション） 第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用） 第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化） 第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える） 第15回：まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、WEBCLASS を活用します。
授業内の ICT 活用	WEBCLASS を活用した、資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開等を行います。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、前半レポート：40%、後半レポート：30%として評価します。 授業はグループ学習を中心とした形態になります。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 2017
参考図書	授業の際に配布します。
事前・事後学修	【事前学修】第 2 回～第 15 回の授業で必要となる準備（授業内で配布する資料、テキスト等を読む、Webclass に出された事前課題に回答する）をして頂きます。（20 分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して頂きます。（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ　※社会福祉学科
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、様々な事例を用い、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習により、相談援助等の手法（インテークからアセスメント）を理解・習得する。
到達目標	１．高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例を通して相談援助の実際を理解する ２．上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大場義貴、福田俊子 第　１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明）　大場・福田 面接技法の復習　（共感、繰り返し、要約等） 第　２回：社会的排除にかかわる事例の理解　大場・福田 【低所得／高齢者】 第　３回：事例の理解① 事例 VTR 視聴・グループワーク　大場・福田 第　４回：事例の理解② 対象者および家族とのインテーク面談に関する検討　大場・福田 第　５回：インテーク場面のロールプレイ　／　対象者の情報整理　大場・福田 第　６回：アセスメントの理解　／　アセスメントの実施①　大場・福田 第　７回：アセスメントの実施②　／　支援計画作成に関する理解　大場・福田 第　８回：アセスメントの必要性理解が深まる複数の高齢者事例の検討　大場・福田 【児童・家庭／知的障害／低所得】 第　９回：事例の理解①　／インテーク項目の検討①　大場・福田 第１０回：事例の理解②　／インテーク項目の検討②　大場・福田 第　１１回：インテーク場面のロールプレイ①　大場・福田 第　１２回：インテーク場面のロールプレイ②　大場・福田 第　１３回：ロールプレイを踏まえた、インテーク項目の検討とアセスメント　大場・福田 第　１４回：児童（発達障害事例）のアセスメント　大場・福田 第１５回：まとめ　大場・福田

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、WebClassを活用します。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWeb Classを介して行います。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Web Classへのリアクション・事後学修課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回の授業で必要となる準備（授業内で配布する資料、Webclassに出された事前課題に回答する）をして頂きます。（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して頂きます。(20分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ　　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの手法（インテークからアセスメント）を、様々な事例を用い理解・習得する。
到達目標	１．高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例をとおして相談援助の実際を理解する ２．上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　落合克能 第　１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 面接技法の復習　（共感、繰り返し、要約等） 第　２回：社会的排除にかかわる事例の理解 【高齢者】 第　３回：事例の理解① 事例 VTR 視聴・グループワーク 第　４回：事例の理解② 対象者および家族とのインテーク面談に関する検討 第　５回：インテーク場面のロールプレイ　／　対象者の情報整理 第　６回：アセスメントの理解　／　アセスメントの実施① 第　７回：アセスメントの実施②　／　支援計画作成に関する理解 第　８回：アセスメントの必要性理解が深まる複数の高齢者事例の検討 【児童・家庭／知的障害／低所得】 第　９回：事例の理解①　／インテーク項目の検討① 第１０回：事例の理解②　／インテーク項目の検討② 第　１１回：インテーク場面のロールプレイ① 第　１２回：インテーク場面のロールプレイ② 第　１３回：ロールプレイを踏まえた、インテーク項目の検討とアセスメント 第　１４回：児童（発達障害事例）のアセスメント 第１５回：まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションを行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、WEBCLASSを活用します。
授業内のICT活用	WEBCLASSを活用した、資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開等を行います。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②WEBCLASSへのリアクション・事後学修課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回の授業で必要となる準備（授業内で配布する資料、テキスト等を読む、Webclassに出された事前課題に回答する）をして頂きます。(20分) 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して頂きます。(20分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。事前にメールで連絡をしてください。
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
科目責任者	落合　克能
単位数他	１単位（30 時間）　社福・介護　選択　３～４セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実習の事前指導として位置づけられる。 ３セメスターでは、学生が希望する実習先を選択できるよう、各領域・実習先の概要、実習で必要とされるソーシャルワークの知識と技術等について、現場の専門職による講義をとおして学習する。希望する実習領域・実習先が確定する４セメスターでは、それぞれで必要とされる知識・技術についてグループ学習を行う
到達目標	実践で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できることをめざす。あわせてグループ学習をとおして他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。 １．実習の意義、目的等を理解する。 ２．自分の関心に沿った実習先を選択する上で必要となる知識と技術を習得する。 ３．配属実習を行う際に必要となる実際的な知識、技術等を習得する。
授業計画	＜担当教員＞落合克能、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子 ＜授業内容・テーマ等＞ **【3セメスター】** 第１回：ソーシャルワーク実習の意義と目的・目標　落合 **実習の分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会における実習形態　各領域担当者** 第２回：外部講師による実習先を選択する上での学習　①こども領域　坂本 第３回：〃　②障がい領域（知的等）　川向 第４回：〃　③障がい領域（救護等）　福田 第５回：〃　④高齢者領域　落合・村上 第６回：〃　⑤社協領域　佐藤 第７回：全体オリエンテーション　今後のスケジュール　落合 担当教員による領域別説明会　各領域担当 各領域の実習先の活動内容・特徴の理解、実習生としての課題の理解 第８回：担当教員による領域別説明会　各領域担当 担当教員による相談会 第９回：実習達成課題　落合 **【4セメスター】** 第 10 回：領域別学習　実習領域と施設・機関・団体に関する基本的な理解　各領域担当 第 11 回：〃　実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する基本的な理解　〃 第 12 回：〃　学習のまとめ　〃 第 13 回：〃　実習先で必要とされるソーシャルワークの知識　〃 第 14 回：〃　実習先で必要とされるソーシャルワークの技術　〃 第 15 回：全体授業　実習計画書の作成について、個人票の書き方について　落合 領域別学習　各領域担当

アクティブラーニング	実習科目である。
授業内のICT活用	各領域ごとの学習内容による。
評価方法	授業参加態度25%、領域別学習課題・レポート75%。
課題に対するフィードバック	各実習領域ごとの個別学習でフィードバックを行う。
指定図書	『社会福祉用語辞典』〈第９版〉ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	今での実習体験を振り返り、ノートを読み直すなどをした上で臨む。３セメの外部講師の授業の前には、必ず予習をして臨む。 ４セメスターの領域別学習の際は、実習先施設・事業所について、自ら課題を設定したうえで制度的・実践的両面での予習・復習を行いながら臨む。　（目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	各領域ごとの学習内容による。
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613研究室 時間帯については初回授業時に提示する。 各領域担当教員のオフィスアワーを確認しておくこと。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高齢者福祉論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	高齢者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 高齢者の精神的・身体的特徴や障害や高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。 高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶとともに相談援助活動において必要となる介高齢者福祉・介護保険制度やその他の社会福祉サービスについて理解する。
到達目標	①保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識を理解できる。 ②現代社会における諸問題について、特に高齢者の特徴を多面的にとらえ、発生問題や経過、解決について説明できる。 ③高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。 ④高齢社会対策についての基礎知識を得る。 ⑤介護保険制度を理解できる。 ⑥高齢者に関する制度や社会福祉サービス活用を、相談援助活動を想定して支援計画を作成できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1回：高齢者を取り巻く社会環境の変遷 第 2回：高齢者福祉制度の発展過程 第 3回：高齢者福祉に関する現代的課題と社会保障制度 第 4回：高齢者の保健福祉の発展と現行制度：小テスト① 第 5回：老人福祉法 第 6回：高齢者虐待の防止　高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 （高齢者虐待防止法） 第 7回：日常生活自立支援事業と成年後見制度：小テスト② 第 8回：高齢者の生活を支える制度と専門職（高齢者福祉と介護保険制度導入の経緯） 第 9回：介護保険制度①：介護保険制度の目的、保険者と被保険者 第10回：介護保険制度②：保険財政と要介護認定の仕組み：小テスト③ 第11回：介護保険制度③：保険給付／居宅サービスの種類 第12回：介護保険制度④：保険給付／施設サービスの種類 第13回：介護保険制度⑤：介護認定審査会、介護保険審査会、国保連の役割：テスト④ 第14回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策／地域支援事業：地域包括ケアシステム 第 15 回：介護実践に関連する諸制度のまとめ（権利擁護事業・個人情報保護）

アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	小テスト5回（25%）、課題・提出物等（15%）、定期試験（60%）
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やWebClassなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座　第3版　13 高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規
参考図書	黒澤貞夫「福祉に学び福祉に尽くす」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習して下さい （事前：事後学修　目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）社福　選択　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。 高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。
到達目標	①高齢者の生活実態をふまえ、高齢者の福祉需要や介護需要について説明できる。 ②認知症ケアや終末期ケアについて基本的な考え方を習得し、人間観と倫理について学ぶ。 ③高齢者の心身の状態に応じた住環境について理解し、他者に伝えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護の概念や対象：介護等に関する諸問題・実践構造・社会と生活のしくみ 第 2 回：介護の理念：高齢者の生活実態（福祉需要） 第 3 回：介護の対象：要介護高齢者や認知症高齢者の生活実態（介護需要・介護の概念や対象） 第 4 回：介護各論①：自立支援(自立に向けた介護) 第 5 回：介護各論②：家事における自立支援 第 6 回：介護各論③：介護技術（移動・食事・入浴・排泄他） 第 7 回：認知症ケア①：認知症ケアの基本的考え方 第 8 回：認知症ケア②：介護する家族の支援・認知症高齢者を取り巻く地域支援 第 9 回：終末期ケア・介護過程 第 10 回：障害者福祉と障害者保健福祉制度 第 11 回：高齢者支援の方法と実際 第 12 回：高齢者を支援する専門職の役割と実際 第 13 回：高齢者を支援する組織と役割①：行政機関の役割・社会福祉協議会 第 14 回：高齢者を支援する組織と役割②：ボランティア団体・非営利民間活動 第 15 回：高齢者を支援する組織と役割③：地域共生社会の実現に向けた制度や施策

アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	小テスト5回（25%）、課題・提出物等（15%）、定期試験（60%）
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やWebclassなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座　第3版 13 高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規
参考図書	パットムーア「私は三年間老人だった」朝日出版社
事前・事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので40分程度準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習として40分程度をして下さい
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	障害者福祉論
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位（30 時間）　社福　介護　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害の概念つまり「障害とは何か」を理解し、障がいのある人の生活を理解する科目である。障がいのある人に関わる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活にかかわる思想・価値、人権についての理解を目的とする。 障害の基礎的理解「障害」という概念形成や暮らしの歴史、障害のある人をとりまく社会環境と制度施策に焦点化し、「障害」の全体像を解説する。事例、先行文献、視覚教材等を用いて講義を行う。
到達目標	１．「障害」とは何か、「障害児・者」の定義が説明できる。 ２．障がいのある人が置かれてきた歴史を説明できる。 ３．障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。 ４．障害者総合支援法（障害者自立支援法）の意義・現状・課題が説明できる。 ５．障がいのある人への支援について、法制度とサービスの関連づけを説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回 ：障害の基礎的理解(1)（「障害者」とは誰か） 第２回 ：障害の基礎的理解(2)「障害（者）」の定義と概念（ICIDH と ICF の特徴） 第３回 ：障がいのある人が置かれた歴史的状況と障害者運動の歩み 第４回 ：障害者福祉の理念（自立） 第５回 ：障害者福祉の理念（ノーマライゼーション） 第６回 ：社会福祉基礎構造改革と障害者福祉の方向性 第７回 ：障害者福祉にかかわる法体系 第８回 ：障害者総合支援法（理念と考え方） 第９回 ：障害者総合支援法（サービス体系・財源・自己負担） 第 10 回：障がいのある人を支援する機関と専門職、多職種連携 第 11 回：身体に障がいのある人への支援 第 12 回：知的な障がいのある人への支援 第 13 回：精神に障がいのある人への支援 第 14 回：障害者関連施策と地域サポート体制（雇用・住宅・教育等） 第 15 回：障がいのある人と人権

アクティブラーニング	小テストを実施します。
授業内のICT活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。
評価方法	授業態度：20%、レポート：40%、定期試験：40%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーでフィードバックを行います。
指定図書	・新・社会福祉士養成講座14『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規 ・『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房 ・初回授業でレポート課題のための図書を指定します。
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	「ハンセン病問題」に関連した書籍を読み、レポートを授業最終回に提出します。初回授業時に詳細を説明します。 【事前】毎回簡単な事前課題を提示致します。また、指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後】授業の中で指摘したキーワードを調べ、Webclassに提出すること。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	児童・家庭福祉論
科目責任者	小楠　禮司
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	（社福・介護）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （こども）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子ども家庭福祉の理念を歴史と現代に学ぶ。今実社会でおきている「貧困」や「児童虐待」などの社会的諸問題を洞察分析し、理解する。2016 年改正児童福祉法が明記した基本理念をよく読んで、「子どもの権利」から「子ども・子育て支援」を考える。
到達目標	1 子ども家庭福祉における基本的な知識を修得する。 2「児童虐待」や「子どもの貧困」など社会的課題について、調査、観察、分析そして判断する『自分の眼』を養成する。 3 社会的養育について識見を養成する。 4 多種多様な子ども家庭福祉の専門職と連携できるように識見を修得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　序説　「子どものいる現場の数々　～見ているけれど見えてこない～」 第 2 回：　「児童福祉から子ども家庭福祉」というコンセプトからの導入 第 3 回：　子ども家庭福祉の発展　～歴史から学ぶ 第 4 回：　子ども家庭福祉の現状と計画的進展　～社会的視座から学ぶ 第 5 回：　子ども家庭福祉にかかわる法制度 第 6 回：　子ども家庭福祉の専門職と倫理 第 7 回：　子ども・子育て支援制度と権利擁護（2016 年改正児童福祉法が切り拓いたもの） 第 8 回：　「子どもの貧困」の現状と課題 第 9 回：　「母子保健」・「障害児支援」 第 10 回：「社会的養護」のしくみと実施体系 第 11 回：「非行」「情緒障がい」の理解 第 12 回：児童虐待の現状と課題と予防 第 13 回：「社会的養育ビジョン」が示したもの　～家庭養育優先の理念と里親制度 第 14 回：児童虐待の事例に気づきからの検証 第 15 回：子ども家庭福祉にかかわる専門職群 ※1　毎回の授業終了時のリアクションペーパーに、①理解チェック尺度（ミニテスト）の回答を記入の上、提出してください。（設問はＰＰの最終に記載します。） ※2　上記と同時に、②課題レポートの用紙を配布します。次回授業開始前までに提出してください。（課題は授業の最後に板書します。）

アクティブラーニング	○プレゼンテーション　…　毎授業の前半に、当日の授業テーマの予習発表を５分間でスピーチしてもらいます。（発表方法は各自自由） ○グループワーク　…　１つのテーマを皆で討議する分散会方式。
授業内のICT活用	なし
評価方法	・①理解チェック尺度（ミニテスト）…50%　　②課題レポート…50% ・上記２つを勘案しながら総合評価する。 ・レポートの評価にルーブリックを用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに対して、課題の解題等のコメントなどを通して、教室内ワンチームで理解を共有する。
指定図書	第7版『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』（中央法規出版株式会社）
参考図書	授業中に随時紹介
事前・事後学修	・事前学習　教科書等を熟読（授業終了時に次回講義の教科書該当部分を提示する。） ・事後学習　毎授業後提示する課題レポートを次回授業開始前までに提出する。 ・事前・事後学習 40 分
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は、「児童相談所」「生活保護査察」「家庭児童相談室」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域福祉論Ⅰ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	（社福・介護）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （こども）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	近年、特に社会福祉法成立により、地域福祉は社会福祉の一分野にとどまらず、社会福祉の今後のあり方に関わる概念として重視されている。そこでこの科目では主に地域福祉の理論について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、現代社会に生起する諸問題について、地域社会における生活との関わりで理解し、その解決の現状について説明できることを目指す。 １．地域福祉の発展過程について理解できる ２．地域福祉の基本的考え方について理解できる ３．地域福祉の主体と対象について理解できる ４．地域福祉に係る組織、団体、専門職の役割と実際について理解できる ５．地域福祉計画、地域福祉の財源ついて理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：ガイダンス 、ビデオ視聴 第２回：地域社会と生活 第３回：地域福祉が重視される背景と展開 ①地域福祉の源流 第４回：　〃　②戦後社会福祉の発展と地域福祉 第５回：近年の地域福祉政策の動向と課題 第６回：地域共生社会の実現に向けた制度、施策 第７回：地域福祉の概要理解　日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 ゲストスピーカー　三方原地区社協会長 第８回：中間テスト 地域福祉の基本的考え方① 地域福祉の理念と概念 第９回：地域福祉の基本的考え方② 地域福祉における住民参加の意義 第10回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等① 社会福祉協議会 第11回： 地域福祉に係る組織、団体、専門職等②　民生委員・児童委員 第12回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等③ 社会福祉法人、特定非営利活動法人 第13回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等④ 地方自治体 、行政組織、専門職 第14回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等⑤ 地域福祉推進基礎組織、住民参加型在宅福祉サービス、その他 第15回：地域福祉の財源　共同募金

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・スマホ、パソコンを活用した調べ学習を行う ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出する
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う
指定図書	『地域福祉論　地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論　理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく 2回目、6回目、7回目の授業に向けて、事前レポートを提出する 8回目に中間テストを実施する 10～14回の授業に向けて、特にどういうことに関心があるかまとめる 事後学習：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する 10～14回についてはWebclass内の小テスト（国家試験過去問）に回答する （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	地域福祉論Ⅱ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　社福　介護　選択　　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	地域福祉論Ⅰの「地域福祉の理論」についての学習を踏まえ、本科目では「地域福祉の方法」について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、地域社会とそこで生活する福祉サービスを必要とする人々について、適切なニーズ把握、支援の道筋を指摘できる。 １．地域福祉の動向とソーシャルワークの新たな課題について理解できる ２．地域福祉方法論の発展過程が理解できる ３．地域福祉における地域包括ケアの意義が理解できる ４．地域福祉の具体的な推進方法について指摘できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：ガイダンス　　ビデオ視聴 第２回：近年の社会福祉の動向と実践課題、ソーシャルワークの新たな課題 第３回：　地域福祉の方法論と発展のあゆみ 第４回：コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク 第５回：中間テストおよび解説 第６回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際①地域に根差した多様な実践 第７回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際②日常生活自立支援事業 第８回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際③ ソーシャルサポートネットワークと地域包括ケアシステム 第９回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際①　地域アセスメント 第10回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際②　福祉ニーズの把握、アウトリーチ 第11回：社会資源の活用・調整・開発 第12回：住民参加の意義（復習）とその促進方法 第13回：福祉教育とボランティア育成 第14回：地域福祉計画の概要と意義 第15回：地域における福祉サービス評価と質の確保　　学習のまとめ

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・スマホ、パソコンを活用した調べ学習を行う ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出する
評価方法	定期試験60%、中間テスト20%、課題10%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う
指定図書	『地域福祉論　地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論　理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく 2回目、3回目、6回目、7回目、12回目の授業に向けて、事前レポートを提出する 5回目に中間テストを実施する 事後学習：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する ほぼ毎回Webclass内の小テスト（国家試験過去問）に回答する （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	公的扶助論
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　社福　介護　選択　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	公的扶助は、国が「国民的最低限」の生活を国民に保障する制度であり、その中核をなす生活保護制度は、日本国憲法第 25 条「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という生存権を国家の義務として具体化したもので、あらゆる社会保障制度の基礎となる制度である。 生活とは何か。そして貧困とは何か。それらを明らかにしつつ、公的扶助の社会的意義について考えたい。
到達目標	１．現代社会における貧困の実態と貧困や格差が生じる社会構造を理解する ２．生活保護制度を体系的に理解する ３．公的扶助の社会的意義を歴史的に理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：現代社会における貧困と格差 第 2 回：貧困とは何か（1）現代社会の労働と生活 第 3 回：貧困とは何か（2）貧困理論の歴史 第 4 回：貧困とは何か（3）江口英一・川上昌子の貧困研究から 第 5 回：貧困とは何か（4）貧困の構造的理解（グループワーク） 第 6 回：イギリスにおける公的扶助の歴史 第 7 回：日本における公的扶助の歴史（グループワーク） 第 8 回：生活保護制度（1）基本原理と実施上の原則 第 9 回：生活保護制度（2）保護基準と保護の種類（グループワーク） 第 10 回：生活保護制度（3）保護の機関と費用、被保護者の権利と義務 第 11 回：保護の動向 第 12 回：低所得・貧困層への自立支援政策 第 13 回：生活困窮者自立支援法における事業内容（ゲスト講師） 第 14 回：「自己責任論」その克服に向けて（グループワーク） 第 15 回：まとめ　公的扶助とは何か
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、反転授業、ディスカッション、ディベート、クループワークを実施する。
授業内の ICT 活用	グループワークにおけるスマートフォンの利用を認める。

評価方法	授業への取り組み姿勢　30%、　中間レポート　20%、　定期試験　50%
課題に対するフィードバック	中間レポートについて、授業においてコメントする。
指定図書	『公的扶助論～低所得者に対する支援と生活保護制度』第3版 MINERVA
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	【事前学修】第5回の授業は事前に配布した資料を分析して参加すること。第6回から第11回の授業は事前にテキストを読んで参加すること。第12回から第14回は紹介した参考図書などで授業のテーマについて理解を深めて参加すること。（目安時間40分） 【事後学習】第1回から第15回まで授業で配布した資料をもとに授業内容の振り返りを行うこと。第5回授業終了後1ヶ月以内に、「貧困とは何か」というテーマでレポートを作成し提出すること。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療福祉論
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター　介護・こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	（社福）社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 （介護・こども）保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	疾病にともなう生活問題と国民生活の実態、そして医療ソーシャルワーカーの歴史的任務、そこから保健医療機関における生活相談事業の社会的な必要を明らかにし、医療福祉とは何かを考える。 さらに、保健医療機関における対人援助の方法と、そのための専門職連携および地域のネットワークづくりの視点と方法について学習する。
到達目標	１．医療福祉の歴史と社会的任務を理解する ２．医療福祉の対象とそれを取り巻く社会を理解する ３．医療福祉における実践の理論を学ぶ
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：医療福祉の今日的課題 第 2 回：医療福祉の歴史 第 3 回：医療保険制度 第 4 回：診療報酬制度 第 5 回：医療ソーシャルワーカーの業務 第 6 回：医療機関における各専門職の役割とチーム医療 第 7 回：退院援助（1）その課題 第 8 回：退院援助（2）その展開　（グループワーク） 第 9 回：地域包括ケアと医療福祉のネットワーク　（グループワーク） 第 10 回：医療福祉の理論（1）疾病と貧困の悪循環　（グループワーク） 第 11 回：医療福祉の理論（2）援助論および対象論の課題 第 12 回：医療介護制度改革とソーシャルワーク　（ゲスト講義） 第 13 回：医療法と医療施設の概要 第 14 回：がん医療と医療福祉の課題（グループワーク） 第 15 回：医療福祉とは何か ―その対象と方法
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、反転授業、ディスカッション、ディベート、クループワークを実施する。
授業内の ICT 活用	グループワークにおけるスマートフォンの利用を認める。

評価方法	授業への取り組み姿勢　30%、　中間レポート　20%、　定期試験　50%
課題に対するフィードバック	中間レポートについては授業においてコメントする。
指定図書	秋セメスターガイダンスにおいて提示する。
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	【事前学習】第2回から第14回まで指定図書および授業で紹介した参考図書、配布資料に目を通してくること。（目安時間　40分） 【事後学習】第1回から第15回まで授業で配布した資料をもとに授業内容の振り返りを行うこと。第8回の授業終了後1ヶ月以内に、退院援助事例のアセスメントを文章化し提出すること。（目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	就労支援論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	１単位(15 時間)　選択　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「人が働くということ」を様々な角度から考え、職を得て働き続けることを支える社会の仕組みを学びます。「働くこと」をめぐる「意味」「権利」「自立」「支援」等と社会保障との関連に着目しながら、社会的に不利な立場にある人の就労支援の現状について検討します。
到達目標	１．社会的に不利な立場にある人の就労を支える社会制度の現状について理解する。 ２．個人の生活保障のあり方についての視点をもつ。 ３．以上のことと、社会福祉、労働政策、教育政策、社会的理解との関係と課題を理解する。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション（歴史にみる「人」と「労働」） 第２回：雇用・就労の動向と社会保障の関係 第３回：雇用・就労と社会的支援が必要な人 第４回：就労支援の現状と課題①―障害者と就労支援 第５回：就労支援の現状と課題②―低所得者と就労支援 第６回：就労支援の現状と課題③―生活保護制度の中の就労支援 第７回：就労支援と教育・福祉・労働にかかわる機関と専門職の役割、その連携 第８回：まとめ（社会的に不利な立場にある人と就労支援）

アクティブラーニング	小テストを実施します。
授業内のICT活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。
評価方法	授業態度:２０%、レポート：４０%、定期試験：４０%
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーを用いてフィードバックを行います。
指定図書	MINERVA社会福祉士養テキストブック16「就労支援」ミネルヴァ書房
参考図書	『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	【事前】毎回の授業終了時に提示する次回授業のキーワードを調べておく。 【事後】受講後は使用した資料を整理し、関連する問題等を調べ、毎回WebClassに提出をすること。(目安時間　40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医学概論
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	2 単位（30 時間）選択　 社福　2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造（解剖）と働き（生理）や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常の生活に関連させながら学習を進める。さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリ―テーション、国際生活機能分類（ＩＣＦ）、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などを関連づけて考えていく力を身につける。
到達目標	1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえて理解する 2. 様々な疾病や障害の概要について、日常生活と関連づけて理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する 4. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：授業のガイダンス 身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患　岡田　眞人 第 2 回： 心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧　岡田　眞人 第 3 回：腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患　岡田　眞人 第 4 回：精神の成長・発達、知的障害、発達障害　秋山恵美子 第 5 回：老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族　秋山恵美子 第 6 回：呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策　鈴木千佳代 第 7回：内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患 国民健康づくり対策　鈴木千佳代 第 8回：消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、 血液疾患と膠原病、歯科保健　鈴木千佳代 第 9 回：神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病　鈴木千佳代 第 10 回：認知症、高次脳機能障害、精神障害　鈴木千佳代 第 11 回：支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由　鈴木千佳代 第12 回：感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患　視覚障害、聴覚障害 鈴木千佳代 第13 回：悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、 健康の概念、日本の人口統計、産業保健　鈴木千佳代 第 14 回：リハビリテーション　鈴木千佳代 第15 回：国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方　 まとめ　鈴木千佳代

アクティブラーニング	主体的に参加できるよう工夫をする。 ルーブリックは使用しない。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	試験100%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーにより、学びのポイント、気づきにマークし、次回授業時に疑問に答えフィードバックする。
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：毎回の授業内容をテキストと照合し、ノートにまとめる。第4回、5回授業では、Web Class内ミニッツペーパーに回答し、振り返りを行う。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医師」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健福祉制度論Ⅰ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	1. 精神保健福祉に関する法律や制度の変遷と内容を理解する。 2. 精神保健福祉実践に関する現状と課題および精神保健福祉士の役割について理解する。
到達目標	障害者自立支援法、精神保健福祉法、精神保健福祉士法など、わが国の精神障害者福祉に関係する法律を中心に、その歴史的変遷と内容を理解する。そのうえで、精神保健福祉に関する行政組織、施設・機関の現状および精神保健福祉施策(関連施策を含む)の現状と課題を明らかにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：授業オリエンテーション 第 2 回：精神病者監護法から精神保健法成立までの経緯 第 3 回：精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯 第 4 回：精神保健福祉法成立の意義とその後の変化 第 5 回：障害者自立支援法成立による変化 第 6 回：精神保健福祉法の構成① 第 7 回：精神保健福祉法の構成② 第 8 回：精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割 第 9 回：精神保健福祉法の最近の動向 第 10 回：障害者基本法と精神障害者施策との関わり 第 11 回：障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際 第 12 回：精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際 第 13 回：精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法 第 14 回：相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解 第 15 回：全体の整理

アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向の情報 提供を行います。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	定期試験（筆記試験）60%、課題提出物（リアクションペーパー）20%、議論への参加姿勢 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム(第６版) へるす出版
参考図書	随時紹介
事前・ 事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15 回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14 回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（１～15 回） （事前・事後学修　目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク総論
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 単位）　選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に習得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士①　精神保健福祉士の役割と意義 第 2 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士②　現代社会と精神保健福祉士（ソーシャルワーカーの実践） 第 3 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士③　現代社会と精神保健福祉士（チームアプローチ、他職種連携） 第 4 回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素①　ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの価値・理念と原則 第 5 回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素②　ソーシャルワーク関係における価値、理念と原則 第 6 回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史①　諸外国の歴史 第 7 回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史②　日本の歴史 第 8 回：ソーシャルワーク理論と展開過程①　実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの意義 第 9 回：ソーシャルワーク理論と展開過程②　地域を基盤として生活支援としてのソーシャルワーク 第 10 回：ソーシャルワーク理論と展開過程③　協働作業としてのソーシャルワークの展開過程〈インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施〉　ロールプレイ実施 第 11 回：ソーシャルワーク理論と展開過程④精神科当事者の活動　ゲストスピーカー 第 12 回：ソーシャルワーク理論と展開過程⑤　社会福祉調査・研究 第 13 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク①　チームアプローチと他職種連携（IPW） 第 14 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク②　精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援 第 15 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク③　メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割：
アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向で情報提供を行います。

授業内のICT活用	Webclassによるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	webclassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー③　『精神保健福祉相談援助の基盤〈基礎〉(専門)』 へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（１～15回） （事前・事後学修　目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。 備考：[履修上の注意]　精神保健福祉士指定科目です。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学Ⅰ
科目責任者	山末　英典
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健福祉士は精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際、中心的役割を担うため精神医学に関する知識が欠かせない。本科目では精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などについて学習する。
到達目標	1.　精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解する。 2.　一般的な精神疾患について基礎知識を身に着け、説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等（担当教員名）＞ 第 1 回：ガイダンス・精神医学とは（山末英典） 第 2 回：精神現象の生物学的理解（土屋賢治） 第 3 回：精神医学の歴史・精神障害の概念と分類（土屋賢治） 第 4 回：精神症状学（横倉正倫） 第 5 回：診断の手順と方法（横倉正倫） 第 6 回：精神科で行われる検査法（竹林淳和） 第 7 回：器質性・症状性精神障害（竹林淳和） 第 8 回：中毒性精神障害・依存と嗜癖（和久田智靖） 第 9 回：統合失調症（和久田智靖） 第 10 回：気分障害（うつ病、双極性障害）（桑原斉） 第 11 回：神経症（不安障害、ストレス障害など）（栗田大輔） 第 12 回：摂食障害・睡眠障害・性機能不全（亀野陽亮） 第 13 回：神経発達障害（栗田大輔） 第 14 回：行動と情緒の障害（土屋賢治） 第 15 回：総括（土屋賢治）

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第２版』 中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健学Ⅰ
科目責任者	堀　雅博
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	・精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要を学ぶ。 ・精神保健の視点からみた現代社会における課題とアプローチを、家族、学校教育、勤労者の問題を通して学ぶ。
到達目標	1. 精神の健康についての基本的な考え方と精神保健学の役割について、近代日本社会の変貌を念頭に置きながら理解する。 2. 精神保健福祉士として人々の精神保健を維持・増進するために、専門機関や関係職種の役割と連携について 理解する。
授業計画	【授業内容・テーマ】 ・各回の授業時間の前半は、指定図書に沿って講義を行います。 ・各回の授業時間の後半は、関連した内容・テーマ（＊参照）を解説します。 第 1 回：精神保健の概要と課題　(p1～p14) ＊精神障害の分類 第 2 回：精神の健康とその要因①　社会構造の変化と新しい健康観(p15～p23) 第 3 回：精神の健康とその要因②　ﾗｲﾌｻｲｸﾙと精神の健康(p24～p35) 第 4 回：精神の健康とその要因③　ｽﾄﾚｽと精神の健康(p36～p40) 第 5 回：精神の健康とその要因④　生活習慣と精神の健康／精神の健康･精神疾患(p41～p50) 第 6 回：精神の健康への関与と支援　(p51～p75) 第 7 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の家族特徴／結婚生活／出産･育児(p77～p101) ＊2～7 回：精神障害者を主人公とした映画を供覧し、症状や治療法などを解説 第 8 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　社会的ひきこもり／病気療養と介護／高齢者(p102～p116) 第 9 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ③　相談する機関／精神保健福祉士の役割(p117～p133) ＊8～9 回：認知症 第 10 回：学校教育の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の学校教育と生徒児童の特徴(p135～p161) ＊統合失調症 第 11 回：学校教育の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　教職員の精神保健／専門職と関係法規(p162～p177) ＊病跡学（芸術と精神障害） 第 12 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の労働環境(p179～p185) ＊うつ病・躁うつ病 第 13 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　うつ病と過労自殺(p186～p192) ＊アルコール依存症・その他の薬物依存症 第 14 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ③　飲酒やｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ／心身症と生活習慣病(p193～p203) ＊精神障害者の人権・関連法規 第 15 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ④　問題解決のための機関と法規／PSW の役割(p204～p216) ＊神経症

アクティブラーニング	授業中に適宜、ディスカッションの機会を設けます。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験(65%)とレポート(35%)の評価を総合的に判断し、合否を決定します。 レポートのテーマと作成の要点については授業中に随時指示します。 なお、レポートのテーマの特性上、ルーブリックを用いた評価は行いません。
課題に対するフィードバック	個々のリアクションペーパーを総括し、次回の授業の冒頭に総合的なコメントを行います。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第2巻　精神保健の課題と支援』(第3版) 中央法規出版
参考図書	授業中に随時指示します。
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前に該当ページに目を通してきてください。 各回の授業内容をまとめたプリントを配布しますので、事後学修に利用してください。 1コマあたりの事前・事後学修時間の目安は、合計約40分とします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は精神科医師の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健学Ⅱ
科目責任者	山田　谷一
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 ・WHO などの国際機関や諸外国における精神保健活動の現状と対策について理解する。
到達目標	1. 精神保健の視点から見た現代社会の課題における精神保健学上の課題や対策を学び、精神保健福祉士の役割を理解する。 2. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題を学び、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割①　発達障害者に対する対策 第 2 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割②　アルコール問題/薬物依存対策 第 3 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割③　うつ病と自殺防止対策 第 4 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割④　認知症高齢者に対する対策 第 5 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑤　社会的ひきこもりに対する対策 第 6 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑥　災害時の精神保健に対する対策/PSW の役割 第 7 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ① 現代社会と精神保健/災害被災者の精神保健／犯罪被害者の精神保健 第 8 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ② ニート・若年無業者と精神保健／ホームレス及び貧困問題と精神保健 第 9 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③ 性別違和と精神保健／多文化と精神保健 第 10 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④　緩和ケアと精神保健 第 11 回：地域精神保健に関する諸活動①　精神保健に関する調査／資源開発 第 12 回：地域精神保健に関する諸活動②　ネットワークづくり 第 13 回：地域精神保健に関する諸活動③　地域精神保健と関係法規/精神保健に関する人材育成 第 14 回：諸外国の精神保健活動の現状及び対策 世界の精神保健の実情／WHO などの国際機関の活動 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度10%、リアクションペーパー10%、筆記試験80%　計100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、筆記試験の結果と復習の提示
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第2巻　精神保健の課題と支援』第3版　中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。 事後学修としては各回の授業内容のプリントを配布しますので、復習に利用してください。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は精神衛生相談員等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅰ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 介護を必要とする人の理解を深め、生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。
到達目標	１．尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明ができる。 ２．介護福祉の基本となる理念を基本にすえた生活支援について考えることができる。 ３．介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえ考えることができる。 ４．介護を必要とする障がいのある方や高齢者の暮らしの実際を理解する。 ５．介護を必要とする人の生活環境を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：　介護とは・介護福祉の基本となる理念とは 第　2 回：　介護の概念・定義、介護福祉の理念とは 第　3 回：　「介護」の見方・考え方の変化 第　4 回：　介護問題の背景 第　5 回：　介護の専門性（介護福祉の基本理念） 第　6 回：　介護を必要とする人に合わせた生活支援（介護福祉の基本理念と利用者の個別性） 第　7 回：　介護を必要とする人の理解 第　8 回：　他者への共感的かかわり（他者理解･自己理解） 第　9 回：　私たちの生活の理解（介護を必要とする人の生活の理解） 第 10 回：　高齢者や障害のある人たちの暮らしと介護 第 11 回：「そのひとらしさ」と「生活ニーズの理解」 第 12 回：　介護を必要とする人の生活環境の理解 第 13 回：事例で考える介護福祉の基本となる理念（人間の尊厳保持や自立支援）実践 第 14 回：　事例で考える個別支援（介護を必要とする人の理解と支援） 第 15 回：　自らの「介護観」をはぐくむことの重要性
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 60%、課題提出物（レポート、リアクションペーパー）20%、小テスト 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。

指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ』中央法規
参考図書	授業時に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。なお、5 回、10 回、15 回目には小テストを行うため、その事前学修もしておくこと。(40 分) 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅱ
科目責任者	植田　裕太朗
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	地域を基盤とした生活の継続性を支援するために、尊厳を支える介護や自立に向けた介護を理解するための学習とする。 対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICF の概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。 2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の介護実践について考える。 第 2 回：身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。 第 3 回：感情労働としての介護を理解する。 第 4 回：尊厳を支える介護　QOL（Quality of Life）について理解する。 第 5 回：ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。 第 6 回：自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。 第 7 回：生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。 第 8 回：介護における ICF のとらえ方について理解する。 第 9 回：ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。 第 10 回：自立に向けた介護　介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。 第 11 回：リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援介護について理解する。 第 12 回：リハビリテーション専門職との連携について理解する。 第 13 回：自立支援介護の実践例をみて、その支援方法を理解する。 第 14 回：事例をもとに、病院・施設でのリハビリテーションについて理解する。 第 15 回：事例をもとに、在宅でのリハビリテーションについて理解する

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」中央法規出版
参考図書	授業中に随時提示
事前・事後学修	事前学修 ・シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) ・授業前に提示した事前課題を行うこと(8～10回目) 事後学習 ・授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分) ・授業後に提示した小テストを行うこと(11回目)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校所属の植田裕太朗研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅲ
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護福祉士に求められる倫理、役割と機能を理解し、その倫理観や自立した生活を支える介護に必要な能力を身につけることを目的とする。 介護福祉士の役割と機能について解説するとともに、介護サービスの内容と提供方法および利用方法について講義を行う。尊厳の保持や自立に向けた介護のあり方についても学びを深める。
到達目標	1. 介護福祉士に求められる倫理について説明できる。 2. 生活支援における介護福祉士の役割と機能について説明できる。 3. 様々なニーズを抱える利用者に対して提供する生活支援について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：介護福祉士に求められる倫理 日本介護福祉士会倫理綱領（介護従事者の職業倫理・プライバシー保護　個人情報保護） 第２回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 第３回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義（名称独占・業務独占） 第４回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の役割と機能 第５回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割と機能 第６回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待　他） 第７回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性 第８回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方 第９回：尊厳ある介護実践の意義と利用者の QOL 第 10 回：ICF の視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴〈生活意欲・エンパワメント〉 第 11 回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み 第 12 回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準） 第 13 回：介護サービスの概要　居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性 第 14 回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防） 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%、計100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15回） 目安時間40分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅳ（19SS 生）
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している
科目概要	「尊厳の保持」「自立支援」の介護の考え方を理解するとともに、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 介護福祉実践において、協働する多職種の機能と役割について理解を深め、さらに介護従事者の安全、介護従事者の心身の健康管理について実践例を紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 介護福祉実践における協働する多職種の機能と役割について説明できる。 2. 介護従事者の完全、心身の健康管理の方策について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護を必要とする人の生活を支えるための介護実践における連携の意義と目的について理解する。 第 2 回：多職種連携（チームアプローチ）について理解する。 第 3 回：協働する多職種の機能と役割について理解する。 第 4 回：協働する多職種の機能と役割のあり方と連携について理解する。 第 5 回：利用者を取り巻く多職種連携の実際について理解する。 第 6 回：実践例をもとに、利用者を取り巻く多職種連携について理解を深める。 第 7 回：地域連携の意義について理解する。 第 8 回：地域連携の目的について理解する。 第 9 回：地域連携にかかわる機関について理解する。 第 10 回：地域連携にかかわるインフォーマルなサービスについて理解する。 第 11 回：利用者を取り巻く地域連携の実際について理解する。 第 12 回：介護従事者の安全について理解する。 第 13 回：実践例をもとに、介護従事者の安全について理解を深める。 第 14 回：介護従事者の心身の健康管理について理解する。 第 15 回：　実践例をもとに、介護従事者の心身の健康管理について理解を深める。

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%、計100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15回） 目安時間40分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅰ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他学科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するための基礎となるもので人間関係の成立過程、課題解決課程の中の人間関係の成立過程に注目した科目である。おもに対象者理解に焦点をあてて学習する。
到達目標	1. 介護過程の意義を理解できる 2. 人間関係の成立過程の基礎である自己理解、他者理解、ができる。 3. 対象者のくらし、時代の背景が理解できる。 4. かかわりの意義を理解できる 5. プロセスレコードを用いて人間関係を形成できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ガイダンス：介護過程の意義と基礎的理解・・・介護過程の目的 第 2 回 利用者理解：「関心」かんしんとは・・・マザーテレサの世界 第 3 回 利用者理解：かんしんを持つとは・・・GW発表 第 4 回 利用者理解：くらしとは何か・私の「くらし」あなたの「くらし」こころの花束 第 5 回 利用者理解：利用者（対象者）の「くらし」　生きてきた時代の理解 第 6 回 利用者理解：「くらし」　60 代、70 代、80 代の時代の違いの理解 第 7 回 利用者理解：「私（　高齢者の名前　）の青春」・・　発表会 第 8 回 人間関係形成：かかわり（観察）の重要性 偏見とは・・　思い込み　正常異常　認知症老人の詩 第 9 回 人間関係形成：自己理解・他者理解 第 10 回人間関係形成：介護過程は人間関係から成り立つ　　プロセスレコード 第 11 回人間関係形成：プロセスレコード　　講義 第 12 回人間関係形成：プロセスレコード　　演習 第 13 回人間関係形成：介護過程の視点に気づく、 第 14 回人間関係形成：気づきを介護過程の展開に活かす 第 15 回レクリエーション及びまとめ

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45%　1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規出版
参考図書	森　繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅱ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他学科で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うための基礎的学習を行う。課題解決過程の各構成要素を理解し、実習前のシミュレーションとしてロールプレイを行う。
到達目標	1. 介護過程展開の意義、目的、目標及びサイクルを理解できる。 2. 構成要素のアセスメントの目的、方法が習得できる。 3. 構成要素の計画の立案の目的、方法が習得できる。 4. 構成要素の実施、評価の意義、方法、視点の理解ができる。 5. 事例を通して一連の流れを理解する 6. ロールプレイを取り入れ①情報収集、②情報の分析・解釈、③計画立案、④実施、⑤評価の一連の流れをシミュレーションできる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス　介護過程Ⅰの振り返り、介護過程の意義と基礎的理解・目的・目標及びサイクル 第 2 回：介護過程の課題解決過程のための構成要素 第 3 回：情報収集の目的、方法、「かかわる」（観察の方法） 第 4 回：情報の解釈・分析　それぞれの情報をどう統合させるか 情報の解釈・分析　統合された情報からどのような課題が見出せるか 第 5 回：計画の立案　介護者が見出した課題と対象者の思いはどのように違うか 第 6 回：計画の立案　　長期目標・短期目標の視点、妥当性　具体的な計画の立て方 第 7 回：実施、評価、展開 第 8 回：事例：グループワーク　ロールプレイ演習、情報収集 第 9 回：事例：グループワーク　情報のまとめ 第 10 回：事例：介護過程とチームアプローチ/チームとしての介護過程の展開 第 11 回：事例：解釈・分析（個人） 第 12 回：事例：計画の立案（個人） 第 13 回：事例：ロールプレイ演習、実施、（個人）」 第 14 回：事例：評価 第 15 回：事例：展開

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。。
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45%　1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規出版
参考図書	宮島 渡「認知症ケア ひもときシート“アシスト”: BPSD改善ガイド」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	認知症の理解Ⅰ
科目責任者	植田　裕太朗
単位数他	２単位数（30 時間）　必修　介護　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、認知症の人の取り巻く状況や原因疾患、主要な症状について習得する科目である。 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を学習し、認知症の原因となる疾患及び心身の変化や心理症状を理解する。さらに、認知症を取り巻く状況を理解するために、認知症のケアの歴史や理念、社会的環境についても学ぶ。
到達目標	1. 認知症の取り巻く状況を理解し、社会的環境について学ぶことができる。 2. 認知症の医学的・心理的側面に関する基礎的知識を習得し、述べることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：認知症を取り巻く状況(1)　認知とは、認知症の定義について 第 2 回：認知症を取り巻く状況(2)　認知症ケアの歴史、理念 第 3 回：認知症を取り巻く状況(3)　認知症高齢者に向けた政策 第 4 回：認知症に関する主要な症状(1)　中核症状(1) 記憶障害、見当識障害 第 5 回：認知症に関する主要な症状(2)　中核症状(2) 失語、失行、失認、実行機能障害等 第 6 回：認知症に関する主要な症状(3)　周辺症状(1) 心理症状 第 7 回：認知症に関する主要な症状(4)　周辺症状(2) 行動症状 第 8 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(1)　認知機能の変化が生活に及ぼす影響 第 9 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(2)　認知機能の変化が心理状態に及ぼす影響 第 10 回：認知症の原因となる病気(1)　アルツハイマー型認知症 第 11 回：認知症の原因となる病気(2)　脳血管性認知症 第 12 回：認知症の原因となる病気(3)　レビー小体型認知症、ピック病 第 13 回：認知症の原因となる病気(4)　クロイツフェルト・ヤコブ病、アルコール性認知症 第 14 回：認知症の原因となる病気(5)　若年性認知症 第 15 回：認知症で行われる検査、治療

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座13　認知症の理解』　中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) ・授業前に提示した事前課題を行うこと(8～10回目) 事後学習 ・授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分) ・授業後に提示した小テストを行うこと(11回目)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校所属の植田裕太朗研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだⅠ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために、対人援助に必要な人間の心理について、適切な用語で説明できる。 2. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護技術の根拠となる人体の構造や機能について、適切な用語で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：こころのしくみの理解(1)　健康とは何かについて理解する。 第 2 回：こころのしくみの理解(2)　人間の欲求、自己概念と尊厳について理解する。 第 3 回：こころのしくみの理解(3)　こころのしくみの基礎について理解する。 第 4 回：こころのしくみの理解(4)　認知のしくみについて理解する。 第 5 回：こころのしくみの理解(5)　意欲・動機づけのしくみについて理解する。 第 6 回：こころのしくみの理解(6)　適応のしくみ、防衛機制について理解する。 第 7 回：からだのしくみの理解(1)　からだのしくみの基礎について理解する。 第 8 回：からだのしくみの理解(2)　神経系の名称について理解する。 第 9 回：からだのしくみの理解(3)　骨・筋系の名称について理解する。 第 10 回：からだのしくみの理解(4)　感覚器系の名称について理解する。 第 11 回：からだのしくみの理解(5)　呼吸器・消化器系の名称について理解する。 第 12 回：からだのしくみの理解(6)　生殖器・内分泌系の名称について理解する。 第 13 回：からだのしくみの理解(7)　循環器系の名称について理解する。 第 14 回：からだのしくみの理解(8)　からだの動き、関節の運動と関節可動域について理解する。 第 15 回：からだのしくみの理解(9)　ボディメカニクスについて理解する。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classで提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座11巻「こころとからだのしくみ」中央法規出版
参考図書	必要時、理解しやすい「解剖生理学」等の書籍を適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3回、5回、7回、9回、11回、13回）の確認小テストの準備をする。（40分） 事後学修：毎回授業後にWeb Class内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだⅡ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 移動、身じたく、食事の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたく、食事に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：移動に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 2 回：移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 3 回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響について理解する。 第 4 回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第 5 回：移動能力向上が生活に与える影響を理解する。 第 6 回：身じたくに関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 7 回：身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 8 回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響について理解する。 第 9 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 10 回：咀嚼と嚥下から口腔機能について理解する。 第 11 回：食事に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 12 回：食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 13 回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響について理解する。 第 14 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 15 回：食事摂取能力向上が生活に与える影響を理解する。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは Web Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20%　　定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 11 巻「こころとからだのしくみ」中央法規出版
参考図書	必要時、理解しやすい「解剖生理学」等の書籍を適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療的ケアⅠ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。 本科目では、医療的ケアに関係する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケアⅡにつなげる。
到達目標	１．医療的ケアとはどういうものか説明できる。 ２．介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について説明できる。 ３．医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 医療的ケア実施の基礎 第 1 回：ガイダンス　医療的ケアとは 第 2 回：医行為について 第 3 回：喀痰吸引等制度（社会福祉士および介護福祉士法の改正） 第 4 回：医療的ケアと喀痰吸引等の背景 第 5 回：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 第 6 回：救急蘇生 第 7 回：感染予防 第 8 回：介護職の感染予防 第 9 回：「清潔保持と感染予防（ガウンテクニック、使い捨て手袋など」　演習 第 10 回：療養環境の清潔、消毒法／消毒と滅菌 第 11 回：身体・精神の健康／健康状態を知る項目／急変状態について 第 12 回：「バイタルサインの見方」演習 第 13 回：呼吸器のしくみ 第 14 回：消化器のしくみ 第 15 回：医療的ケア実施の基礎について

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは Web Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20%　　定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅰ
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（60 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「居住環境整備」「移動」「身じたく」について、介護場面での支援方法を学ぶ。
到達目標	1.「居住環境整備」「移動」「身じたく」の意義を理解し説明できる。 2. 役割モデルを対象に、ベッドメイキング、移動、身じたくの支援を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：ガイダンス、生活とは何か、生活支援の理解 第　2 回：自立に向けた居住環境の整備、安全で心地よい生活の場づくり、ボディメカニクス 第　3 回：ベッドメイキング講義、ベッドメイキング（2 人で行う①） 第　4 回：ベッドメイキング（2 人で行う②） 第　5 回：ベッドメイキング（2 人で行う③） 第　6 回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合①） 第　7 回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合②） 第　8 回：実技確認　ベッドメイキング 第　9 回：自立へ向けた移動の介護、移動の意義と目的、 安全で気兼ねなく動けることを支える介護 第 10 回：車いすの基本知識、使用方法、ベッド上での移動 第 11 回：起き上がりの介護、立ち上がりの介護 第 12 回：移乗の介護（端座位⇔車いす） 第 13 回：移乗の介護（仰臥位⇔車いす） 第 14 回：移乗の介護（椅座位⇔車いす） 第 15 回：移乗の介護（福祉用具を用いた移乗） 第 16 回：実技確認　移動の介助、移乗の介助 第 17 回：車いすでの移動　講義 第 18 回：車いすでの移動　演習 第 19 回：2 動作歩行、3 動作歩行、杖歩行の方法 第 20 回：歩行、杖歩行の介護 第 21 回：実技確認　歩行、杖歩行の介護 第 22 回：自立に向けた身じたくの介護、身じたくの意義と目的、 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 第 23 回：衣服の着脱介護（座位、かぶり） 第 24 回：衣服の着脱介護（座位、前開き） 第 25 回：衣服の着脱介護（臥位） 第 26 回：実技確認　衣類の着脱介護 第 27 回：整容行動に関するアセスメントと介助の技法 第 28 回：整容　演習 第 29 回：口腔ケア　演習 第 30 回：まとめ

アクティブラーニング	本授業は、ロールプレイング、実技演習を取り入れて行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%、計100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたうえで留意点と根拠を整理しておく（2～29回） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（1～30回） 目安時間 40分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅱ
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（60 時間）選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と倫理的表現力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」について、介護場面での支援方法を学ぶ。
到達目標	1. 入浴・清潔保持、排泄、食事の意義と目的を理解し、基本的な支援方法について修得し、役割モデルを対象に支援を行うことができる。 2. 自らの役割を理解し、必要に応じて他の職種と協働することを説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：ガイダンス、生活支援の理解、自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第　2 回：入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント、さまざまな入浴介助の方法 第　3 回：入浴・清潔保持（シャワー浴①） 第　4 回：入浴・清潔保持（シャワー浴②） 第　5 回：入浴・清潔保持（個別浴槽①） 第　6 回：入浴・清潔保持（個別浴槽②） 第　7 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽①） 第　8 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽②） 第　9 回：入浴・清潔保持（部分浴：手浴） 第 10 回：入浴・清潔保持（部分浴：足浴） 第 11 回：入浴・清潔保持（ベッド上での洗髪） 第 12 回：入浴・清潔保持（清拭） 第 13 回：入浴・清潔保持の介護のまとめ 第 14 回：自立に向けた排泄の介護、意義・目的、利用者のアセスメント 第 15 回：排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、他の職種の役割と協働 第 16 回：トイレでの排泄① 第 17 回：トイレでの排泄② 第 18 回：ポータブルトイレでの排泄① 第 19 回：ポータブルトイレでの排泄② 第 20 回：ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器） 第 21 回：ベッド上での排泄（オムツ①） 第 22 回：ベッド上での排泄（オムツ②） 第 23 回：実技確認　排泄の介助 第 24 回：排泄の介護のまとめ 第 25 回：自立に向けた食事の介護、意義と目的、利用者のアセスメント 食事に関する基礎知識、おいしく食べることを支える介護、他の職種の役割と協働 第 26 回：脱水予防、食事の使用する様々な福祉用具 第 27 回：食事形態の違いによる食事介助 第 28 回：ベッド上での食事の介護、口腔ケア 第 29 回：食事の介護のまとめ 第 30 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療食との連携

アクティブラーニング	本授業は、ロールプレイング、実技演習を取り入れて行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%、計100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたうえで留意点と根拠を整理しておく（2～30回） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（1～30回） 目安時間 40分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅲ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（60 時間）　選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し本人主体の生活が継続でき、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 安全に安楽な生活支援を理解し、実践するための介護技術や知識を習得する。 利用者の抱える内部障害や神経疾患、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、精神・知的障害や寝たきり状態などで生ずる様々な生活困難に対して、アセスメントが的確にでき、障害に応じた自立に向けた家事の介護や適切な生活の場を提供するための援助技法を学習する。 その人のライフスタイルに応じたその人らしい人生の最終段階を過ごすための生活支援を可能とするための実践技法を学習する。
到達目標	尊厳の保持の視点を大切にし、様々な障害を抱える利用者に対し、適切な生活の場や家事援助・生活支援が提供でき、安心して人生の最終段階における介護が提供できる技術を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞秋山恵美子、佐藤豊展、金谷節子 第 1 回：ガイダンス、生活支援の理解と医学、家政学、リハビリテーション学、宗教学などの関係　＜秋山＞ 第 2 回：自立に向けた居住環境の整備の意義、目的、他職種との連携　＜秋山＞ 第 3 回：自立に向けた生活空間と介護―生活の場、住み慣れた地域での生活・居住環境のアセスメント（ＩＣＦの視点に基づく全体像・安全な生活の場）　＜秋山＞ 第 4 回：浴室、台所、安全性、快適性、プライバシー・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユニットケア、施設等での住宅の工夫、他　＜秋山＞ 第 5-6 回：嚥下のメカニズム・嚥下に関する用語の理解　＜佐藤＞ 第 7 回：発達と老化・嚥下訓練におけるチームアプローチ　＜秋山＞ 第 8 回：嚥下訓練におけるチームアプローチ・嚥下調整食　＜佐藤＞ 第 9 回：嚥下障害の直接訓練・介助方法　＜佐藤＞ 第 10 回：自立に向けた食事の介護の意義・目的　＜秋山＞ 第 11 回：高齢者・嚥下障害者の食事　＜金谷＞ 第 12 回：嚥下調整食ピラミッド　＜金谷＞ 第 13 回：嚥下調整食の基本・水分摂取　＜金谷＞ 第 14 回：調理実習【人気のある嚥下調整食】　＜金谷・秋山＞ 第 15 回：個別対応の実際・パッククッキング・訪問時の調理　＜金谷・秋山＞ 第 16 回：在宅訪問の実際・簡易的栄養評価の仕方　＜金谷＞ 第 17 回：自立に向けた家事の介護の意義・目的　＜秋山＞ 第 18 回：自立に向けた家事の介護に参加することを支える支援・利用者の状況に応じた介助・家事に関する利用者のＩＣＦの視点に基づくアセスメント　＜秋山＞ 第 19-20 回：自立に向けた家事の介護の技法ー洗濯・裁縫・衣類・寝具の衛生管理　＜秋山＞ 第 21 回：自立に向けた家事の介護の技法③ー掃除・買い物＜家庭経営、家計の管理＞＜秋山＞ 第 22 回：自立に向けた家事の介護の技法④ー運動・感覚障害、認知機能低下の方の工夫＜秋山＞ 第 23-24 回：人生の最終段階における介護の意義、実践の在り方　＜秋山＞ 第 25 回：臥床状態の寝具交換　＜秋山＞ 第 26 回：グリーフケア　＜秋山＞ 第 27 回：人生の最終段階における尊厳の保持・事前意思確認　＜秋山＞ 第 28 回：人生の最終段階における利用者ＩＣＦに基づくアセスメント　＜秋山＞ 第 29 回：人生の最終段階における介護実践の技法：医療との連携　＜秋山＞ 第 30 回：看取りのための制度、臨終時の対応　＜秋山＞

アクティブラーニング	調理・裁縫などグループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classに提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業態度20%　課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classで提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座6巻「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3回、5回、7回、9回、11回、13回）の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：毎回の授業後にWeb Class内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「管理栄養士・言語聴覚士・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅲ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP１　専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できる ICF の概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、さらに、情報の関連図や介護過程の展開ツールを紹介し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。
到達目標	・介護過程の展開方法について理解を深めることができる。 ・介護過程の実践的展開能力が身についている。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、介護過程の意義と基礎的理解、介護過程の構成要素復習　追体験の目的 第 2 回：　アセスメントの実際ーテキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」 第 3 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅱの情報の関連図を描いてみよう。 第 4 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の発表 第 5 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化 第 6 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化発表 第 7 回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性） 第 8 回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性） 第 9 回：介護過程とチームアプローチ「介護過程の展開ツール」の紹介 第 10 回：「ICF に基づく介護過程の展開」と「介護過程の展開ツールの比較」 第 11 回：介護過程の展開の理解：実践事例―介護老人保健施設で生活するＳさんの事例 第 12 回：介護過程の展開の理解：実践事例―「Ｓさんの結果に対する評価のありかた」 第 13 回：介護過程の展開の理解：実践事例―障害者支援施設で生活するＦさんの事例 第 14 回：介護過程の展開の理解：実践事例―「Ｆさんの結果に対する評価のありかた」 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45%　1回あたり15パーセント）
課題に対するフィードバック	・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規出版
参考図書	森　繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅳ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP１　専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解したうえで事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）の根拠を持って表現する。
到達目標	1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 2. 人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身に着けることができる。 3. 自己に対する評価が適切にできる。 4. 事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　ガイダンス・ケーススタディとは・・・ 第２回　介護過程記録用紙と関連図の情報を基に根拠作成 第３回　利用の現在、過去、未来全体像をとらえる 第４回　実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ 第５回　発表会の持ち方について 第６回　ケーススタディの骨格を作成（実習記録の振り返りから情報の根拠） 第７回　ケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか） 第８回　ケーススタディの骨格を作成（はじめに） 第９回　ケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを作る） 第 10 回　ケーススタディの骨格を作成　（構成を考える） 第 11 回　発表会準備（プレゼンテーション作成） 第 12 回　発表会準備（プレゼンテーション・シュミレーション 第 13 回　介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 1 第 14 回　介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 2 第 15 回　指導を受けて修正

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	ポスター発表課題（50%）・ケーススタディ（50%） 評価はルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をWebClass利用し、まとめなどをフィードバックします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規
参考図書	杉山孝博「イラストでわかる高齢者のからだと病気」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と 科目領域	DP3 専門
科目の 位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実践に必要なコミュニケーション能力を養い、利用者・家族とのコミュニケーション技法とチームにおけるコミュニケーションの方法を修得する科目です。さらに、チームと連携をとるための記録方法・報告の方法を修得する。 介護を必要とする人とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養います。また、介護におけるチームのコミュニケーションや、記録の意味と方法について事例を通して身につける。
到達目標	1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。 2. 介護におけるチームのコミュニケーション、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。 3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護を必要とする人とのコミュニケーションとは 第 2 回：介護におけるコミュニケーションの意義、目的 第 3 回：介護におけるコミュニケーションの役割 第 4 回：受容・共感・傾聴 第 5 回：利用者・家族との関係づくり 第 6 回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第 7 回：利用者・家族とのコミュニケーションの実際 第 8 回：利用者の意欲を引き出す技法 第 9 回：利用者や家族の意向を引き出す技法 第 10 回：介護におけるチームのコミュニケーションや連携 第 11 回：介護における記録の意義と目的 第 12 回：記録による情報の共有化 第 13 回：報告・連絡・相談 第 14 回：会議 第 15 回：事例による記録の演習

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット、およびPC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート 60%、授業参加度 30%、課題提出物 10%、計 100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 5 巻 コミュニケーション技術」中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得します。また、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。 コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害の特性に応じたコミュニケーション実践の理論を学び技術を修得します。さらに、当事者の介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションについても学ぶ。
到達目標	1. 利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションや、生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。 2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術が身につく。 3. 介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションが理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、障害の特性に応じたコミュニケーション技法の実際 第 2 回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護 第 3 回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状 第 4 回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション 第 5 回：失語症の特性に応じたコミュニケーション 第 6 回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション 第 7 回：視力の障害に応じたコミュニケーション 第 8 回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション 第 9 回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション 第 10 回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション 第 11 回：認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 12 回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 13 回：介護における家族とのコミュニケーションの理解 第 14 回：介護におけるチームのコミュニケーションの理解 第 15 回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット、およびPC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート 60%、授業参加度 30%、課題提出物 10%、計 100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。

課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術」中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅰ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅰを開始するに当たって、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解すると共に、自己が行った介護を客観的に振り返り、評価できる能力を高める。 実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解する。介護実習Ⅰに向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行い、介護実習Ⅰの目的・目標を理解し、目標に向けて達成できるようにする。また、実習内容の知識の確認・実習記録の意義や記入方法について理解する。
到達目標	・実習に必要な事前学習ができる。 ・実習の心構えを述べることができる。 ・実習の事前準備（記録物、身なりなど）ができる。 ・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 ・実習後の振り返りを行い、改善することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞野田由佳里 第１回：オリエンテーション（介護実習の位置づけⅠ・Ⅱ・Ⅲ段階） 実習要項配布・実習のイメージＤＶＤ・介護総合演習Ⅰの概要説明 第２回：介護実習の流れの理解　①実習種別 第３回：介護実習の流れの理解　②実習先種別 第４回：実習の意義・実習目的・目標の理解・グループワークの説明〈高齢者の理解〉 第５回：実習先に関する知識面での理解（生活の場の理解・介護老人福祉施設　特別養護老人ホーム） 記録練習１・感性教育１〈季節感を感じよう『季語』〉 第６回：実習先に関する知識面での理解（通所介護） 記録練習２・感性教育２〈クラフト制作・折り紙〉 第７回：実習先に関する知識面での理解〈障害者施設〉 記録練習３・感性教育３〈高齢者に馴染みのある唱歌〉 第８回：実習先についてのグループ発表・介護実習Ⅰオリエンテーション 第９回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第 10 回：介護実習記録の書き方・記録様式及び資料配布 第 11 回：配属発表・申し送りノート確認・模擬スーパービジョン 第 12 回：計画書の作成 第 13 回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 14 回：先輩からの応援メッセージ・直前オリエンテーション（実習に必な技術面の理解度チェック） 第 15 回：事後指導　介護実習Ⅰ終了後のオリエンテーション 実習の振り返り/実践を通した介護の知識や技術の統合化

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
授業内のICT活用	・ICTを授業で多く用います。特にWebclassを多用しています。 ① 出席管理 ② 小テスト管理 ③ 事前課題管理 ④ 事後課題管理 ⑤ 授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。 ・授業内の講義資料もパワーポイントとプロジェクターを使用します。事前にWebclassに提示をします。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をWebClass利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	後藤真澄「介護実習に役立つコミュニケーションの良い例・悪い例」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を40分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、個別的な生活支援を展開する介護過程という援助手法に基づいた実習体験をもとに介護福祉専門性を求めることを目的としている。 介護実習Ⅰの振り返りと、介護実習Ⅱにむけての事前準備、事後学修授業となります。目標達成できる実習計画を立案し、実習を有意義に行うため、心構えや実習生としてのあり方について学ぶ。知識と技術の統合や介護過程の展開の能力等について介護実践の科学的探究を行う。
到達目標	・実習に必要な事前学習ができる。 ・実習の心構えを述べることができる。 ・実習前の準備　（記録物、身なりなど）を行い、知識と技術の統合ができる。 ・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 ・実習後の振り返りを行い、改善することができる。 ・実習を通して、介護実践の科学的探究ができる。
授業計画	＜担当教員名＞井川 淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第２回：実習報告会（介護実習Ⅰ）の準備 第３回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第４回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第５回：実習目的・目標の理解、申し送りノート及び実習日誌提出 第６回：実習先の理解（介護老人保健施設） 実習施設に関する事前学習（知識と技術の統合） 第７回：実習先の理解（生活の場の理解） 感性教育（クラフト制作・ロールクラフト） 第８回：実習先についてのグループ発表 介護実習Ⅱに必要な事前学習（介護実践の科学的探究） 第９回：介護実習Ⅱへ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第 10 回：介護実習Ⅱ配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 第 11 回：実習計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 12 回：実習直前オリエンテーション 第 13 回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第 14 回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第 15 回：事後指導
アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にする。 ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示する。 ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視する。

授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードッバックを心掛ける。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻　介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。また、介護実習に関連する提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】毎回、グループワーク後の振り返りを 40 分程度行う。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）選択　介護　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲに向けて、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行う。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の理解ができる。 介護実習Ⅱにおいて、これまで学んだ学内の学びの知識と技術を統合し、介護過程を通し介護場面に適応できる柔軟性や応用力、介護実践の科学的探究能力を養う。
到達目標	・介護実習Ⅱの振り返りを行い、改善し目標の達成を自ら評価することができる。 ・介護実習Ⅱで培った学びを具体的に表現し共有することができる。 ・介護実習Ⅲの教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行い、実習に必要な知識や技術、介護過程の基礎の理解ができる。 ・他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる介護実践の科学的探究力を習得することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第２回：学びの共有・実習報告会準備 第３回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第４回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第５回：実習目的・目標の理解　＊申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明〈実習先・レクリエーション〉 第６回：実習先の理解（生活の場の理解・特別養護老人ホーム） 利用者の日内変動①身体面　②精神面 第７回：介護技術の確認（グループワーク） 第８回：実習へ向けての準備により、知識と技術の統合を図る（個人票・プロフィール作成）・ 記録様式及び資料配布 第９回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 実習先についてのグループ発表・介護実習に必要な知識の確認 第 10 回：計画書の作成・介護過程の展開様式確認 身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 11 回：ＩＣＦ視点の生活支援技術の基礎復習及び確認①移動・居住環境②排泄入浴食事 第 12 回：直前オリエンテーション 変則勤務が影響を及ぼす介護従事者の健康　①身体面　②精神面 第 13 回：介護実習Ⅲの帰校日指導　第１回目　　（介護過程展開法の指導） 第 14 回：介護実習Ⅲの帰校日指導　第２回目　　（介護過程展開法の指導）） 第 15 回：事後指導 介護過程の振り返りにより、介護実践の科学的探究を図る　①受け持ち事例　②モデル事例
アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class に提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。

授業内のICT活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Web Class で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学習：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を行う（40分）。事前に提示した提出物については計画的に準備を行う。 事後学習：毎回の授業後にWeb Class内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。 グループワーク後の振り返りを行う（40分）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅳ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）選択　介護　４セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅲの振り返りと介護実習全体についての教育効果を上げるための科目である。また、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習としている。 実習の意義を理解した上で、実習先施設の特徴、および機能に応じた介護実践ができる知識と技術を統合することに重点を置いている。実習の目的を達成するため介護実践の科学的探究を行い、受容的・共感的な態度で対人関係を形成し、利用者理解に重点を置いた授業である。
到達目標	1. 介護実習Ⅲの振り返り、自己評価を踏まえ発表することができる。 2. 介護実習全体を通して、生活支援や施設等の理解を深める。 3. 授業で習得した介護過程の展開の理解を実習の利用者に提供できる能力を身につける。 4. 他科目で学習した知識や技術を統合し、実習で体得した知識や技術を統合した具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。 5. 実習後の振り返りを行い、介護実践の科学的探究ができる。 6. 介護実習全体の目標達成度を自ら評価することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞井川　淳史、野田　由佳里 第1回：オリエンテーション・実習報告会説明・申し送りノート作成 第2回：利用者の理解①（身体障がいのある方とのかかわり） 第3回：利用者の理解②（知的障がい、発達障がい、精神障がいのある方とのかかわり） 第4回：学びの共有・実習報告会（介護実習Ⅲ）の準備 第5回：実習報告会（介護実習Ⅲ） 第6回：見学実習へ向けての準備・記録様式及び資料配布・計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え 第7回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連） 第8回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連） 第9回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連） 第10回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連） 第11回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連） 第12回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連） 第13回：見学実習（障害系）の報告会 第14回：見学実習（障害系）の報告会 第15回：総合的な介護福祉サービスの理解（介護実践の科学的探究）

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードッバックを心掛ける。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ、提出物作成は計画的に準備を行う。（40 分） 事後学修：毎回、グループワーク後の振り返りを行う。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習Ⅰ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（90 時間）選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 介護実習は学内で学んだ生活支援技術・基礎的な知識を統合させる場である。介護実習Ⅰでは多様な生活の場の理解、基礎的な生活支援技術とコミュニケーションに重点をおいた実習を行う。
到達目標	１．利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができ、人間関係の形成が図ることができる。 ２．利用者の生活の場の多様性を理解し、多職種協働の実践の重要性を理解できる ３．介護を必要とする利用者の個別的な支援を理解し、基本的な生活支援技術について指導を受けながら実践できる。 ４．介護福祉士の職業倫理について理解できる。
授業計画	＜担当教員名＞　野田由佳里、秋山恵美子、井川淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ ⑴実習内容 ① コミュニケーションが比較的容易な利用者との関わりを通して自己を振り返り、自己覚知を高める。 ② 利用者のニーズと介護の機能、介護職員の役割について学ぶ。 ③ 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場における個別ケアについて学ぶ。 ④ 老人福祉施設・障害者施設・訪問介護事業所・通所介護事業所などさまざまな生活の場における介護実践について学ぶ。 ⑤ 介護過程の実践的展開の基礎となる知識を学ぶ。 ⑥ 地域のおける生活支援の実践について学ぶ。 ⑵実習時期 第1セメスター（1年次）8月～9月の中で12日間 （介護実習Ⅰ①:前半分） 学生はグループに分かれて、老人福祉施設実習で5日間、障害者支援施設で1日間実施。 （介護実習Ⅰ②：後半分） 学生はグループに分かれて、有料老人ホームで5日間、訪問介護事業所で1日間実施。

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	・ICT機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。
評価方法	実習評価表70%、実習記録30% 評価方法については実習要項に記載しています。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）、秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅰの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	４単位（180 時間）選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 障害者または高齢者の施設において、担当利用者に対する介護過程の展開を行う。学習した知識や技術を統合して利用者の全体像を捉え、課題を明確にし、個別介護計画を立案する。
到達目標	１．施設の社会的役割について理解し、職員（介護職、その他の職種）との連携の必要性とその方法を理解できる。 ２．生活支援技術の適正に用いることができる。 ３．利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護のニーズを把握し、個別介護計画を立案できる。
授業計画	＜担当教員名＞　野田由佳里、井川淳史、秋山恵美子 ＜授業内容・テーマ等＞ (1)実習内容 ① 障害者または高齢者の施設において、障害レベルに応じて求められる生活支援技術の適切な用い方について学ぶ。 ② 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ③ 多職種協働の実践について学ぶ。 (2)実習時期 第2セメスター（1年次）2月～3月の中で23日間（4週間）

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	・ICT機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・介護過程の展開では双方向授業としてWebclassも活用します。
評価方法	実習評価表70%、実習記録30% 評価方法については実習要項に記載しています。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）、井川淳史研究室（2605研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅱの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	４単位（180 時間）選択　介護　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 介護の実体験を通して、学内で学んだ知識・技術・の統合を図る。スーパービジョンを受けながら担当利用者の介護過程の展開を行う。また、介護福祉士としての職業倫理を身につけ専門職者としての自己の介護観・死生観を確立する学習とする。
到達目標	１．利用者のニーズに応じた介護過程の展開ができる。 ２．福祉サービス全体の理解を深め、チームの一員として介護を遂行できる。 ３．利用者の能力を引き出し、個々の状態に応じた生活支援を展開できる。 ４．多職種連携について理解できる。
授業計画	＜担当教員名＞　野田由佳里、秋山恵美子、井川淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ ① 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般の理解を深める. ② 介護計画の立案→実践→評価→再計画という個別介護の一連の介護過程の展開を学ぶ。 ③ 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ④ 介護過程の展開を通して、多職種協働の実践について学ぶ。 ⑤ 介護過程の展開を通して、地域のおける生活支援の実践について学ぶ。

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	・ICT機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・介護過程の展開では双方向授業としてWebclassも活用します。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	授業時に随時紹介
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）、秋山恵美子研究室（2611研究室）、井川淳史研究室（2605）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅲの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活サポート演習Ⅰ
科目責任者	髙山　暢子
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は、初年次における大学での学びとして社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけて使用できることや、様々な立場や意見を尊重しながら自らの意見を伝達し説得できるコミュニケーション力を身につけることを目的としている。したがって、利用者の障害特性に応じたコミュニケーションを理解し、適切に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。
到達目標	1. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につける。 2. 福祉現場で遭遇する利用者のコミュニケーション障害の原因、型、症状などを理解する。 3. それぞれの障害を抱える人の生活やコミュニケーションの特性を理解できる。 4. コミュニケーション障害のアセスメントの方法、対応法の在り方及び評価法を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、コミュニケーション方法を学ぶ意義と目的 コミュニケーション障害を伴う利用者とは 第 2 回： コミュニケーション障害のアセスメント（言語による観察の視点） 第 3 回： コミュニケーション障害のアセスメント（非言語による観察の視点） 第 4 回：対応の技術①：高次脳機能障害（認知系）の利用者への対応 第 5 回：対応の技術②：高次脳機能障害（行為系）の利用者への対応 第 6 回：対応の技術③：失語症（運動性失語）の利用者への対応 第 7 回：対応の技術④：失語症（感覚性失語）の利用者への対応 第 8 回：対応の技術⑤：構音障害・発声障害の利用者への対応 第 9 回：対応の技術⑥：聴力障害（難聴・聾）の利用者への対応 第 10 回：対応の技術⑦：視力障害（弱視）の利用者への対応 第 11 回： 対応の技術⑧：視力障害（盲）の利用者への対応 第 12 回： 対応の技術⑨：発達障害・知的障害の利用者への対応 第 13 回： 対応の技術⑩：精神障害の利用者への対応（認知症は別途） 第 14 回：対応の技術⑪：身体に障害がある高齢の利用者への対応 第 15 回：対応の技術⑫： 認知症がある高齢の利用者への対応(グループ発表)

アクティブラーニング	本授業は、グループディスカッション、ロールプレイングを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	レポート60%（ルーブリックは用いない）、授業態度20%、課題提出物20%、計100%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパー・課題提出物は、次の授業時フィードバックを行います。
指定図書	なし。
参考図書	最新・介護福祉士養成講座第５ コミュニケーション技術／中央法規出版
事前・事後学修	事前学修：毎回、事前課題を提示します。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	専門学校棟教員室(6104)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活サポート演習Ⅱ
科目責任者	髙山　暢子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　２セメスター
DP 番号と 科目領域	DP3 専門
科目の 位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、介護技術を安全に安楽に活用できるために、身体の構造・機能を理解した上で演習をおこない、介護現場で応用できる生活支援技術を習得する。演習を通して相手の気持ちに寄り添うためのコミュニケーション能力を習得する。
到達目標	１．生活支援技術の原理と原則を理解する。 ２．ボディメカニクスを応用し、安全で安楽な介護技術を身につけている。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、ボディメカニクスの原理と応用（講義・演習） 第 2 回 : ベッドメイキング・シーツ交換（講義・演習） 第 3 回 : ベッド上での移動の方法の理解と技術（演習） 第 4 回 : 持ち上げない移動・移乗技術（演習） 第 5 回 : 車いすについての知識と技術（演習） 第 6 回 : 食事援助の原則と食事介護を受ける体験（講義・演習） 第 7 回 : 車いす上、ベッド上での食事介護を受ける体験（演習） 第 8 回 : 座位での更衣動作と介護（講義・演習） 第 9 回 : 寝たきりでの更衣動作と介護（演習） 第 10 回 : 排泄動作と介護―トイレ・ポータブルトイレ（講義・演習） 第 11 回 : 排泄動作と介護―おむつ（演習） 第 12 回 : 清潔動作―口腔ケア及び義歯の洗浄（講義・演習） 第 13 回 : 清潔動作―入浴及び清拭（演習） 第 14 回 : 生活サポートと 環境整備 第 15 回 : 生活サポートの再確認とまとめ

アクティブラーニング	本授業は、グループディスカッション、ロールプレイングを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	なし。
評価方法	レポート60%（ルーブリックは用いない）、授業態度20%、課題提出物20%、計100%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパー・課題提出物は、次の授業時フィードバックを行います。
指定図書	なし。
参考図書	写真でわかる生活支援技術／インターメディカ 最新 介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ／中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ／中央法規出版
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	介護福祉専門学校教員室にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップ入門
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（60 時間）　必修　社福　１～２セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	社会福祉施設の利用者や職員との交流を通して、それらに対する理解を促進し、これから受講する様々な講義において具体的なイメージをもって学習に取り組めるようにする。また、実習の手続きや実習を通して、今後の実習のための基礎をつくるとともに社会人としての育成を図る。
到達目標	事前学習 １．これから様々な実習に臨み、さらに社会福祉の実践者となるための心構えをする。 ２．実習プログラムの流れを理解する。 ３．実習先となる社会福祉施設の概要と、その根拠となる法律について理解する。 実習 １．福祉施設利用者や職員とのコミュニケーション、関係づくりの基礎を習得する。 ２．利用者の生活を理解する。 ３．職員の日常業務を理解する。 ４．実習施設の概要と社会的な意義について理解する。 事後学習 １．実習体験を多面的に捉えなおす。 ２．実習体験をグループでまとめて報告する。 ３．実習体験をレポートにまとめる。
授業計画	＜担当教員＞村上武敏、大場義貴、福田俊子、川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 事前学習（春セメスター） 第１回：　オリエンテーション 第２回：　実習の心構え・実習記録の書き方 第３回：　報告会　①施設の概要　②根拠となる法律 第４回：　実習の準備と実習中の諸注意 実習（9 月）　4 日間、社会福祉施設にて実習 事後学習（秋セメスター） 第５回：　実習体験の振り返り 第６回：　グループスーパービジョン 第７回：　実習報告会のための準備 ①　報告資料の作成 第８回：　実習報告会のための準備 ②　中間報告とスーパービジョン 第９回～第 10 回：　実習報告会（障害者領域・高齢者領域）

アクティブラーニング	実習科目である
授業内のICT活用	グループワークにおいてアイパッドおよびスマートフォンを利用する。
評価方法	実習への取り組み姿勢（事前訪問、実習への参加、実習先の評価、記録物の内容）　60% 授業への取り組み姿勢（授業への参加、報告会に向けた取り組み、期末レポート）　40% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	報告会については、終了後に各教員がコメントする。 期末レポートについては、担当教員ごとにコメントする。
指定図書	なし
参考図書	担当教員ごとに提示する。
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要や根拠法を把握しておくこと。（目安時間20分） 実習後は、実習報告会と期末レポートの作成に向けて、実習体験を整理すること。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	担当教員それぞれの研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク・ケアワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅠ　※社会福祉学科
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（90 時間）　必修　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	１年次のインターンシップ入門における学修をふまえ、学生が自分の目指す社会福祉援助者像を明確化していくために、本科目は 10 日間程度の配属実習を含んだ授業構成となっている。多様な社会福祉施設等の利用者とのコミュニケーションを通じて、その現状を理解するとともに、社会福祉援助者として必要とされる実践力とは何かについて、考察することを目的とする。また、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。 なお、実習の事後学習は、インターンシップⅠ実習指導で行われる。
到達目標	1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる。 2. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。 3. 他の学生や職員とのチームワークを考えながら行動できる。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ １．事前学習プログラム 第１回：オリエンテーション・ガイダンス 第２回：　実習記録の書き方及び実習中の諸注意 第３回：グループ別学習①（実習施設の概要及び利用者の理解） 第４回：グループ別学習②（事前訪問のための準備、３年生からの引き継ぎ） 第５回：事前訪問 第６回：グループ別学習③（事前訪問のフィードバック、実習テーマの共有） ２．配属実習 国家資格の取得及び３年次のソーシャルワーク実習先にかかわる希望、使用可能な交通手段など総合的に勘案した結果決定された、大学の近隣にある実習先において、10 月から 12 月までの 10 日間程度、週１回半日の配属実習を行う。 ※実習中のスーパービジョン並びに事後学習については、社会福祉演習Ⅱの授業で行う。 ＜その他＞ ・実習を含む授業科目であるため、積極的な授業への参加が重要であることを理解して履修してほしい。 ・「インターンシップⅠ実習指導」も必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。
授業内のICT活用	特になし。
評価方法	授業への取り組み状況20%（事前学習への参加状況） 実習への取り組み状況80%（事前訪問・実習への参加状況、記録物の内容） 実習への取り組みはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	事前学習プログラムでは、リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・事前：提示された課題はすべて ・事後（配属実習）：実習ノートは、必ず、その日のうちに記録すること。実習中に分からないことがあった場合、できるだけ自主的に調べてみること。　（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	社科目責任者は、会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	インターンシップⅠ実習指導
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）必修　社福　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップⅠの実習中における学内スーパービジョン及び事後学習として位置づけられる。10 日間程度の配属実習を行った後、グループ並びに個別スーパービジョンを適宜実施しながら、配属実習全体を振り返り、まとめる。実習体験の総括は、実習報告会及びレポートの作成によって行われる。
到達目標	1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる 2. 他の学生の語りに耳を傾け、自らの実習体験を振り返ることができる。 3. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。 4. 社会福祉援助者に必要とされる実践力とは何か、自分の言葉を使って表現できる。 5. さまざまなかかわりを通して、自己理解を深める。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ 教員ごとに小グループに分かれ、以下の授業を展開する。 １．配属実習中のスーパービジョン 第 1 回：実習初日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第 2 回：実習 2 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第 3 回：実習 3 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 4 回：実習 4 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 5 回：実習 5 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（前半実習のまとめを含む） 第 6 回：実習 6 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 7 回：実習 7 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 8 回：実習 8 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 9 回：実習 9 日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 10 回：実習最終日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習全体のまとめを含む） ２．事後学習プログラム 第 11 回：全体授業、オリエンテーション、グループ別学習①） 第 12 回：グループ別学習②（実習報告会にむけた発表準備：テーマの設定） 第 13 回：グループ別学習③（実習報告会にむけた発表準備：内容、発表方法の検討） 第 14・15 回：実習報告会、まとめ ＜その他＞ ・インターンシップⅠを必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は、グループディスカッションを中心とした授業形態で進められる。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取り組み状況50%（実習中のスーパービジョン・事後学習への参加状況） 総括レポート50% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワークⅠ
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	ライフサイクルは、ラウントリーの貧困研究から明らかにされた生涯を通してみたときの生活水準の波動のことであり、これにより社会保障制度による国民への生活保障の必要が認識されることとなった。 本科目では、児童期から老年期までの人の一生「ゆりかごから墓場まで」を支援するソーシャルワーカーにおいて必要な視点を獲得する。医療機関、行政機関、高齢者施設などにおいてソーシャルワーカーを志す方は必ず履修していただきたい。
到達目標	１．それぞれのライフステージにおける生活課題の特徴と共通する課題を理解する ２．それぞれのライフステージにおけるソーシャルワークの課題を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション―ライフサイクルとは何か、ソーシャルワークとは何か 第 2 回：子どもの虐待と貧困について（ゲスト講義） ――児童相談所から 第 3 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 4 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 5 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク（研究発表） 第 6 回：医療・介護をめぐる課題について 第 7 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（ゲスト講義） ――医療福祉相談室から 第 8 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 9 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 10 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（研究発表） 第 11 回：高齢者の貧困・社会的孤立とソーシャルワーク（ゲスト講義） ――地域包括支援センターから 第 12 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 13 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 14 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク（研究発表） 第 15 回：まとめ――ライフサイクルとソーシャルワークの課題
アクティブラーニング	児童福祉、医療福祉、高齢者福祉、これら 3 つの領域においてグループ学習をおこなう。

授業内のICT活用	グループワークにおいてアイパッドおよびスマートフォンを利用する。
評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	研究発表後にコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・事後学修	【事前学習】第2回・6回・7回・11回の授業について授業前に課題を提示する。毎日新聞に目を通すこと。そして、私たちが暮らす社会について問題意識を持つこと。（目安時間40分） 【事後学習】配布した資料をもとに授業の振り返りを行うこと。（目安時間20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワークⅡ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、社会福祉学科の独自科目であり、１セメスターのライフサイクルとソーシャルワークⅠとの連続性を持っている選択必修の科目である。ライフステージの前半部分の「こども・若者」が現代社会において直面しやすい諸問題を、社会福祉学的視点から理解することに主眼をおく。教員からの講義、グループワーク、学生の発表を１セットとする学修形式を通して、保健医療福祉の専門職者としての必要な知識を身につける。
到達目標	1. 現代社会のこども・若者の諸問題を保健医療福祉の専門職者として、社会福祉学的視点から理解できる 2. グループワークを通して活発に意見交換ができ、発表資料を作成・発表することができる。
授業計画	＜担当教員名＞　：大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：子ども・若者を巡る現代社会の諸問題と政策の動向 第 2 回：若者の社会的自立・若者の自殺（講義） 第 3 回：若者の社会的自立・若者の自殺（グループワーク） 第 4 回：若者の社会的自立・若者の自殺（発表） 第 5 回：不登校・ひきこもり（講義） 第 6 回：不登校・ひきこもり（グループワーク） 第 7 回：不登校・ひきこもり（発表） 第 8 回：ライフサイクルと心理・社会的支援（講義） 第 9 回：発達障害・いじめ（講義）　ゲストスピーカー（大須賀優子） 第 10 回：発達障害・いじめ（グループワーク） 第 11 回：発達障害・いじめ（発表） 第 12 回：母子保健・子育て（講義）　ゲストスピーカー（山名礼子） 第 13 回：母子保健・子育て（グループワーク） 第 14 回：母子保健・子育て（発表） 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	第3・6・10・13回はグループ学修を行います。 第4・7・11・14回は発表（プレゼンテーション）を行います。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWeb Classを介して行います。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）60%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況40%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし。講義内容に応じた資料を配付。
参考図書	子ども・若者政策のフロンティア；伊藤 良高, 大津 尚志, 中谷 彪, 永野 典詞: 晃洋書房
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉演習
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　社福　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	基礎演習Ⅰ・Ⅱをふまえ、社会福祉の専門的な学修を進めるうえで必要となる能力や知識を修得しながら、各自が社会福祉のどのような領域や課題について専門的に学んでいきたいのかを考え、自らの専門性を培うための足がかりとする。
到達目標	1. 現代社会に生きるさまざまな人たちの暮らしについて、考えることができる。 2. 社会福祉のさまざまな領域を知り、興味・関心を持つことができる。 3. 図書館で文献資料の収集ができ、関心のある論文などを見つけ、要約することができる。 4. 自分の興味・関心と社会福祉の領域を結びつけ、レポートをまとめ、発表することができる。
授業計画	＜担当教員名＞福田俊子、佐藤順子、村上武敏　（3 名で 3 グループを担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 今後の授業の進め方等についての話し合い、アイスブレイクによるグループ作り 第 2 回：基本的な文献の読解① 教員によるプレゼンテーションを通して、文献の読み方、レジュメの作成方法、文献や注引用方法等のモデル提示 第 3 回：文献の収集方法の理解 図書館を活用して専門的な文献資料の収集方法の理解 第 4 回：文献リストの作成 文献検索機能を用い、各自の興味あるテーマについての参考文献リストの試行的作成 第 5 回：基本的な文献の読解② 学生が分担しあい、担当箇所についてレジュメを準備し発表（学生をグループ①～⑤に分ける）、それをふまえてのグループ討議 学生グループ① 第 6 回：〃　学生グループ② 第 7 回：〃　学生グループ③ 第 8 回：〃　学生グループ④ 第 9 回：〃　学生グループ⑤ 第 10 回：自分の興味・関心あるテーマの絞り込み テーマレポート作成に向け、各自がテーマを決定。 テーマレポートの個別指導を経て、発表（学生をグループ①～⑤に分ける）、それを踏まえてのグループ討議　学生グループ① 第 11 回：〃　学生グループ② 第 12 回：〃　学生グループ③ 第 13 回：〃　学生グループ④ 第 14 回：〃　学生グループ⑤ 第 15 回：　授業のまとめ グループにわかれ、一人の担当教員の演習に所属することになります。担当教員は、皆さんと一緒に考え、それぞれの興味・関心を自分のテーマに結び付けていくお手伝いをさせていただきます。少人数のグループだからこそ、積極的なディスカッションへの参加をお願いします。

アクティブラーニング	本科目は、ディスカッションを中心とした授業形態で展開される。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	授業への取り組み状況（60%）、テーマレポート（40%） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	＜事前・事後学修＞ 第2～14回の授業では以下の点に留意すること。 ・提示された課題に対しては、あらかじめ必要な知識を復習し、共通の文献を分担発表する場合は、必ず当該部分を予め通読して授業に臨むこと。 ・グループ発表にあたっては、授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくこと。 ・個人発表の場合は、ゼミメンバーに内容が伝わりやすいレジュメなどを準備しておくこと。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	福祉実習Ⅰ　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(90 時間)　選択　社福　２～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	(2～4 セメ) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (5 セメ～) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。 実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習10%（実習計画書含む）、配属実習60%、事後学習30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅱ　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(90 時間)　選択　社福　２～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	(2～4 セメ) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (5 セメ～) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。 実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習10%（実習計画書含む）、配属実習60%、事後学習30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅲ　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(90 時間)　選択　社福　２～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	(2～4 セメ) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (5 セメ～) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。 実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習10%（実習計画書含む）、配属実習60%、事後学習30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅳ　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(90 時間)　選択　社福　２～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	(2～4 セメ) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (5 セメ～) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。 実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3 年秋～4 年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習10%（実習計画書含む）、配属実習60%、事後学習30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅰ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学習20% 【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅱ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学習20% 【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅲ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学習20% 【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅳ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、実習60%、事後学習20% 【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	キリスト教教育
科目責任者	太田雅子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP１　専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	キリスト教・聖書の世界観・価値観に基づく教育について学ぶ。教育に何を願い、何のために働くのか。教師に与えられた課題や、求められる資質とは何か。どのような姿勢で学校教育の働きに携わっていくべきかなどについて理解を深める。
到達目標	1.　キリスト教教育における世界観・児童観について理解を深める。 2.　聖書・キリスト教的価値観と現代の教育への影響について理解する。 3.　教師に与えられた使命・課題・資質について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 聖書の世界観・人間観について　　ゲストスピーカー 第 2 回 : キリスト教教育の働きと・教師の役割・ミッション　　ゲストスピーカー 第 3 回 : キリスト教教育の実践（クリストファー小学校） 第 4 回: キリスト教教育の独自性 第 5 回 : キリスト教教育の歴史と社会的影響 第 6 回 : 現代における教育の課題 第 7 回 : 教師としての成長（求められる資質）　　ゲストスピーカー 第 8 回 : まとめ（レポート課題）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50%　　レポート課題：50% レポート課題はルーブリックを用いて評価を行う―内容・基準は授業内で説明する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	プリントを配布する。
参考図書	「教師をめざす君たちへ」キリスト教学校教育同盟
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回事業に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	キリスト教保育
科目責任者	太田雅子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP1　専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	聖書に描き出されている世界観・こども観や、保育や育児の捉え方について学ぶ。聖書の言葉に生きた人々の実践からキリスト教保育に携わる者の在り方について考察する。さらに今日の日本におけるキリスト教教育・保育について、実践から検討する。キリスト教保育が一般の保育、現代社会の課題に対して持つ意義について理解する。
到達目標	4.　キリスト教保育における世界観・子ども観について理解を深める。 5.　キリスト教保育の実践・保育者のあり方について理解する。 6.　提示された材料（資料・DVD・懇談）と向き合い、思考を活性化させる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　イントロダクション・マザー・テレサの言葉と人間観・子ども観 第 2 回：　マザー・テレサの働きと聖隷の働き（使命） 第 3 回：「愛する」ということについて　ーナルニア国物語より 第 4 回：「愛する」ということについて　ーC.S.　ルイスから 第 5 回：　聖書の世界観・子ども（人間）観について　　ゲストスピーカー 第 6 回：保育者としての成長（求められる資質）　　ゲストスピーカー 第 7 回：キリスト教保育の実践―ページェント・こども賛美歌（クリストファーこども園児） 第 8 回：まとめ（レポート課題）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50%　　レポート課題：50% レポート課題はルーブリックを用いて評価を行う―内容・基準は授業内で説明する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	プリントを配布する。
参考図書	新キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟）
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回事業に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園（キリスト教主義）」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　必修　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP3　専門基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士および社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚労省の「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的とする。特に①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力の涵養③ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を意図し、④具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により行う。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞＜担当教員＞坂本道子 第 1 回： オリエンテーション、自己紹介・他己紹介 第 2 回： 自己理解と他者理解 ①―エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第 3 回： 自己理解と他者理解 ②―ジョハリの窓等を活用した自己理解 第4 回： 自己理解と他者理解 ③―食べさせられる体験、聞こえない体験 第 5 回： 自己理解と他者理解 ④―話せない体験、見えない体験 第 6 回： 自己理解と他者理解 ⑤―車いす体験 第 7 回： 自己理解と他者理解 ⑥－高齢者体験 第8 回：コミュニケーションの基礎 ①―ラポールを確立するための面接者の態度 第9 回：　〃　②―ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際 第10 回：　〃　③―面接におけるラポールと傾聴の重要性 第11回：　〃　④―バーバルコミュニケーションの実際 ① 第12回：　〃　⑤―バーバルコミュニケーションの実際 ② 第13回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ① ―促しの技法、繰返しの技法、要約の技法 第14回： 〃 ②―共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法 第15回： まとめと振り返り

アクティブラーニング	演習科目であるため、ディスカッション、ディベート、グループワークを行う。 また課題解決型学習や擬似体験を伴う自己学習の課題を提示する。 授業には、出席するだけではなく、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションなどプロジェクターを利用して行うことがある。
評価方法	授業への取組姿勢25% 、毎回授業終了後WebClass入力25%、 WebClass入力事項を用いた定期試験レポート50%
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	なし
参考図書	一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 諏訪茂樹『対人援助とコミュニケーション――主体的に学び、感性を磨く』中央法規
事前・事後学修	事前学修：毎回、WebClassやプリント等を事前に読む 事後学修：授業内容を、毎回、WebClassに①事実　②感想　③考察　に区分して言語化文字化する。合わせて40分程度 期末のレポートの準備をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、対人援助職に求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。なかでも、ソーシャルワーク演習Ⅰで行った「自己覚知」「基本的なコミュニケーション技術の習得」の学びを土台に、本科目では「基本的な面接技術の習得」および「倫理・価値」について、グループワークや具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を、演習形式により展開する。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. グループ討議を通して受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 人間の多様性を通して、共生の価値観をもつ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞坂本道子 第 1 回： オリエンテーション、グループ分け、グループワークについて 第 2 回： 自他の価値①―大切なもの、価値の順位 第 3 回： 自他の価値②―価値の対立、ジレンマ 第 4 回： 価値観と専門職①―倫理綱領 第 5 回： 価値観と専門職②―行動指針 第 6 回： 価値観と専門職③―事例検討（利用者のジレンマ） 第 7 回： 価値観と専門職④―事例検討（専門職としてのジレンマ） 第 8 回：自他、及び専門職としての価値のまとめ 第 9 回：面接におけるコミュニケーション①―援助者の基本姿勢と原則 第 10 回：面接におけるコミュニケーション②―基本的コミュニケーション 第 11 回：面接におけるコミュニケーション③―基本的応答技法 と活用 第 12 回：面接におけるコミュニケーション④―傾聴と共感、支持、焦点化 第 13 回：面接におけるコミュニケーション⑤―ロールプレイ（日常生活場面） 第 14 回：面接におけるコミュニケーション⑥―ロールプレイ（面接場面） 第 15 回：面接におけるコミュニケーション⑦― まとめ

アクティブラーニング	本科目は演習科目として、ディスカッション、グループワーク、ディベート等を取り入れて実施する。また課題解決学習も展開する。演習であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションなどプロジェクターを用いて行うことがある。
評価方法	授業への取組姿勢25% 、毎回授業終了後WebClass入力25%、WebClass入力内容を用いた定期試験レポート50%（今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	WebClassに提示あるいは資料を配布する
参考図書	一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 フレデリック・G.リーマー他『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規 岩間伸之『対人援助のための相談面接技術――逐語で学ぶ21の技法』中央法規
事前・事後学修	事前学修：毎回WebClassやプリント等を事前に読む 事後学修：毎回授業内容をWebClassに①事実　②感想　③考察　に区分して入力し、言語化文字化する。合わせて40分程度 期末のレポートの準備をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育原理
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理解や技術を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、「教育」や「こども」をめぐる思想や制度の歴史や多様性を学ぶことで、現代の教育を捉え直し、教育の基本をつかみます。それは自分を形成した「教育」から身を引き離し、新しい「教育」の主体として生まれ変わるプロセスです。単に知識を受動的に覚えるのではなく、自らの考えを主体的に形成することが求められます。
到達目標	1.　教育の基礎的知識（意義・目的、思想と歴史的変遷、内容・方法、制度等）について説明できる。 2.　教育の現実（実践、今日的課題）を原理的に理解し、説明できる。 3.　保育・教育の基本である「指針」「要領」の教育観を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞細田直哉 第 1 回：教育・保育とは何か？：保育と教育・教育の意義・児童福祉との関連 第 2 回：何のため・誰のための教育？：教育の目的とその変遷 第 3 回：園・学校で子どもはどのように育つのか？：教育と家庭・地域・学校 第 4 回：子ども観と教育観の変遷 第 5 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史①古代ギリシャ・ローマ、コメニウス等 第 6 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史②ルソー、ペスタロッチ、フレーベル等 第 7 回：諸外国の教育思想とその教育の歴史③モンテッソーリ、デューイ・イエナプラン等 第 8 回：日本の教育思想とその教育の歴史①古代、中世 第 9 回：日本の教育思想とその教育の歴史②近世、現代 第 10 回：保育・教育法規と保育・教育行政の基礎 第 11 回：保育・教育制度の比較：日本と諸外国 第 12 回：保育・教育実践の基礎理論―内容・方法・計画と評価― 第 13 回：保育・教育実践の多様な取り組み 第 14 回：生涯学習社会と教育 第 15 回：現代の教育課題とまとめ

アクティブラーニング	各回のテーマに沿ったディスカッション・プレゼンテーション・リアクションペーパーへのコメント
授業内のICT活用	学生によるプレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用する。
評価方法	レポート 80%・課題への取り組み　20%
課題に対するフィードバック	課題・レポートはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』（文部科学省）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	学生の興味関心に応じて適宜紹介する。
事前・事後学修	事前：指定された文献を読んでくる。あるいは、指定された課題に取り組む（20分）。 事後：授業をふまえて自分の興味・関心に沿ってさらに探求し、まとめていく（20分）。
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教職概論
科目責任者	飯田　真也
単位数他	２単位(30 時間)　選択　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	本授業は、今日の日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力を理解することを目的とします。教員の職務内容の全体像について理解を深めると同時に、教員研修の必要性や教員が果たすべき服務上・身分上の義務と身分保障について理解します。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担してチームとして組織的に諸課題に対応する必要性について理解していることを目標とします。
到達目標	１．日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。 ２．教員の職務内容の全体像や、教員研修の意義や生涯に渡って学び続けることの必要性を理解し、服務上、身分上の義務を及び身分保障を理解する。 ３．校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：教員になるために（教員免許状の種類） 第 2 回：教職の意義と教員の役割 第 3 回：学校教育の役割と社会的意義 第 4 回：教員の服務上・身分上の義務 第 5 回：教員の身分保障に関する法律 第 6 回：教員の研修制度と教員の権利 第 7 回：教員の職務内容:学校の一日を決めているもの 第 8 回：教員の職務内容:改革の動き 第 9 回：教員の職務内容：保育士・教員の仕事 第 10 回：教員の職務内容：教科指導 第 11 回：教員の職務内容：生徒指導 第 12 回：学校運営：理想の学校 第 13 回：地域との連携：コミュニティ・スクール 第 14 回：チームとしての学校：ケーススタディ 第 15 回：理想の先生：教員育成指標　まとめ 定期試験

アクティブラーニング	演習及び問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習
授業内のICT活用	Web Classの活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題５０％　　定期試験５０％
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	なし
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	毎回、教育に関する話題を提示するので、それに対するコメントをまとめておく（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間40分） 第12回後～15回前：レポート「学校や教師に関する本を読み、テーマを決めA4 1枚に考えをまとめる」（280分＝7回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	Web Classの活用
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」及び「教育行政職」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター（19SC 生）６セメスター（18SC 生）
DP 番号と科目領域	DP２専門
科目の位置付	（19SC 生）教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。 （18SC 生）保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
到達目標	1. 子どもの心身の発達と保育・教育の実践との関連について心理学的に説明できる。 2. モノ・ヒト・コトとの対話を通して学ぶ学習の過程を心理学的に理解できる。 3. 心理学的な根拠に基づいた保育・教育の方法について説明できる。
科目概要	この科目では、子どもの心身の発達および学習に関する心理学理論を学び、それを保育や教育実践に活かす方法や優れた保育・教育の実践を支える心理学的根拠について学びます。そのため、教科書だけでなく、実践事例や映像などを用いて、学生が自身の学びを踏まえて考え、討論する場面を設定し、実践につながる学びが生まれるようにします。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：教育と学習と発達の関係 第 2 回：「わかる」とはどういうことか 第 3 回：子どもの心を「わかる」ために 第 4 回：学習理論①行動主義（レスポンデント条件づけとその応用） 第 5 回：学習理論①行動主義（オペラント条件づけとその応用） 第 6 回：学習理論②認知主義（ピアジェ vs. ヴィゴツキー） 第 7 回：「発達の最近接領域」と遊び 第 8 回：学習理論③状況主義（社会文化的アプローチと LPP） 第 9 回：教育者の「指導・援助」を科学する①学びが生まれる環境 第 10 回：教育者の「指導・援助」を科学する②言葉と思考の発達を促進する方法 第 11 回：教育者の「指導・援助」を科学する③社会性の発達を支える方法 第 12 回：教育者の「指導・援助」を科学する④遊びの中の学び／学びの中の遊び 第 13 回：知能と障害の科学と文化 第 14 回：教育実践の中に見る心理学的方法 第 15 回：まとめ 定期試験

アクティブラーニング	テーマに関連した保育実践をＤＶＤで視聴したり、実際の保育場面のエピソードに基づいたロールプレイやディスカッションを行ったりします。
授業内のICT活用	インターネットで公開されている教育心理学に関連した動画も活用するなど、理論と実践をつなげた理解を目指します。
評価方法	筆記試験80%・リアクションペーパーの記述20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの質問や優れた記述は授業で紹介し、コメントします。
指定図書	授業に関連した自作のスライドやプリントを用いて授業します。
参考図書	市川伸一『学習と教育の心理学』(岩波書店)、竹田契一『インリアルアプローチ：子どもとの豊かなコミュニケーションを築く』(日本文化科学社)、佐伯胖『「わかる」ということの意味』『「学ぶ」ということの意味』(岩波書店)
事前・事後学修	事前：事前課題に取り組み、授業に臨んでください（２０分)。 事後：試験に向けた自筆のノートづくりを進めてください（２０分)。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員・中学校特別支援学級教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	太田雅子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	教育・保育の専門職としての幼児理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて学ぶ。さらに幼児理解の具体的な方法である観察、記録、省察・保育の改善について、実際に体験しながら理解する。教師間・保護者との情報共有の具体的方法について学ぶ。発達支援や幼小接続における幼児理解のあり方につい手も検討する。保護者支援における知識・技術についての理解を深める。
到達目標	1.　幼児理解についての知識を身につけ、考え方及び基礎的態度について理解する。 2.　幼児理解の具体的方法について理解し実践する。 3.　幼児理解と評価（反省・改善）について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜科目担当＞ 第 1 回 ：　幼児理解とは。子どもを取り巻く社会 家庭と子どもの成長・発達における課題　太田 第 2 回 ： 適切な幼児理解に向けて①：子どもとの信頼関係作り　鈴木 第 3 回 ： 適切な幼児理解に向けて②：子どもの行動と内面の理解　鈴木 第 4 回 ： 適切な幼児理解に向けて③：教師間での情報共有・学び合い　鈴木 第 5 回 ： 適切な幼児理解に向けて④：保護者との情報共有・相互理解　鈴木 第 6 回 ： 幼児理解と評価の具体的方法①：触れ合いを通して・記録と考察　太田 （於大学附属こども園） 第 7 回 ： 幼児理解と評価の具体的方法②：観察・記録の工夫　太田 第 8 回 ： 幼児理解と評価の具体的方法③：エピソード記録を取ってみる　太田 （於大学附属こども園） 第 9 回 ：　幼児理解と評価の具体的方法④：記録からの読み取り―学び・発達と援助・指導 ドキュメンテーション・ラーニング・ストーリー　太田 第 10 回：幼児理解と評価の具体的方法⑤：記録からの読み取り　鈴木 集団生活と教師の役割 第 11 回：幼児理解と評価の具体的方法⑥：記録からの読み取り　鈴木 いざこざ・葛藤場面 第 12 回：幼児理解と評価の具体的方法⑦：指導計画と評価　鈴木 幼児の姿と援助・指導の改善 第 13 回：幼児理解と評価の具体的方法⑧：発達上の課題が見られる子どもの理解及び保護者に対する個別支援―カウンセリングの知識と技術　鈴木 第 14 回：幼児理解と評価の具体的方法⑨：学びや発達の連続性と小学校への接続　鈴木 第 15 回：幼児理解のための原理・対応の方法についての総括　鈴木
アクティブラーニング	現場での観察・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	小テスト 40%、レポート課題 40%、授業への取り組み 20%　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」　「幼稚園教育要領（解説付き） 幼児理解に基づいた評価（平成 31 年 3 月）文部科学省（著/文）チャイルド社
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。　原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国語科指導法
科目責任者	福重　浩之
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	近年、児童、生徒の学びに問題があるといわれている。その背景や要因を検討することは、問題状況を克服することにつながる。よって、学びの問題を通して「国語科の授業とは何か」を考えてみる必要がある。 本授業では、国語科指導の意味・役割、技術を中心に、国語科を教えることは子どもにとって何を意味するのか、子どもにとって価値ある学びとはどのようなものか、人間として成長していく子どもに、国語科は何ができるのか、を考えていく。 授業方法は、講義を基に、小集団で自己の教育体験を出し合いながら教育実践を構想し、模擬授業に繋げていくことを中心とする。「みんなで楽しむ」ことを基本に、実のある授業にしていく。
到達目標	・国語科における学びの問題と教育方法の課題について理解する。 ・国語科における学びの問題に応え得る授業とは何かを理解する。 ・模擬授業のデザインと実践を通して、基礎的実践力を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： ガイダンスー学びの問題と教育方法の課題 第 2 回： 学びの問題に応え得る授業Ⅰ―教師の言葉、教授行為を中心に 第 3 回： 学びの問題に応え得る授業Ⅱ―これまでの教育方法（説明的文章教材）を中心に 第 4 回： 学びの問題に応え得る授業Ⅲ―これまでの教育方法（文学的文章教材）を中心に 第 5 回： 学びの問題に応え得る授業Ⅳ―これまでの教育方法（作文）を中心に 第 6 回： 学びの問題に応え得る授業Ⅴ―これまでの教育方法（書写）を中心に 第 7 回: 学びの問題に応え得る授業Ⅵ―これからの国語科教育方法を中心に（ICT の活用法を含む） 第 8 回： 子どもの可能性をとらえる授業分析 第 9 回： 学びの問題に応える授業からの構想Ⅰ（教材研究） 第 10 回：学びの問題に応える授業からの構想Ⅱ（指導案作成） 第 11 回：模擬授業と分析Ⅰ（説明的文章教材） 第 12 回：模擬授業と分析Ⅱ（文学的文章教材） 第 13 回：模擬授業と分析Ⅲ（作文） 第 14 回：模擬授業と分析Ⅳ（書写） 第 15 回：まとめ ―新しい実践を創造するために 定期試験

アクティブラーニング	毎時間の課題を、小集団で主体的、対話的に解決していく。また、模擬授業は小集団で立案、発表し、全体で考察する。
授業内のICT活用	グループ発表、模擬授業でのプレゼンテーションではパワーポイントの利用を推奨する。 Webclassの活用
評価方法	(1)授業に対する姿勢20%(2)授業レポート、提出物、発表40%(3)期末レポート40%　計100%
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。
指定図書	「小学校学習指導要領解説　国語編」（平成29年6月告示　文部科学省） 「小学校学習指導要領」（文科省）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClassにまとめ、次回の授業に臨む。(40分程度)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会科指導法
科目責任者	中村　俊哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	・初等社会科の理論、目標、内容、教育方法、他教科の関連、情報機器の活用などの基礎的知識を理解することができる。 ・指導案を作成し、模擬授業などを行うことができる。
到達目標	初等社会科教育の理論と実践、学習指導要領の目標・内容・方法について理解したうえで、授業を構成し、展開できる方法を身につけ、実際に指導案を作成し、模擬授業ができるようにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： オリエンテーション・小学校社会科授業実践と分析 第 2 回： 小学校社会の目標・内容・指導上の留意点 第 3 回：小学校社会科の成立過程と変遷 第 4 回：小学校社会の原理と現状と課題－社会的味方・考え方・問題解決・主体性・思考力・表現力・公民的資質等― 第 5 回： 小学校社会科の単元計画－幼児教育から中高等学校までの系統性・他教科との関連－ 第 6 回： 小学校社会科の教育課程－学習指導要領・指導書・教科書の関連－ 第 7 回: 小学校社会科地域学習の学習指導-授業実践記録から（児童の実態と教材性の重要性）- 第 8 回： 学習指導案の書き方①－教科書や指導案を比較分析・指導案の構成・授業展開・評価－ 第 9 回： 学習指導案の書き方②－児童・地域の実態・情報機器の利用・板書の役割－ 第 10 回： 学習指導案の作成・検討 第 11 回： 模擬授業・模擬授業の分析①（地域学習） 第 12 回： 模擬授業・模擬授業の分析②（生活環境を支える諸活動） 第 13 回： 模擬授業・模擬授業の分析③（産業・国土学習） 第 14 回： 模擬授業・模擬授業の分析④（歴史・政治） 第 15 回： 模擬授業・模擬授業の分析⑤（国際理解・環境）まとめ 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	模擬授業やグループワークを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	指導案・模擬授業（60%）、授業への参加態度（40%）
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	算数科指導法
科目責任者	飯田真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	算数科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、算数科の授業を担当するための指導力を身につける。
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 授業とは何か：算数授業のゴール 第 2 回： 目標・全体構造・系統性の理解 第 3 回： 「数と計算」のつまずき分析 第 4 回： 「図形」のつまずき分析 第 5 回： 「測定」のつまずき分析 第 6 回： 「変化と関係」のつまずき分析 第 7 回： 「データの活用」のつまずき分析 第 8 回： つまずき分析から学習指導法を検討する 第 9 回： ICT や教材の効果的な活用方法と学習指導案 第 10 回：「数と計算」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 11 回：「図形」 の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 12 回：「測定」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 13 回：「変化と関係」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 14 回：「データの活用」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 15 回： まとめ 定期試験

アクティブラーニング	つまずき分析の協議を通した子どもの思考過程の探究 グループによる模擬授業の立案と発表
授業内のICT活用	Web Classの活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題５０％　　定期試験５０％
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。
指定図書	「小学校学習指導要領解説算数編」「小学校学習指導要領」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	第1回～　9回：学習指導要領該当箇所の精読（事前・事後学習） 第10回～14回：指導案の作成と模擬授業の準備（事前・事後学習） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間80分＝2回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国語
科目責任者	福重　浩之
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	初等国語教育の目標・内容・方法のすべてにわたって、国語の授業を担当するための基礎となる知識、理解、技能の修得をめざす。そのためにはまず、国語教育とは何であるかを考えていく。そして、「聞く、話す、書く、読む」領域の各学年での目標や内容を段階的に理解し、これまで実践されてきた手法を参考にしながら、現代の子どもたちに合った実践方法を構築していく。さらに、どのような展開であれば効果的なのかを、具体的な教材を通して探求し実践力を養っていきたいとも考えている。 本講義は、「みんなで楽しむ」ことを基本にしている。力を結集し、実のある授業にしていきたい。
到達目標	・初等国語の構造と内容についての知識の獲得。 ・初等国語指導法についての理論的理解。 ・初等国語授業を構想する力量の習得。
授業計画	授業計画 第 1 回 ：ガイダンス 第 2 回 ：国語教育の意義と目標 第 3 回 ：国語教育の構造と内容 第 4 回 ：話しことば教育の目標・内容・方法Ⅰ（低学年の指導事項を中心に） 第 5 回 ：話しことば教育の目標・内容・方法Ⅱ（中・高学年の指導事項を中心に） 第 6 回 ：作文教育の目標・内容・方法 第 7 回 ：文学教育の目標・内容・方法Ⅰ（絵本を中心に） 第 8 回 ：文学教育の目標・内容・方法Ⅱ（古典的物語を中心に） 第 9 回 ：文学教育の目標・内容・方法Ⅲ（現代的物語を中心に） 第 10 回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅰ（低学年の指導事項を中心に） 第 11 回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅱ（中・高学年の指導事項を中心に） 第 12 回：「我が国の言語文化に関する事項（古典）」 第 13 回：「我が国の言語文化に関する事項（語彙・文法）」 第 14 回：「我が国の言語文化に関する事項（書写）」 第 15 回：まとめ―これからの国語教育の展望 定期試験

アクティブラーニング	指導法に対する問題点を、小集団で主体的・対話的に見出し、解決策を考え、実践方法をも構築する。
授業内のICT活用	グループ発表時のプレゼンテーションは、パワーポイントの利用を推奨する。 Webclassの活用
評価方法	1)授業に対する姿勢20%　2)授業レポート、提出物、発表40%　3)期末レポート40% 計100%
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修時では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。
指定図書	「小学校学習指導要領解説　国語編」（平成29年6月告示　文部科学省） 「小学校学習指導要領」（文科省）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClassにまとめ、次回の授業に臨む。（40分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会
科目責任者	中村　俊哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	・小学校社会科の授業内容を実践的に体験する活動を通して、小学校社会科に関する基礎的知識を理解する。地域にで、自ら地域教材開発を行う。また、社会科の教科書から学習内容や基礎的知識を習得する。
到達目標	・小学校社会科教育や社会科に関わる教材に対して興味と関心をもつことができる。 ・社会科の今日的教育的意義を理解する。また、教材研究の進め方についての方法を習得し、教材を開発する。 ・社会科に関する基礎的な知識を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ： オリエンテーション　私が考える社会科 第 2 回 ： 今日的な教育の意義と社会科 第 3 回 ： 学習指導要領と社会科 第 4 回 ： 生活科と社会科の系統性と相違ー町探検を中心にー 第 5 回 ： 地域探検（地図づくり）と教材性について 第 6 回 ： 教材づくりの方法と各学年の単元 第 7 回 ： 略案（指導案）作成方法 第 8 回 ： 地域探検（探索） 第 9 回 ： 地域探検（教材づくり） 第 10 回： 略案（指導案）作成 第 11 回： 指導案発表①前半グループの発表 第 12 回： 指導案発表②後半グループの発表 第 13 回： 自分の故郷を教材にして（故郷を題材にする意義） 第 14 回： 自分の故郷を教材にして（教材作成） 第 15 回： 故郷教材の発表 ※適宜小テストを行う。定期試験は実施しない

アクティブラーニング	簡易な模擬授業やグループワークを行う。
授業内のICT活用	個人・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して実施します。
評価方法	授業への参加態度（30%）、指導案（略案）・発表（40%）、小テスト（30%）
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省）
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して 受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校公立公務員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	算数
科目責任者	飯田　真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校算数科の指導内容に関する数学的背景について理解することを目的とする。 具体的には、学習指導要領に示されている算数科の目標、内容について、それぞれの領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の具体的な事例を知り、その数学的背景についての問題を解くことで、指導に必要な知識、技能を身につける。
到達目標	算数科の目的、目標、内容について理解する。 具体的な問題演習を通して指導に必要な力を身につける。 それぞれの領域の数学的背景及び指導上の留意点を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ： 算数科の意義・目的・目標 第 2 回 ： 算数と数学 第 3 回 ： 数と計算：数とは何か 第 4 回 ： 数と計算：数をどう表すか 第 5 回 ： 数と計算：四則演算は、何を求める計算か 第 6 回 ： 数と計算：四則演算のゴール 第 7 回 ： 「九九表」を通した各領域にまたがる数学的な考え方 第 8 回 ： 量の分類　量からみた乗法 第 9 回 ： 小数と分数 第 10 回： 図形：図形の見方「構成要素」 第 11 回： 図形：図形の見方「対称　比」 第 12 回： 立体　面積・体積 第 13 回： データの活用：統計グラフと代表値等 第 14 回：変化と関係：ルールの見出し 第 15 回： まとめ 定期試験
アクティブラーニング	演習及び問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習

授業内のICT活用	Web Classの活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題５０％　　定期試験５０%
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説算数編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間40分） 第12回後～第15回前：レポート「算数に関する本を読み、テーマを設定しA4 1枚に考えをまとめる」（320分＝8回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理科
科目責任者	飯田　真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領に示されている理科の目標、内容について、それぞれの領域の具体的な事例を取り上げ、その背後にある理論の理解や、問題を解くことで指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。
到達目標	理科の目的、目標、内容について理解する。 取り上げる単元の背後にある理論を理解する。 それぞれの領域の指導上の留意点を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ： 理科の意義・目的 第 2 回 ： 理科の内容・構成　見方・考え方 第 3 回 ： 生命領域：生態学的見方とその活用 第 4 回 ： 生命領域：「動物」と生存戦略 第 5 回 ： 生命領域：「植物」と生存戦略 第 6 回 ： 生命領域：「人体」と身体機能 第 7 回 ： 物質領域：「物質の性質」 第 8 回 ： 物質領域：「物質の多様性」と「物質の変化」 第 9 回 ： 物質領域：変化の原因 第 10 回： エネルギー領域：「力学的エネルギー」と教材開発 第 11 回： エネルギー領域：「音と光」と教材開発 第 12 回： エネルギー領域：「エネルギーの変換」 第 13 回： 地球領域：「変動と循環」 第 14 回： 地球領域：「天体活動」 第 15 回： まとめ 定期試験

アクティブラーニング	問に対する意見表明や、観察・実験の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの観察・実験及び協議 ・演習
授業内のICT活用	Web Classの活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題５０％　　定期試験５０%
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 記述による学習記録（事後学修） （目安40分） 第9回後、レポート「キー概念を活用した現象解読」（160分＝4回分を要する） 第12回後～15回前：レポート「理科に関する本を読み、テーマを決めA4 1枚に考えをまとめる」（280分＝7回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こどもと生活
科目責任者	飯田　真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領に示されている生活科の目標、内容について、それぞれの内容を追体験することや、生活科の背景にある理論を学ぶことで、指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。
到達目標	生活科の目的、目標、内容について理解する。 体験活動を通じて指導に必要な力を身につける。 それぞれの内容の指導上の留意点を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ： 生活科の意義・目的：生活科誕生　生活科における自己紹介 第 2 回 ： 生活科の実際：学校探検：小学１年生 第 3 回 ： 生活科の実際：学校探検：小学２年生 第 4 回 ： 生活科目標の構成と背景 第 5 回 ： 生活科の実際：飼育・栽培活動 第 6 回 ： 生活科の内容構成 第 7 回 ： 各学年の目標：他教科との比較 第 8 回 ： 生活科の実際：「生命尊重」を教科横断的に探究 第 9 回 ： 幼小接続：幼児期の遊び・「10 の姿」から生活科を考える 第 10 回： 「遊び」と「学習」をつなげるもの 第 11 回： 生活科の実際：おもちゃを作り遊ぶ 第 12 回： 生活科の実際：表現 第 13 回： 生活科の実際：地域探検 第 14 回： 生活科の実際：地域探検の成果の検討 第 15 回： 生活科の実際：自己の成長　まとめ 定期試験

アクティブラーニング	生活科の学習内容を体験する場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・体験活動 ・体験活動を通した理論について小集団で協議 ・演習
授業内のICT活用	Web Classの活用
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題５０％　　定期試験５０%
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省） 「実践事例で学ぶ10の姿と生活科」（大学図書出版）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間４０分） 第11回後～12回前：小グループによる工作を完成させ、12回で成果を発表できるよう準備する（120分＝3回分を要する）。 第13回後～14回前：小グループによる探究活動を実施し、14回で成果を発表できるよう準備する（240分＝6回分を要する）。
オープンエデュケーションの活用	グループ発表に向けた探究活動
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こどもと音楽
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	児童の遊びと学びの精神に溢れた音楽活動ができる環境を設定できるように、教育者として必要な音楽の基本的知識と技能を身に付ける。具体的には、音楽指導と実践に必要となる楽典を学ぶことで音楽理論に関する知識を得る。また、器楽や歌唱による音楽表現を体験し、その音楽的感覚を持って教育現場での音楽的活動の実践ができる技術を養う。
到達目標	１．楽典を学び、譜表、音名、リズム、音程、楽語、音階、調性などについて理解する。 ２．鍵盤楽器及び打楽器の構造や奏法を理解し演奏することが出来る。 ３．合唱曲に取り組み、和声感や音程感覚を身に付け演奏することが出来る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　〈担当教員：二宮、金山（第6～11 回）〉 第 1 回：小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領の音楽に関する内容について理解する。 第 2 回：譜表、音名、音符、休符、リズム、拍子について理解する。 第 3 回：音程、音階、調性について理解する。 第 4 回：三声の基本コードについて理解する。 第 5 回：主要三和音、属七の和音、簡易伴奏について理解する。 第 6 回：小学校音楽科共通教材 1、2、3 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第 7 回：小学校音楽科共通教材 4、5、6 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第 8 回：小学校や幼稚園で扱う楽器を教材に用いて、奏法について理解する。 第 9 回：小学校や幼稚園で扱う鍵盤楽器、打楽器を用いて演奏し、合奏について理解する。 第 10 回：器楽合奏の発表を通して演奏方法について振り返りまとめる。 第 11 回：合唱の基礎である呼吸法と歌唱法を理解する。 第 12 回：二声体の曲を教材として用いて、二声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第 13 回：四声体の曲を教材として用いて、四声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第 14 回：四声体の合唱を通して音楽のテクスチュアを感じ取り歌唱表現について理解する。 第 15 回：四声体の合唱の発表を通して歌唱表現について振り返りまとめる。 定期試験

アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修に取り組みます。
授業内のICT活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けたICT活用による学修を展開する。
評価方法	器楽合奏の取り組み30%　合唱の取り組み30%　定期試験40%（レポート）
課題に対するフィードバック	譜読みした曲に取り組み、演奏法や音楽表現について講評します。
指定図書	『最新・幼児の音楽教育』（朝日出版社）
参考図書	『幼稚園教育要領』（文部科学省）『小学校学習指導要領』（文部科学省）
事前・事後学修	指定図書・参考図書を読み、掲載されている楽譜の譜読みを行って下さい。事前・事後学修は、それぞれ40分間程度行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	合唱等の演奏を人前で披露し表現力の向上に生かす。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	こどもと美術
科目責任者	鈴木光男
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、児童・幼児の発達と図画工作科学習や造形表現活動の関係をふまえた材料・技法についての検討、また作品制作の実習を通して、学生自身が造形表現の楽しさや喜びを体験し、児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動に適切な題材･教材の選択や支援ができるようにする。
到達目標	1. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。 2. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義を理解する。 3. 図画工作科学習や造形表現活動の基盤となる造形・美術の実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：材料との出会い－１：紙との出会い／オリエンテーション 《学生の準備物》はさみ、のり 第２回：材料との出会い－２：紙と対話する ・新聞紙をもとにした活動でアイスブレーキング　・紙への造形操作（切る・折る・曲げる…） 《学生の準備物》はさみ、カッターナイフ、のり、定規 第３回：行為の楽しさ-１：粘土を知る 《学生の準備物》学習途中では裸足で活動するので、裸足になりやすい服装、また エプロン・前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。手足をふくタオルなど。 第４回：材料との出会い－３：パスとの出会い ・パスによる多様な表現技法 《学生の準備物》 パス（オイルパスもしくはクレヨン） 第５回：行為の楽しさ-２：絵の具を知る（色水屋さんごっこ・混色・重色） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第６回：行為の楽しさ-３：絵の具を知る（絵の具で描く･塗る） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第７回：行為の楽しさ-４：絵の具をきわめる（筆洗・パレット・筆の基本的な扱い） ・ローラー遊び　・スタンピング　・指絵の具　・デカルコマニー 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第８回：行為の楽しさ-５：絵の具をきわめる（絵の具と他の材料･用具との併用） ・スパッタリング　・バチック　・マーブリング など 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第９回：題材との出会い－１：版遊び・版画（スチレン版画） 第 10 回：題材との出会い－２：版遊び・版画（紙版画） 第 11 回：材料との出会い－５：水と墨の魅力 《学生の準備物》割り箸、エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 12 回：子供と創る壁面構成-１：イメージの共有 実際の小学校や幼稚園の壁面構成を鑑賞しながら、小学校や幼稚園における壁面構成の意味と課題を探る。 第 13 回：子供と創る壁面構成-２：共有（様々な表現技法や材料の特徴を生かした壁面構成、造形的な教室環境の設定を考える。） 第 14 回：子供と創る壁面構成-２：共創（共同制作する。） 第 15 回：子供と創る壁面構成-３：鑑賞（展示し、鑑賞する。） 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議 グループによる共同制作と発表
授業内のICT活用	特になし。 時に、Web動画の視聴などに使用する。
評価方法	（1）授業で課した課題・作品（スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオ）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ・スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。(提示方法：別紙配布)
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」(萌文書林) 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版)」(日本文教出版)
事前・事後学修	全ての授業で、概ね40分を目安に事前・事後学修に取り組み、記述による学習記録（事後学修)・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオとしてのスケッチブックの作成・整理（事前・事後学修)
オープンエデュケーションの活用	・自主学習として、以下のURLの番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	家庭
科目責任者	小清水 貴子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校家庭科の学習指導要領や教科書に基づいて，基礎的・基本的な小学校家庭科の知識及び技能，思考力・判断力・表現力等に関する理解を深めます。また，小学校家庭科の教材研究等に必要な知識及び技能を身につけます。
到達目標	小学校教員として必要な家庭科に関する教科力を身につけることを目指します。具体的には，小学校家庭科の授業実践に求められる基礎的・基本的な知識及び技能，見方・考え方，思考力・判断力・表現力等を，授業場面を意識しながら身につけます。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞小清水　貴子（第1～4、6～15 回担当） 古橋　啓子（第5回　調理実習担当） 第１回：小学校家庭科における指導内容と見方・考え方等の位置づけ 第２回：児童の発達段階（第５学年，第６学年）に応じた指導内容の接続 第３回：「A家族・家庭生活」の教材研究に必要な知識及び技能，見方・考え方等 第４回：「A家族・家庭生活」の学習指導のための教材研究 第５回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能 第６回：「B衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な見方・考え方等 第７回：「B衣食住の生活」の食生活の学習指導のための教材研究 第８回：「B衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な知識及び技能 第９回：「B衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な見方・考え方等 第１０回：「B衣食住の生活」の衣生活の学習指導のための教材研究 第１１回：「B衣食住の生活」の住生活の教材研究に必要な知識及び技能，見方・考え方等 第１２回：「B衣食住の生活」の住生活の学習指導のための教材研究 第１３回：「C消費生活と環境」の教材研究に必要な知識及び技能，見方・考え方等 第１４回：「C消費生活と環境」の学習指導のための教材研究 第１５回：まとめ 課題レポート

アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，実習，対話・討議を行います。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	課題レポート（６０％），毎回の授業の最後に提出する小レポート（４０％） レポートはルーブリックを用いて評価し，ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版 伊藤葉子編著『授業力ＵＰ家庭科の授業』（日本標準）
参考図書	授業において適宜資料を配布します。
事前・事後学修	毎回の授業で，本時のまとめと次時の予告をします。指定図書や参考図書を用いて，自分ができなかった課題について復習するとともに，次時の事前課題に取り組んでください。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として，以下のURLの番組の視聴路進めます。 NHK for School カテイカ　https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こどもと体育
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの体育活動、運動遊び及び身体表現活動を豊かに展開するために、子どもの発育･発達と運動機能や身体表現についての知識と技術を学び、発達にあった体育活動、運動遊びを促すことができる環境構成、具体的展開のための技術を習得する。 子どもの指導・援助者として、子どもの表現を受け止め共有できる開かれた身体をつくることを目標に、柔軟性を高め、姿勢や歩行のレッスンを行い、自らの身体や運動への意識を高める。
到達目標	1 子どもの発育発達過程に沿った体育、運動遊びやリズム遊びの重要性を理解する。 2 発育発達過程をいかして運動遊びや身体表現を促すことができる環境設営、指導方法を習得する。 3 子どもの指導・援助者にふさわしい姿勢、柔軟性を身につけ、身体への意識を高める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 柔軟な身体の重要性 第 2 回：子どもの発育発達過程　姿勢の重要性 第 3 回：発育発達過程に沿った運動遊び 第 4 回：コアキッズ体操 第 5 回：発育発達過程にあったリズム遊び 第 6 回：環境に適応するための運動遊び（くぐる、わたる、ぶらさがる、のぼる） 第 7 回：運動遊びから児童の運動への展開 第 8 回：　ボールを使った運動遊び 第 9 回：　フープを使った運動遊び 第 10 回：なわを使った運動遊び 第 11 回：年齢に応じた運動遊びの実際（幼児） 第 12 回：体つくりの運動遊び(小･低学年) 第 13 回：体つくり運動（小･中学年） 第 14 回：体つくり運動（小･高学年） 第 15 回：実技発表　まとめ ＊運動着、体育館シューズを用意してください。

アクティブラーニング	○実技　○グループワーク　○実技発表 実技科目です。
授業内のICT活用	実技動画視聴のためにプロジェクター、iPadを使用する。
評価方法	実技発表 50%　　授業への取組（意欲・積極性　WebClassへの学びの記録）　50%
課題に対するフィードバック	実技発表についてはその場で講評します。 WebClassのタイムラインで、意見・質問に対応します。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	文部科学省「体つくり運動：授業の考え方と進め方(改訂版)」東洋館出版社 「幼児期運動指針ガイドブック」文部科学省
事前・事後学修	子どもの支援者にふさわしいように健康状態、身なりを整えて、授業に臨む。 毎回、授業後にWebClassに学びを記録する。(30分) 授業での学びを日常生活に活かし、姿勢を意識し、身体への意識を高め、生活する。 ストレッチなどの運動を習慣化する。(10分、週3日以上)
オープンエデュケーションの活用	<NHK>2020応援ソングプロジェクト https://sports.nhk.or.jp/dream/song/about/
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示
実務経験に関する記述	本科目は「幼児体育指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こどもと英語
科目責任者	パターソン・ドナルド
単位数他	２単位（30時間）　選択　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校における授業実践に必要な英語力と知識を身につけることを目的とする。学生自身が英語の 4 技能・コミュニケーション能力を向上させるための方法を学ぶ。さらに、英語に関する基礎的な知識（音声・語彙・文構造・文法等）、第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。また、英米の児童文学や言語の背景にある文化の理解への興味や知見を広げる。
到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践運用能力を、授業場面を意識しながら身につける。 2. 中学校への接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。
授業計画	＜担当教員名＞ パターソン・ドナルド、他 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 ： 音声による授業実践「聞くこと・話すこと（やりとり・発表）」 第 2 回： 英語ネイティブの人々との話し合い 第 3 回： 文字による授業実践「読むこと・書くこと」 第 4 回： 英語でeメールをする 第 5 回 ： 技能統合型の活動　実践の様子から学ぶ（小学校での英語活動に参加） 第 6 回 ： 第二言語習得論と言語学 第 7 回 ： 英語の音声の仕組み 第 8 回 ： 英語の音声と綴りの問題及びフォニックス指導 第 9 回 ： 英語の文法及び構文法 第 10 回 ：英語の伝承童謡（マザーグース等）（小学校・こども園での英語活動に参加） 第 11 回 ：英米の絵本（エリック・カール等）（小学校・こども園での読み聞かせを行う） 第 12 回： 英米の児童文学（CSルイス等） 第 13 回： 英米の文学と生活 第 14 回：多様性と異文化理解と 第 15 回： 異文化交流と言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション

アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、プレゼンテーション、Google Classroomの活用
授業内のICT活用	ICT機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	授業への参加度・提出課題（60%）、試験（40%）
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	『Hello, English』(成美堂) Fujiwara, Aiba, Byrd, Barrows（作者）（ISBN 9784791947973）
参考図書	『小学校学習指導要領解説　外国語編』文部科学省 『Hi, friends 1』『Hi, friends 2』東京書籍 『フォニックス指導の実際』ハイルマン、A.W(松香洋子監訳)　玉川大学出版部 『先生、英語のお話を聞かせて！−小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』 ゲイルエリス他著　玉川大学出版部
事前・事後学修	Google Classroomによる課題、レポート。 ※原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	こどもと言葉
科目責任者	福重　浩之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	絵本、紙芝居、劇遊び等に関する知識と技術を習得することを目的とする。子どもが児童文化財等について親しむことができるよう、保育現場での遊びへの導入についても演習を通して学修する。自分で作成した作品は、保育実習に生かす。
到達目標	・子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター等の遊びを中心に保育現場での実践に必要な言葉の表現技術を養う。 ・絵本、紙芝居について理解し、保育実践につなげる方法・技術を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回 : オリエンテーション 「乳幼児の言葉の発達と言葉遊び」 第　2 回 : 絵本の秘密と読み語りの方法 第　3 回 : 読み語りをしよう 第　4 回 : 読み語りから劇遊びをしよう 第　5 回 : 劇遊びを発表しよう 第　6 回 : 絵本（5 歳児向け）を作ろう（企画） 第　7 回 : 絵本（5 歳児向け）を作ろう（製作） 第　8 回 : 絵本の世界を楽しもう 第　9 回 : 紙芝居の秘密と読み語りの方法 第 10 回 : 紙芝居をしよう 第 11 回 : ペープサートを作ろう（個人・グループ） 第 12 回 : ペープサートを紹介しよう（個人・グループ） 第 13 回 : 紙コップでパペットを作ろう（個人・グループ） 第 14 回 : パペット、ペープサートで劇をしよう（個人・グループ） 第 15 回 : こどもとことばとは

アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	WebClassの活用
評価方法	レポート・演習（ペープサート・パネルシアター・朗読・創作絵本）60%　期末レポート40% レポート・演習はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	ペープサート・パペット・パネルシアター・からくり絵本等自作の文化教材については、指定期日までに自主作成し、授業内でグループ発表をする。また、毎回の演習に関するリフレクションシートには、コメント等を入れつつ、支援していく。
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	言葉に関する保育指導に関しては、授業前に事前課題として回答し、児童文化財の演習を通して理解を深め、WebClassにまとめる。（2～10回目）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こどもの歌と伴奏
科目責任者	二宮貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　　３―４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、幼児教育の現場で必要なピアノの弾き歌いに関する知識と技術について学習する。それぞれのレベルに応じた個人レッスンを中心に、グループ単位の実技のレッスンやクラス単位で音楽理論に関する講義も行う。過去の採用試験に出題されたピアノ曲や弾き歌い曲などにも挑戦する。伴奏技術の修得のみならず歌唱の技術の修得にも重きを置く。
到達目標	１．弾き歌いに関する様々な伴奏法について理解できる。 ２．コード進行法を理解し、コード伴奏を使った弾き歌いができる。 ３．弾き歌いのレパートリーを広げ、保育・教育の現場で即座に実践できる弾き歌いができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 二宮　笹瀬　藤井　金山 ＜授業内容・テーマ等＞ 保育士・幼稚園教諭として現場で弾き歌いができるよう、技術や表現力を個人レッスンによってみにつける 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 : 季節の歌①春　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ｖ度）正しい発声 第 3 回 : 季節の歌②夏　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ｖ度）響く声 第 4 回 : 季節の歌③秋　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ｖ度）息の流れと共鳴のさせ方 第 5 回 : 季節の歌④冬　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ｖ度）頭声と胸声 第 6 回 : 生活の歌①登園時　朝、園で歌う歌などを中心にレッスンする 第 7 回 : 生活の歌②降園時　お片付けや帰り際に歌う歌などを中心にレッスンする 第 8 回 : 行事の歌①春～夏　入学時から春にかけての行事の歌をレッスンする 第 9 回 : 行事の歌②秋～冬　秋から冬にかけての行事の歌をレッスンする 第 10 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　テンポの速い曲 第 11 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　特徴的なリズムの曲 第 12 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　テンポの緩やかな曲 第 13 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　就職試験に出された曲　東海地方 第 14 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　就職試験に出された曲　関東地方 第 15 回 : 保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　演奏会 定期試験

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
授業内のICT活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けたICT活用による学修を展開する。
評価方法	授業態度　３０％　定期試験　７０％
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする
指定図書	★やさしく弾けるピアノ伴奏　保育のうた１２か月　新星出版社 ★こどものうた２００チャイルド本社 ※図書については担当教員と相談し購入すること
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲についてリズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現や演奏技術の向上に生かす。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	器楽
科目責任者	二宮貴之
単位数他	１単位（３０時間）　選択　　１－２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽Ⅰでは最低限習得しなければならないピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学習する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。
到達目標	１．ピアノ演奏における基礎的な知識と奏法を身に付け、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 ２．子どもの歌の伴奏法を身に付け、個々のレベルに応じてピアノを弾きながら歌うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 二宮　笹瀬　藤井　金山 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 : ピアノを弾く姿勢、手の形、指使いについて 第 3 回 : 音部記号（ト音記号とヘ音記号）について 第 4 回 : 音符の種類、拍子、付点のリズムについて 第 5 回 : 変化記号、音階について 第 6 回 : 右手でト音記号の練習、左手でヘ音記号の練習をする 第 7 回 : 左手と右手のユニゾンと反進行の練習、指の交差について 第 8 回 : 調号について 第 9 回 : 長調について 第 10 回 : 短調について 第 11 回 : 速度、強弱、いろいろな記号や用語について 第 12 回 : 実技試験に向けてのレッスン①楽譜に照らし合わせて音の確認 第 13 回 : 実技試験に向けてのレッスン②両手で練習をする 第 14 回 : 実技試験に向けてのレッスン③表情をつけて弾く 第 15 回 : 実技試験にむけてのレッスン④曲想やダイナミクスをつけて仕上げる 定期試験

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業への取り組み　３０％　実技試験７０％
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする。
指定図書	★保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のあめのピアノテキスト　楽典・身体表現教材付 カワイ出版 ※テキストが終了した者は個人レッスンを担当する教員と相談し次のテキストを購入すること ★やさしく弾けるピアノ伴奏　保育のうた１２か月　新星出版社
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの譜読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現力や技術の向上に生かす。
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	保育内容（健康）
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30時間）　選択　　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことができるよう、「明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことを支援する方法を様々な視点から理解し、考察し、実践につなげる。 具体的には、映像を通して発達段階をとらえ、各年齢に応じた健康の支援を理解した上で、生活リズム、遊び、運動、食事、排泄、清潔等をテーマとして、新聞記事や調査結果から現状を把握し、絵本や紙芝居等を活用した指導案、保護者向けおたよりを作成する。
到達目標	1 子どもの健康に関する現状・課題を理解し、健康的な生活を支援する方法を考察し、指導案、保護者向けおたよりを作成できる。 2 自身の健康について考え、支援者としてふさわしい健康習慣を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション　健康とは 第2回：幼児期の健康な生活 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」領域のねらいと内容 第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 基本的生活習慣の重要性 第4回：1歳児の健康とその支援　運動発達 第5回：2歳児の健康とその支援　生活リズム、睡眠、食事 第6回：3歳児の健康とその支援　排泄の習慣と自立 第7回：4歳児の健康とその支援　清潔、着脱の習慣と自立 第8回：5歳児の健康とその支援　遊びの発達とその支援 第9回：健康な生活習慣の形成の指導、援助と評価 第10回：テーマ別研究　子どもの姿を知る　情報機器及び教材の活用法 第11回：援助計画（指導案）の作成　活用する教材の選定 第12回：保護者向けおたよりの作成　情報機器の活用 第13回：援助計画（指導案）に応じた模擬保育の実施 第14回：安全教育と安全管理　幼保小接続と生涯発達 第 15 回：まとめ 支援者の健康習慣 定期試験

アクティブラーニング	○グループワーク　○ポスターセッション 子どもの健康生活習慣をテーマにグループ学習し、ポスターセッションで発表する。
授業内のICT活用	WebClassのアンケート機能を活用する。
評価方法	筆記試験50% グループ発表30% 授業への取組20%（参加度、ワークシート、WebClass）
課題に対するフィードバック	ワークシートを返却する。 グループ学修については授業内でフィードバックする。 試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。
指定図書	前橋明「乳幼児の健康」（第3版）大学教育出版
参考図書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 河原紀子「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」学研 谷田貝公昭「幼児の基本的生活習慣」一芸社 林万リ「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万リ「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会
事前・事後学修	指定図書の関連する部分を予習・復習する。（目安時間40分） 「保育内容」「発達心理学」「子どもの保健」等での学びと結びつける。 グループワークの際は、WebClassに学びを記録する。 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	

科目名	保育内容（言葉）
科目責任者	鈴木　まき子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業は講義と演習により構成され、講義を通して保育内容 5 領域全体の理解と「言葉」の領域の位置付けについて理解する。そのうえで保育実践のあり方、指導法について、子供の発達段階、個人特性、および保育環境という視点から学ぶ。演習では、保育計画（指導案）を作成し、実際に教材を用いて授業で発表する。さらに、保育・幼稚教育の歴史的経緯、現代の保育現場の多様性、現代的課題についても学び、これからの多様な保育の二―ズに対応できる知識と実践力を身につける。
到達目標	「言葉」の領域のねらいに則り、保育の現場においてどのように具現化するか、その指導法について学び、子供の特性や環境に配慮した保育実践を学ぶ。 １　子供の特性や発達段階に配慮した教材作成や言葉かけができる。 ２　保育の本質と保育と家庭生活の連続性を理解し、独自の保育指導案を作成する。 ３　子供の言葉を豊かに育む保育環境を構成し、実践する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：オリエンテーション　「ことば」及び児童文化財「エプロンシアター」について 「エプロンシアター」教材「エプロン」　購入 第　2 回：幼稚園教育要領および保育所保育指針について 幼保連携型認定こども園教育・保育要領. について 第　3 回：保育の基本と領域「言葉」 第　4 回：「手袋人形」の作成と語り 第　5 回：わらべ歌の演習 第　6 回：わらべ歌と乳幼児の言葉の発達 第　7 回：言葉とコミュニケーション、発達の道筋① 乳幼児期の言葉、コミュニケーション、社会性の発達 第　8 回：言葉とコミュニケーションの発達の道筋② 現代の乳幼児保育・教育の多様性と課題 第　9 回：言葉を育む保育者の役割と援助について 第 10 回：保育者が広げる物語の世界　「飛び出す絵本」の作成と語り 第 11 回：保育環境と言葉、体験を通して育つ言葉　子育て広場での実践① 保育計画（指導案）を作成、実際に教材を用いて発表する 第 12 回：子育て広場での実践②乳児対象の絵本の読み語り―教材研究と活用の仕方― 第 13 回：就学前の子供を対象とした保育活動　①　「エプロンシアター」上演 保育計画（指導案）を作成、実際に作成した教材を用いて発表する 第 14 回：就学前の子供を対象とした保育活動　② 第 15 回：まとめ　小テスト

アクティブラーニング	演習科目です。体験的に学ぶ中で、保育をする上での要点について考え、洞察を深めたいと考えます。
授業内のICT活用	模擬保育をビデオ撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、実践の振り返りをします。
評価方法	レポート・発表（指導案　模擬保育　子育て広場での取り組み）50% 小テスト 50%
課題に対するフィードバック	「幼児理解の理論と方法」の授業と連動させる。子供の成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の児童文化教材を中心に保育現場で活かせる必要な言葉の表現技術を養うことができたか、「模擬保育」「子育て広場」での実践により振り返る。多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につけることができたか、ビデオ撮影し、PDCAサイクルにて確認し、保育者としての自信をつける。保育所・幼稚園・こども園での実習に繋げる。
指定図書	保育内容指導法「言葉」田上貞一郎著　　高荒　正子著　　萌文書林 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領.
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。
事前・事後学修	【事前学修】子育てひろば、附属こども園での実践にあたり、発達にあった視聴覚教材を選ぶこと、グループごとで活動内容に関する指導計画の作成と準備をします。 【事後学修】課題項目に基づいた振り返りを行い、レポートの提出をします。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育内容（人間関係）（19SC 生）
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	「人にかかわる力」を育む領域「人間関係」の原理と実践を学びます。「人にかかわる力」は適切な環境と援助のもとで育つ力である。具体的な事例と実践方法を通して、子どもの育ちを支える方法（原理）について学ぶ。
到達目標	1. 子どもの発達過程と人間関係との関連を理解し、説明できる。 2. 領域「人間関係」に必要な指導・援助及び環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「人間関係」にかかわる実践方法を学び、実践の構想力をつける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 太田雅子　難波克己 第 1 回：領域「人間関係」のねらい・内容　太田 第 2 回：乳幼児期の発達と「人間関係」　自己の育ち　太田 第 3 回：人とのかかわりの育ち―保育実践と評価（保育記録からの読み取り）　太田 第 4 回：「人間関係」と遊び・活動の実際（集団ゲーム）　ゲストスピーカー　太田 第 5 回：模擬保育（指導計画の作成）　太田 第 6 回　「人間関係」における指導・援助の方法の実際　難波 クルト・ハーンについて、アドベンチャーアプローチについて 第 7 回　指導・援助の方法の実際　自分を見つめる　難波 第 8 回　指導・援助の方法の実際　自分を理解する　難波 第 9 回　指導・援助の方法の実際　自分を解放する　難波 第 10 回　指導・援助の方法の実際　相手を知る　難波 第 11 回　指導・援助の方法の実際　相手を理解する　難波 第 12 回　指導・援助の方法の実際　コミュニケーション　難波 第 13 回　指導・援助の方法の実際　共同・チームワーク　難波 第 14 回　指導・援助の方法の実際　まとめ　難波 第 15 回：全体のまとめと振り返り（レポート）　太田
アクティブラーニング	保育実践方法を実際に遊びや活動を通して学ぶ。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（振り返り―リアクションペーパー）を含む：50%　レポート：50% レポートはルーブリックを提示―評価する。

課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパーを元に次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	2017 年改訂版「幼稚園教育要領（解説付き）」・「保育所保育指針（解説付き）」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 プリントを配布する。
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境や援助について考察するための内容を提示する。 【目安時間 40 分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	保育内容（環境）
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３～４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	５領域のひとつ「環境」を通年で学ぶ科目です。幼児は身近な環境にどのようにかかわり、何が育つのか。幼児の「環境とかかわる力」を育てるために、保育者はどのように援助しているのか。具体的な活動や事例を通して基本を理解し、領域「環境」の内容に関連した実践を計画、実践、評価できる力を培います。
到達目標	1.『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の領域「環境」のねらい・内容を説明できる。 2. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための保育者の知識・技術・判断力を身につける。 3. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための主な教材・情報機器・活動について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション・領域「環境」のねらいと内容　細田章子 第 2 回：春の自然と子どもをつなぐ保育の計画・実践　細田章子 第 3 回：自然や社会との関わりの中で育つ探究的知性と共感　細田章子 第 4 回：科学する心を育む保育の計画　細田章子 第 5 回：科学する心を育む保育の実践（情報機器の活用を含む）　細田章子 第 6 回：保育における飼育栽培の事例・計画・実践　細田章子 第 7 回：保育における飼育栽培と調理の事例・計画・実践　細田章子 第 8 回：基本的な環境体験を保障するための保育環境と援助　細田直哉 第 9 回：数量・図形・文字の認識の発達と保育実践　細田直哉 第 10 回：数量・図形・文字への興味を育む保育の計画と実践　細田直哉 第 11 回：秋の自然と子どもをつなぐ保育の計画と事例　細田直哉 第 12 回：秋の自然と子どもをつなぐ保育の実践と事例　細田直哉 第 13 回：子どもの発達と玩具の選択（乳児クラス）　細田直哉 第 14 回：子どもの発達と玩具の選択（幼児クラス）　細田直哉 第 15 回：まとめ　細田直哉 ※詳細な授業内容に関しては、第１回の授業時に提示します。

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
授業内のICT活用	事前事後学習において各自インターネットやPCを活用して、授業に関連した情報を調べ、まとめてくることを課題とすることがある。
評価方法	ポートフォリオ80%・授業への貢献度20% レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	高山静子『学びを支える保育環境づくり』（小学館）、 高山静子『環境構成の理論と実践』（エイデル研究所）、 日置光久他『子どもと自然とネイチャーゲーム』（日本ネイチャーゲーム協会）
事前・事後学修	事前：事前課題を準備して授業に臨むこと（20分）。 事後：事後課題やポートフォリオ作りを各自進める（20分）。

オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育内容（表現）
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	２単位（30 時間）　選択 こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子供の発達を「表現」の領域の観点からとらえ、子供が「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるよう支援する方法を習得する。身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。特にかいたりつくったりする活動では、用具の基本的な扱い方など保育実践に生きる学びを自ら積み上げ整理していく。
到達目標	1. 保育の内容を理解し、子供の遊びを豊かに展開するために必要な身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 2. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　鈴木光男　和久田佳代 授業計画 第１回：オリエンテーション：鈴木光男 幼稚園教育要領や保育所保育指針などで「表現」がどのような位置づけやねらい及び内容となっているかを理解し、今後の学習の見通しを持つ。 身体表現・音楽表現に関する知識と技術　：和久田佳代 第２回：さくら・さくらんぼのリズム遊び 第３回：リズム遊びの体験と支援 演習 第４回：発育 発達過程を活かした表現活動の創作 第５回：発育発達活動を活かした表現活動 造形表現に関する知識と技術：　鈴木光男 第６回：幼児教育における表現①「比べる・感じる」 ・感性をみがく…子供の体を感じてみよう！（２歳児に変身?!） ２歳児にとっては新聞１枚がとても大きいことを実感した上で､新聞紙など身近な紙材を使った造形遊びの活動の体験をする。 第７回：幼児教育における表現②「感性をみがく・心をひらく」 ・感じ合うことから…「新聞紙の大きな卵」 ・物語を紡ぎ出すアートの特性を生かしたワークショップ 前時に引き続き新聞紙による共同的な遊びをインターネットで検索して見つけたり、実際に展開したりする。また、印刷紙を折ったり、破ったり、丸めたりしてできた形からお話作りの活動を体験する。 第８回：子供の表現と支援・指導のポイント① ・物語を紡ぎ出すアートの見立てを生かしたワークショップ インターネット上の事例や実践現場のビデオから見つけた保育のよい点、問題点などをもとに造形的な遊びや活動における支援・指導のポイントを理解した上で、色や形から見立てたイメージを共有しながら楽しさをふくらませていく遊び・活動を体験する。 第９回：子供の表現と支援・指導のポイント② ・ワークショップ《遊びをつくる造形》を基本プランに 身辺材を使った見立て遊びの模擬保育を実践したり、インターネット上に公開されている動画から表現主題と活動主題の違いを理解したりする。 第 10 回：子供の表現と発達 ・子供の表現と発達体験 ・ワークショップ…身近なもので動く人形・風車をつくろう

	子供の絵を中心に発達の特徴を理解し、また自由に描いた絵から人形や風車をつくりだす遊びの活動を体験する。 第11回：造形表現の実際と展開 ① ・活動主題「材料や行為を楽しむ」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 ・活動主題「見立てを楽しむ」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 第12回：造形表現の実際と展開 ② ・活動主題「いのちのつながりを感じて表す」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第13回：造形表現の実際と展開② ・活動主題「自らの思いを伝え表す」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第14回：造形表現の実際と展開② ・模擬保育の発表と検討・協議 第15回：造形表現の実際と展開③ ・模擬保育の発表と検討・協議 ・まとめ ※定期試験は実施しない
アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬保育の立案と発表
授業内のICT活用	特になし。 時に、Web動画の視聴などに使用する。
評価方法	（1）授業で課した課題（模擬保育・保育案などのレポート）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ※ルーブリックについて 保育案や模擬保育で評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、保育案や模擬保育については視点を授業内で示す。
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。 模擬保育のための指導案や模擬保育の発表をもとにフィードバック、ならびにフィードフォワードする。
指定図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	斎藤公子著「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社 槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	以下のような内容の事前・事後学修に取り組むものとして、それぞれの授業ごとに40分を目安に取り組むようにしましょう。 和久田：Webclass に学びを記録する（事後学修） 2〜5回 和久田：Webclass による動画視聴（事前学修） 3〜5回 鈴木：記述による学習記録（事後学修）・12〜15回では保育案の作成と模擬保育の準備（事前・事後学修） ※保育案を作成するに当たっては、必ず作品の試作などして教材研究を深めましょう。
オープンエデュケーションの活用	・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小学校インターンシップⅠ
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	１単位（45 時間）　選択　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習Ⅰ～Ⅲを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 20 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 第 1 回：ガイダンス（7 月） 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は夏季休業中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第 2 回：小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定（9 月） 第 3 回：実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※10 月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。 【実習の進め方】 １．学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う ３．実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 ４．実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助･手伝いなど ③学級経営（主に掲示）での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ　など 【事中指導】（11 月.12 月.1 月に 1 時間ずつ計 3 回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（3 月） 実習の振り返り（発表と共有）

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内のICT活用	特になし
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし評価を確かなものとする。
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間40分。月に1度、確認する）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際教育実習Ⅰ・Ⅱ
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位（30 時間）選択　こども　4～8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。 「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。
到達目標	1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜担当教員名＞　太田雅子、Patterson、二宮貴之 ＜授業内容・テーマ等＞ **実習事前指導（渡航前）** 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる―実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） **本実習** 1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ① 見学・観察実習 ② 参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） **実習事後指導（帰国後）** ① 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ② 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③ 実習報告会の準備をする ④ 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表　　ルーブリックは用いない。
指定図書	資料配布
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回実習指導時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は、小学校、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育原理
科目責任者	山内　博子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　こども　1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの育ちは、その社会環境に大きく影響をされる。保育の現状と課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・法令・制度について理解を深める。保育所の役割・責任と保育所保育の基本（保育所保育指針に示される内容）について理解する。
到達目標	1.　保育の意義と目的について理解する（法的根拠・制度的位置づけを理解する） 2.　保育に関する法令及び制度を理解する。 3.　保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4.　保育の思想・歴史的変遷について理解する。 5.　保育の現状と課題について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：保育の意義と目的―保育の理念・概念 第 2 回：子ども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任 第 3 回：保育に関する法令・制度（子ども・子育て支援制度） 第 4 回：保育の目標及び内容（保育所保育指針） 第 5 回：保育に関する基本原則－環境を通して行う保育 第 6 回：保育に関する基本原則－遊びを通しての学び 第 7 回：子どもの理解に基づく保育 第 8 回：保育の計画と評価 第 9 回：保護者支援（地域子育て支援） 第 10 回：地域社会で行う子育ての支援 第 11 回：特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ 第 12 回：保育所職員の資質・専門性の向上 第 13 回：日本における保育の思想・歴史的変遷・制度 第 14 回：子どもの育ちと社会環境、現代の保育（育児）の課題と取り組み 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度（30%）定期試験（70%）
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	2017年改訂「保育所保育指針（解説付き）」
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。 原則として40分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会的養護Ⅰ
科目責任者	柴田　俊一
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解し、日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶ。また、現在の大きな問題である子ども虐待について発見・対応・機関連携の方法の実際について学び、予防に向けた取り組みを考える。
到達目標	１．現代の子どもと家庭における問題の把握と、児童相談所への相談内容を学ぶ。 ２．子ども家庭福祉の観点から、社会的養護の意味を理解し、その意義と歴史について学ぶ ３．児童福祉施設について理解し、入所中の子どもおよび保護者への支援方法について学ぶ。 ４．子ども虐待の現状と対応について理解し、予防に向けた取り組みを考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　子ども家庭福祉の基礎概念 第 2 回：　子ども家庭福祉を取り巻く状況と社会的養護 第 3 回：子どもの権利保障と社会的養護 第 4 回：子ども家庭福祉の展開と社会的養護 第 5 回：子ども家庭福祉行政の仕組みと社会的養護 第 6 回：子ども家庭福祉機関 第 7 回：子ども家庭福祉サービスにおける社会的養護施設 第 8 回：在宅児童と社会的養護 第 9 回：子ども虐待が生じる背景と予防 第 10 回：　施設養護の実際①（日常生活および自立支援） 第 11 回：　施設養護の実際②（治療的支援） 第 12 回：　施設養護の実際③（家族・地域との関係調整） 第 13 回：　子ども家庭福祉に関連する地域活動と社会的養護 第 14 回：　子ども家庭福祉サービスを支える人と社会的養護 第 15 回：　今後の社会的養護のあり方と課題

アクティブラーニング	マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	平常点（30%）、レポート（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「よくわかる子ども家庭福祉」吉田幸恵・山縣文治編著（ミネルヴァ書房）2018
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は児童相談所心理判定員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育者論
科目責任者	鈴木　まき子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　　こども　2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育のプロフェショナルを目指すとはどういうことなのかを考察します。保育士（保育教諭）の責務や倫理について理解を深めます。
到達目標	1.　保育者の役割と倫理について理解し説明することができる。 2.　保育士（保育教諭）の制度的位置づけを理解する。 3.　保育士（保育教諭）の専門性について考察し、理解する。 4.　保育士（保育教諭）の連携・協働について理解する。 5.　保育士（保育教諭）の資質向上とキャリア形成について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：「いのち」を育むって？　保育って何？保育者を目指そうと思ったのはなぜ？ 第 2 回：　保育士（保育教諭）の制度的位置づけ 保育のプロフェショナルを目指すとはどういうことなのか 第 3 回：保育園の目的・内容と保育士の役割・保育士の専門的な知識と技術とは？ 第 4 回：幼児教育の目的・内容と保育者の役割 第 5 回：「いのち」を守るって？ 第 6 回：保育者の資質として求められること 第 7 回：保育士の責務と倫理―子どもの最善の利益の尊重・子どもの発達保障 保護者との協力・プライバシーの保護 第 8 回：保育士の責務と倫理－利用者の代弁・地域子育て支援 専門職としての責務 第 9 回：連携・協動・チームワークに必要なこと 第 10 回：保育観とは？ 第 11 回：自分の理想とする保育 第 12 回：子どもと保育の実際：保育現場見学（こども園） 第 13 回：こども園を見学して―ディスカッション 第 14 回：保育者を目指す者としての成長、キャリア・パス、研修 第 15 回：まとめと今後の課題（小テスト）

アクティブラーニング	こども園見学・協同的ワーク等を通して体験的に理解する方法を用いる。提示された教材をもとにグループディスカッションや発表を行う。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	小テスト50%　　課題提出物30%　授業への取り組み20% 演習・課題提出物・小テストにより評価をするが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを次の回にできる限り返却する。また授業の中でそれについてのフィードバックをする。
指定図書	2017年改訂「保育所保育指針解説」 柏女霊峰監修「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭・認定こども園園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	子ども家庭支援の心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　１セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理解や技術を体系的に修得している。
科目概要	子育て家庭の現状と課題を理解するとともに、生涯発達や発達援助の理論を学ぶことによって、親子関係や家族関係を発達的な観点から捉え、子どもと家庭を包括的に援助できる知識・技術を習得する。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性・各時期の移行・発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：イントロダクション：授業の進め方・「子育て支援」と「子どもの心の育ち」 第 2 回：子育て家庭をめぐる現状と課題①：子ども虐待とその理解 第 3 回：子育て家庭をめぐる現状と課題②：多様な家庭とその理解 第 4 回：子育て家庭をめぐる現状と課題③：子育て家庭の事件についての討論 第 5 回：子どもの生活環境と心の健康 第 6 回：子どもの発達とライフサイクル①「発達」とは何か・乳幼児期・学童期 第 7 回：子どもの発達とライフサイクル②青年期・成人期・老年期・生涯発達の考え方 第 8 回：　子どもの発達を支える玩具①遊びと玩具の理論・手作り玩具の計画 第 9 回：子どもの発達を支える玩具②手作り玩具の製作・実践 第 10 回：子どもとの関係づくり・発達の援助の多様な方法 第 11 回：親との関係づくり・子育て支援の多様な方法 第 12 回：子育て支援ひろばの計画 第 13 回：子育て支援ひろばの実践 第 14 回：子育て支援ひろばの振り返り 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	各回のテーマに関連した実践的な課題に基づいたディスカッションを行ったり、講義で学んだ理論に基づき子育て支援ひろばの計画を立て、親子の支援の実践を行ったりします。
授業内のICT活用	学生によるプレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用します。
評価方法	レポート80%・課題への取り組み20%
課題に対するフィードバック	レポート・実践課題についてはルーブリックを提示し、フィードバックを行います。
指定図書	その都度、関連した情報を整理したプリントを配布します。
参考図書	高山静子『子育て支援の環境づくり』(エイデル研究所)、高山静子『子育て支援　ひだまり通信』(チャイルド本社)、河原紀子『０歳～６歳　子どもの発達と保育の本』(学研)
事前・事後学修	事前：指定された文献を読み、予習しておくこと（20分） 事後：授業中に出された課題に取り組むこと（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	最初の授業の際に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「子育て支援ひろば　発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	子どもの保健
科目責任者	市江和子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の成長・発達、保健との関連、健康状態の把握と主な事故や疾病等の特徴を学ぶ。また、疾病の予防や適切な対応・方法、保育所保育指針に示される「養護」について、虐待防止、他職種との連携・協働について理解を深める。
到達目標	1. 小児各期の成長・発達の特徴、各発達段階における成長・発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面について理解する。 2. 成長・発達における親・家族の関係について理解する。 3. 現代社会における小児の健康状態と環境の問題と課題について学ぶ。 4. 小児の食生活、基本的生活習慣について理解する。 5. 小児保健の動向を知り、小児の健全な成長・発達を支える養護について理解する。 6. 乳幼児の健康診査と保健指導、小児の安全対策・応急処置、小児の主な疾患と予防および適切な対応をを学び、保育における養護について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回　小児と家族の心身の健康と保健の意義　市江　和子 健康および成長・発達に関するワークシートと学習の進め方 第２回　小児の成長・発達（１）形態・機能的側面　市江　和子 第３回　小児の成長・発達（２）心理・社会的側面　市江　和子 第４回　現代社会における小児の健康の現状と発達評価　市江　和子 第５回　発達と母子相互作用　市江　和子 第６回　小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響　市江　和子 小児保健に関するワークシートと学習の進め方 第７回　小児期の栄養と食生活　宮谷　恵 第８回　小児の基本的生活習慣（１）新生児期・乳児期　宮谷　恵 第９回　小児の基本的生活習慣（２）幼児期・学童期　宮谷　恵 第 10 回　小児保健の動向（１）小児を取り巻く社会環境と法律　市江　和子 第 11 回　小児保健の動向（２）小児保健に関する統計　市江　和子 第 12 回　乳幼児期の健康診査と保健指導　市江　和子 第 13 回　小児の事故と安全対策・応急処置　市江　和子 第 14 回　小児の主な疾病の特徴　市江　和子 第 15 回　小児の主な疾病の予防と適切な対応　市江　和子

アクティブラーニング	「現代社会における健康の現状と発達評価」においては、小グループで演習を取り入れ、発達評価を実施する。
授業内のICT活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。
評価方法	筆記試験90%、課題10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	学習内容に関するワークシートを課題とし学習の進め方を随時説明する。 授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2019
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、事前事後学修を40分進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修で復習を行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	市江和子：金曜日午前（1712研究室）　Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷　恵：月曜日午後（1713研究室）　megumi-m@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	古橋　啓子
単位数他	２単位（30時間）選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの食は心身の健全な成長に影響を及ぼす。栄養学の基礎、小児期に必要な栄養の特性や健康、食育について理解を深め、教育･保育の専門職として子どもの食や健康に対する関心を高める教育力・実践力の涵養を目的とする。
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化の関りの中で理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス　金谷節子、古橋啓子 第 2 回：栄養の基礎　古橋啓子 第 3 回：生涯発達と食生活　古橋啓子 第 4 回：子どもの食生活の現状と課題　古橋啓子 第 5 回：小児期の特徴、身体発育と栄養　古橋啓子 第 6 回：栄養状態の評価　古橋啓子 第 7 回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本　古橋啓子 第 8 回：乳児期の栄養　古橋啓子 第 9 回：幼児期の栄養　古橋啓子 第 10 回：乳幼児演習　古橋啓子 第 11 回：乳幼児演習　古橋啓子 第 12 回：食物アレルギーのある子どもへの対応　古橋啓子 第 13 回：小児の疾病の特徴と食生活　古橋啓子 第 14 回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際　古橋啓子 第 15 回：食育基本法と食育の実際、まとめ　古橋啓子

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 70%、レポート30%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却等、課題に対するフィードバック
指定図書	『子どもの食生活-栄養・食育・保育- 第4版 』上田玲子 編著 ななみ書房
参考図書	『乳幼児の食行動と食支援』 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社 『子どもの食と栄養 改訂第2版』 児玉浩子 編集・執筆 中山書店
事前・事後学修	配布資料に従って予習・復習や課題を行うこと
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は管理栄養士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育の計画と評価
科目責任者	鈴木　まき子
単位数他	1 単位（15 時間）　選択　こども　4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育の充実と質の向上に対する役割を担う保育の計画と評価（改善を含む）の意義と実際について学ぶ。保育所保育指針に示される目標と計画について、全体的計画と指導計画の関連性、全体的な計画及び指導計画の作成について理解し作成方法を習得する
到達目標	1.　全体的計画の編成について理解する。 2.　指導計画の作成方法について理解する。 3.　教材研究を行い、指導計画（部分）を作成する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：カリキュラム・マネジメントについて 第 2 回：「全体的計画」の編成（保育所、保育所保育指針） 第 3 回：園目標の設定　教育課程編成会議模擬（幼稚園、幼稚園教育要領） 第 4 回：保育の構想 教育課程終了後の保育について　（幼稚園） 第 5 回：長期短期の指導計画　指導計画と実践①　ねらいと遊び・活動のつながり 評価について：幼稚園指導要録及び抄本 第 6 回：指導計画と実践②　遊び・活動の発展 第 7 回：指導計画と実践③　集団ゲーム等模擬保育 第 8 回：指導計画と実践④　登園・降園時 まとめと今後の課題（小テスト）

アクティブラーニング	保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
授業内のICT活用	模擬保育をビデオ撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、指導計画の作成から実践の振り返りをします。
評価方法	授業態度20%、課題提出物の評価　40%、小テスト40% 評価は演習・課題提出物・小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。まとめ（授業の振り返り）を行う。
指定図書	平成29年改訂版「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」　　「幼児理解に基づいた評価」文部科学省：チャイルド本社
参考図書	「授業中に随時連絡」
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動（遊び）や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間40分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	乳児保育Ⅰ
科目責任者	細田　章子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　１セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	乳児期の子どもの成長は速く個人差も大きいため、同じクラスであっても異なる発達段階の子どもたちに臨機応変に対応しなければならない。この授業では、乳児の発達を理解し、その生活の中で保育者が果たすべき役割を理解する。
到達目標	１．乳児期の発達と生活に関する基本的事項を説明できる。 ２．乳児期の親子の生活の実態とニーズについて実例を挙げながら説明できる。 ３．乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション「乳児保育」とは 第 2 回 : ０歳児の発達　①0～3 ヶ月 第 3 回 : 実技・0～3 ヶ月のおむつ交換 第 4 回 : ０歳児の発達　②4～6 ヶ月 第 5 回 : ０歳児の発達　③7～9 ヶ月 第 6 回 : ０歳児の発達　④10～12 ヶ月 第 7 回 : ０歳児の保育　まとめ 第 8 回 : 手作りおもちゃの製作　①身近な素材で作る 第 9 回 : １歳児の発達　①13～15 ヶ月 第 10 回 : １歳児の発達　②16～24 ヶ月 第 11 回 : ２歳児の発達 第 12 回 : １歳児・２歳児の保育　まとめ 第 13 回 : 手作りおもちゃの製作　②製作計画 第 14 回 : 手作りおもちゃの製作　③発展と考察 第 15 回 : まとめ「乳児保育に求められるもの」

アクティブラーニング	乳児保育の援助方法に関しては実技を行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	試験５０%、レポート５０%、計１００%
課題に対するフィードバック	試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。
指定図書	『乳児保育　一人ひとりが大切に育てられるために』吉本和子著（エイデル研究所）
参考図書	『やさしく学ぶからだの発達』林万リ著（全国障害者問題研究会）
事前・事後学修	事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んできてください。製作物については指定期日までに仕上げてきてください。（60分） 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。（30分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	乳児保育Ⅱ
科目責任者	細田　章子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　こども　２セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	乳児保育では、家庭との連携をとりながら子ども一人ひとりの成長にあわせて環境設定やかかわり方を考え変化させ続けること、かつその営みを保育者間で共有することが求められる。 この授業では「乳児保育Ⅰ」での理解を基礎として、実際の保育の中で保育者が持つべき多様な視点に触れ、より具体的な実践方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	１．乳児保育に関する基本的事項を説明できる。 ２．家庭生活と乳児保育との連携について実例を挙げながら説明できる。 ３．乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 乳児の一日の生活～家庭と保育所～（細田） 第 2 回 : 参加観察①一日の流れを知る（細田） 第 3 回 : 考察①一日の流れの中での保育者の動きについて（細田） 第 4 回 : 参加観察②環境設定を知る（細田） 第 5 回 : 考察②一人ひとりに合わせた環境設定について（細田） 第 6 回 : 実技・沐浴実習（黒野・室加） 第 7 回 : 身体の育ちの傾向とかかわり方（和久田） 第 8 回 : 身体の育ちの傾向と環境の工夫（和久田）

アクティブラーニング	実際の保育場面に参加観察を行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	試験５０%、レポート５０%、計１００%
課題に対するフィードバック	試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。
指定図書	『乳児保育　一人ひとりが大切に育てられるために』吉本和子著（エイデル研究所）
参考図書	『うたおうあそぼうわらべうた』木村はるみ・蔵田友子著（雲母書房）
事前・事後学修	事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んできてください。製作物については指定期日までに仕上げてきてください。（60分） 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。（30分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	子どもの健康と安全
科目責任者	太田雅子
単位数他	１単位（15 時間）こども　選択　４セメスター
DP　番号と科目領域	DP２　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育所保育指針に示される「健康及び安全」を踏まえた保育環境の管理や対策を学ぶ。 体調不良や傷害などへの対応、感染症対策、個別的配慮の必要な子どもへの対応方法を学び、保健活動の計画・評価、管理・実施体制、他専門機関との連携・協働について理解を深める。
到達目標	1. 保育所保育指針に示される子どもの健康および安全に係るねらい・内容について理解する。 2. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。 3.　感染症やアレルギー対策の実際を理解し、方法を身につける。 4.　保育における保健活動計画・評価について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　子どもの健康・安全と保育（保育所保育指針） 第２回　保育における健康および安全管理の実際①：衛生管理・事故防止と安全対策 第３回　緊急事態への対応　（ゲストスピーカー） 第４回　緊急時の応急措置・救急法　（ゲストスピーカー） 第５回　健康観察と体調不良に対する気づき　（ゲストスピーカー） 第６回　感染症の対策・アレルギーへの対応　（ゲストスピーカー） 健康および安全の管理の体制 第７回　保育における健康および安全管理の実際②：危機管理・災害時への備え 第８回　まとめ（小テスト）

アクティブラーニング	保健計画の作成、演習（応急措置・救急法・嘔吐処理、エピペンの使用など）を交えて行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	小テスト（50%）、授業態度（20%）、演習実践の振り返り（10%）リアクションペーパー・レポート等（20%）、計100%　　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・レポートへのコメントをした後、返却します。
指定図書	厚生労働省編『保育所保育指針（解説書付）』
参考図書	授業の中で随時提示いたします。
事前・事後学修	【事前学修】実践をする場合は、該当ページを事前に提示します。演習がある回では、事前に資料を読み実践をすることが前提となります。 【事後学修】授業の内容や配布されたプリント・資料の整理をします。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、看護師、幼稚園教諭・認定こども園長の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会的養護Ⅱ
科目責任者	柴田　俊一
単位数他	１単位(15 時間)　選択　こども　４セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	社会的養護の基本理念や体系など基本的知識をおさえた上で、現場で求められている支援とはどのようなものなのかを、事例検討やグループ討議で学ぶ。また、社会的養護にかかわる専門職として大切なソーシャルワークについて理解する。
到達目標	１．今日の社会的養護について理解する。 ２．子どもの権利条約を理解する。 ３．社会的養護の４つの支援（日常生活支援・自立支援・家庭支援・地域支援）の内容を学ぶ。 ４．社会的養護における自立支援計画について学び、子どもの成長や発達を促す支援のあり方を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 現代の多様な家族の特徴、要保護児童が生じる原因 第 2 回： 児童相談所への相談内容 第 3 回：社会的養護とは何か　～その意義と歴史～ 第 4 回：社会的養護の制度や実施体系 第 5 回：社会的養護の特質と基本原理 第 6 回：児童福祉施設の種類と特徴 第 7 回：社会的養護の相談機関 第 8 回：子ども虐待の定義・発見・対応・機関連携

アクティブラーニング	マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	平常点（30%）、レポート（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ』萌文書林 2018
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は児童相談所心理判定員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実習指導Ⅰ
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（60 時間）選択　　こども　４～５セメスター　4ｾﾒｽﾀｰ（19SC 生）5ｾﾒｽﾀｰ（18SC 生）
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	（19SC 生）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 （18SC 生）獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	１．保育実習の意義・目的が理解できる。 ２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ３．実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ４．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	＜担当教員名＞太田雅子、鈴木光男、細田直哉、二宮貴之 ＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 【保育実習ＩＡ・事前指導】 第 1 回：オリエンテーション　担当教員全員 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 第 2 回：　実習の 1 日、実習生としての心構え　担当教員全員 第 3 回：教材研究と指導計画①（音楽表現）　二宮貴之 第 4 回：教材研究と指導計画②（絵画制作）　鈴木光男 第 5 回：教材研究③　太田雅子 絵本、紙芝居の読み聞かせ、年齢に適した絵本の選び方　（ゲストスピーカー） 第 6 回：乳児の保育の実際と記録　細田直哉 第 7 回：幼児の保育の実際と記録　細田直哉 第 8 回:実習オリエンテーションにおける心構え　担当教員全員 第 9 回：実習日誌と指導計画のつながり　太田雅子 第 10 回：教材研究と指導計画④　太田雅子 （附属こども園保育教諭） 第 11 回：個人情報の管理 SNS を中心とした扱い　担当教員全員 第 12 回：実習直前指導、事務連絡　担当教員全員 【保育実習ＩＡ・事後指導】 第 13 回：実習の振り返り・共有　担当教員全員 第 14 回：実習報告会の計画・個人面談　担当教員全員 第 15 回：実習報告会の準備・個人面談　担当教員全員 第 16 回・第 17 回：2 年生に向けた実習報告会　担当教員全員 【保育実習ＩＢ・事前指導】 第 18 回：オリエンテーション・授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 担当教員全員 第 19 回：施設実習における保育士の役割

	第 20 回 : 実習記録の書き方　細田直哉 第 21 回・第 22 回 : 実習先種別について調べる（グループ学習）　担当教員全員 第 23 回・第 24 回 : 実習先種別についての発表　担当教員全員 第 25 回 : 実習直前指導　担当教員全員 【保育実習ＩＢ・事後指導】 第 26 回 : 種別ごとでの振り返り（グループワーク）　担当教員全員 第 27 回 : 実習報告会の計画・個人面談　担当教員全員 第 28 回 : 実習報告会の準備・個人面談　担当教員全員 第 29 回・第 30 回 : 2 年生に向けた実習報告会　担当教員全員
アクティブラーニング	遊び・活動の実践や附属こども園の行事に参加をします。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（10%）、実践【遊び・活動、こども園】による課題レポート（30%） 実習レポート（40%）、実習報告会（20%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックと基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実践によるレポートは教員に加え、講師の方にも助言をいただき、返却をします。
指定図書	開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 指定図書の『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』で誤字脱字の内容ワークシートを各自で進めていきます。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。 ＜それぞれの目安時間は約 40 分＞
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実習ＩA
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位（90 時間）　選択　　こども　4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所・認定こども園の機能ならびに保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．観察実習および部分実習を中心として、理論と実践の結びつきを通して乳幼児を理解する。 ２．保育所・認定こども園における生活とその概要を理解する ３．保育士として必要な知識、技能、態度を身につけ、その任務を使命を理解する。
授業計画	＜担当教員名＞太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は保育所・認定こども園にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 ３．実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．見学・観察実習 １）デイリープログラムを知り、乳幼児の 1 日の生活の流れを理解する。 ２）乳幼児の集団活動、個別活動を観察し、人とのかかわり方を知る。 ３）保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ２．参加・部分実習 １）保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 ２）乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 ３）担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせします。　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	インターンシップⅠ　※こども教育福祉学科
科目責任者	福重浩之
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	（3・4 セメ）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 （5 セメ以降）獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 ２．保育や幼児教育に必要となる知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 【事前学習】 第 1 回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第 2 回：実習の 1 日、実習生としての心構え 第 3 回：実習記録の書き方、指導計画の書き方 第 4 回：各領域（保育所・幼稚園など）に関する事前学習 第 5 回：各領域（保育所・幼稚園など）事前学習の発表 第 6 回：各自の課題設定による教材研究① 第 7 回：各自の課題設定による教材研究② 第 8 回：実習中の諸注意 【実習（インターンシップ）】 ○保育所・幼稚園・認定こども園など自分が興味関心のある領域で、10 日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 【事後学習】 第 9 回：実習の振り返り（学生間での共有） 第 10 回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第 11 回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第 12 回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第 13 回：次回参加する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%）　　計100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。 実習科目です
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回に伝達をする。　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅡ　※こども教育福祉学科
科目責任者	福重浩之
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
DP 番号と科目領域	（3・4 セメ）DP5（5 セメ以降）DP1　専門
科目の位置付	（3・4 セメ）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 （5 セメ以降）建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	資格実習やインターンシップⅠでの学修を踏まえ、明確となった課題を、事前学習にて実践（教材研究・模擬保育など）を行い、考察をする。自らの課題に基づき、子どもの姿を捉えた上での保育・実践を行う。
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 【事前学習】 第 1 回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第 2 回：実習記録・指導計画の書き方 第 3 回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習 第 4 回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習の発表 第 5 回：自己課題に基づく教材研究① 第 6 回：自己課題に基づく教材研究② 第 7 回：指導計画に基づく模擬保育① 第 8 回：指導計画に基づく模擬保育② 第 9 回：実習中の諸注意 実習（インターンシップ） ○保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設において、10 日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 事後学習 第 10 回：実習の振り返り（学生間での共有） 第 11 回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第 12 回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第 13 回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第 14 回：次回参加を希望する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	発表はプレゼンテーションソフトで行う。
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%）　計100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。 実習科目です
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回に伝達をする。　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅰ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	（3・4 セメ）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 （5 セメ以降）獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは 10 日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には 20 日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的なアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、配属実習60%、事後学習20%（レポート含む、今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜希子2012『相談援助職の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	1～5回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6回～10回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて40分程度
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室2612，時間は最初の授業で提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅱ　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	（3・4 セメ）専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。 （5 セメ以降）獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは 10 日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には 20 日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的なアクティブラーニングの姿勢が求められる。
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前学習20%、配属実習60%、事後学習20%（含むレポート。今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜紀子 2012『援助技術の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	1～5回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6回～10回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて40分程度
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室2612，時間は最初の授業で提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉学概論Ⅱ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉学概論Ⅰ、障害、高齢者、児童、公的扶助、地域の福祉関係各論、ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク実習など、これまでの学びを踏まえ、あらためて社会福祉とは何かについて、社会福祉の思想と原理、福祉政策・制度の役割と現状、さらに社会福祉を取り巻く教育、住宅、労働等諸政策と福祉政策の関連、国際的な福祉の動向などの学びをとおして考える。
到達目標	１．現代社会における福祉制度の意義や 理念、福祉政策との関係について理解できる ２．福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ３．福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ４．福祉政策と関連政策（教育政策、住宅 政策、労働政策を含む。）の関係について理解できる ５．福祉政策、ソーシャルワークの課題について理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス、今までの学びの振り返り 第２回：公共政策、社会政策、社会福祉政策 第３回：福祉政策と社会問題 第４回：社会福祉制度 第５回：福祉の原理と理念 第６回：社会福祉のニーズと資源 第７回：中間テスト 福祉サービスの供給システムと利用過程、利用負担 第８回：福祉関連政策　①　医療政策と福祉 第９回：　〃　②　教育政策と福祉 第 10 回：　〃　③　住宅政策と福祉 第 11 回：　〃　④　雇用政策と福祉 第 12 回：　〃　⑤　権利擁護政策と福祉 第 13 回：諸外国における福祉制度 第 14 回：国際動向からみた社会福祉政策の諸課題 第 15 回：これからの福祉政策、ソーシャルワークの課題

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・Webclassを活用して双方向型授業を行います ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出します
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う
指定図書	「社会福祉概論Ⅰ　現代社会と福祉」　全社協（社会福祉学習双書　編集委員会編） （社会福祉学概論Ⅰですでに購入済のもの）
参考図書	岩田正美『社会福祉への招待』放送大学教育振興会 大友信勝・永岡正己編著『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく 2回目、5回目の授業に向けて、事前レポートを提出する 7回目に中間テストを実施する 8～12回の授業に向けて、特にどういうことに関心があるかまとめる 事後学習：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する Webclass内の小テスト（国家試験過去問）に回答する （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	社会保障論Ⅰ
科目責任者	国京　則幸
単位数他	２単位（30 時間）　選択　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し（社会保障論Ⅰ：医療保険、年金、社会手当、労働保険）、その理解の上に、課題や実践等における社会実態的な問題のとらえ方・考え方を深める（社会保障論Ⅱ：社会福祉、生活保護、展開・応用）。
到達目標	1. 社会保障各種制度のしくみ（構造／適用／給付）およびその問題・課題について理解する。 2. 社会保障（制度）の論理（考え方）を修得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：履修案内（講義概要と履修計画等について） 社会保障とは何か、社会保障制度の基本的な方法　【教科書　第１章、第６章】 ⇒社会保障にまつわる出来事 第 2 回：医療保障①　：医療保障とは？　【教科書　第２章】 ⇒医療保障とは／保険とは 第 3 回：医療保障②　：健康保険制度（健保）　【教科書　第２章】 ⇒健保のしくみ（構造／適用／給付） 第 4 回：医療保障③　：国民健康保険制度（国保）　【教科書　第２章】 ⇒国保のしくみ（構造／適用／給付） 第 5 回：医療保障④　：医療制度と医療保険の接続　【教科書　第２章】 ⇒高医療制度、公費負担医療、医療制度と医療保険の接続、 福祉（社会保障論 II）との関係、など 第 6 回：医療保障⑤　：医療保障の課題　【教科書　第２章】 ⇒無医地区、新しい医療過疎、「無保険者」 第 7 回：年金保険①　：年金とは？　【教科書　第４章】 ⇒年金の基本的考え方 第 8 回：年金保険②　：基礎年金制度　【教科書　第４章】 ⇒基礎年金制度のしくみ（構造／適用／給付） 第 9 回：年金保険③　：厚生年金　【教科書　第４章】 ⇒厚生年金制度のしくみ（構造／適用／給付） 第 10 回：年金保険④　：ジェンダーの視点から見た年金制度の変遷　【教科書　第４章】 ⇒離婚時の年金分割、生活保護（社会保障論 II）との関係、など 第 11 回：社会手当　：児童手当、児童扶養手当　【教科書　第 11 章】 ⇒児童手当のしくみ（考え方）／児童扶養手当のしくみ（考え方） 第 12 回：労働保険①　：労働者災害補償保険（労災）とは？　【教科書　第５章】 ⇒労災とは／労災制度のしくみ（構造／適用／給付） 第 13 回：労働保険②　：雇用保険とは？　【教科書　第５章】 ⇒雇用保険とは／雇用保険のしくみ（構造／適用／給付） 第 14 回：労働保険③　：働くことと社会保障との関係　【教科書　第５章】 ⇒働くこと、失業の変化 第 15 回：まとめ ⇒社会保障総論（社会保障の歴史、社会保障の視点） ※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。

アクティブラーニング	・主体的な学びを実践するため、講義中、発言を求めます。 ・講義各回後に WebClass を介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行います。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（筆記試験）70%＋②小テスト 30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっています。
指定図書	『新・初めての社会保障論　第 2 版』古橋エツ子編（法律文化社、2018 年）
参考図書	なし
事前・事後学修	・あらかじめ該当する箇所（【　】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。 ・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（＋予習）を。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	

科目名	社会保障論Ⅱ
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し（社会保障論Ⅰ）、その理解の上に、課題や実践等における社会実態的な問題のとらえ方・考え方を深める（社会保障論Ⅱ）。
到達目標	1. 社会保障各種制度のしくみ（構造／適用／給付）およびその問題・課題について理解する。 2. 社会保障（制度）の論理（考え方）を修得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション 社会保障とは何か～その役割と課題 ＜第一部　社会保障制度を活用する＞ 第２回：医療保障――公的医療保険制度等の活用（グループワーク） 第３回：生活保護――①基本原理と実施上の原則 第４回：生活保護――②保護基準と保護の種類・生活保護の活用（グループワーク） 第５回：障害者福祉・年金――障害者手帳・障害年金等の活用（グループワーク） 第６回：社会福祉――①社会福祉の役割と社会福祉基礎構造改革 第７回：社会福祉――②高齢者福祉および介護保険制度の活用（グループワーク） ＜第二部　社会保障制度のあり方について考える＞ 第８回：少子高齢化・人口減少と社会保障 第９回：社会保障理念の転換と国民生活の実態 第 10 回：「地域共生社会」政策と社会保障について考える（グループワーク） 第 11 回：子どもの貧困問題と社会保障の課題（ゲスト講師） 第 12 回：総合的相談支援体制づくりの取り組み（ゲスト講師） 第 13 回：共生型サービスと総合的相談支援体制の課題と展望（グループワーク） 第 14 回：「全世帯型社会保障」とは何か（グループワーク） 第 15 回：まとめ　社会保障と社会福祉援助論の課題
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、反転授業、ディスカッション、ディベート、クループワークを実施する。
授業内の ICT 活用	グループワークにおけるスマートフォンの利用を認める。

評価方法	授業への取り組み姿勢　30%、　中間レポート　20%、　定期試験　50%
課題に対するフィードバック	中間レポートについては授業においてコメントする。
指定図書	社会保障論Ⅰの指定図書、古橋エツ子編（2018）『新・初めての社会保障論　第2版』法律文化社。 公的扶助論の指定図書、岩田正美・杉村宏編『公的扶助論～低所得者に対する支援と生活保護制度』第3版ミネルヴァ書房。
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	【事前学習】第2回から第7回まではテキストにおいて、第8回から第14回までは配布資料や紹介した参考図書などにおいて、各回のテーマについて理解を深めておくこと。（目安時間　40分） 【事後学習】授業で配布した資料をもとに授業内容の振り返りを行うこと。（目安時間　30分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した内容を基盤として、①ケアマネジメント、②コーディネーション・ネットワーキング・アウトリーチ、③スーパービジョンについて理解し、実践で活用できる力を身につけることを目的としている。
到達目標	1. ケアマネジメント等の学習を通して、エンパワメントを意識した人と環境との調整支援の重要性を理解する。また、人間という存在および様々な社会資源と関わる意欲をもつことができる。 2.　外部講師による専門職としての自己変容の物語を聴くことを通じて、自分の実習体験などを振り返りながら、専門職としての自己の生成について理解することができる。 3. 分析的志向にもとづいた行動目標が設定できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：講義概要　福田俊子・川向雅弘 第 2 回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の共有）　川向雅弘 第 3 回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の検討）　川向雅弘 第 4 回：ケースマネジメントの基本事例①（報告とまとめ）　川向雅弘 第 5 回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の共有）　川向雅弘 第 6 回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の検討）　川向雅弘 第 7 回：ケースマネジメントの基本事例②（報告とまとめ）　川向雅弘 第 8 回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の共有）　川向雅弘 第 9 回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の検討）　川向雅弘 第 10 回：ケースマネジメントの基本事例③（報告とまとめ）　川向雅弘 第 11 回：スーパービジョンを受けるということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 12 回：スーパービジョンを受けるということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 13 回：スーパービジョンを受ける・するということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 14 回：スーパービジョンを受ける・するということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 15 回：まとめ　福田俊子 ＜その他＞ ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。
アクティブラーニング	グループ学修や PBL などを用いながら授業を進める。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	レポート 60%、定期試験 40%として評価する。 レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。 ＜レポート＞ ・川向担当：事例検討を通じて考えたことなどをテーマとしたレポートを課す。 ・福田担当：スーパービジョンをテーマとしたレポートを課す。

	＜定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やWebClassで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 北川清一他監修『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	＜事前学習＞ ・第1～10回には、指定図書の指示した頁を熟読すること。 ・第11～14回には、ゲストスピーカーに対する質問を考えてくること。 ＜事後学習＞ ・ケアマネジメントの給付管理の計算式等を整理し、理解を確かにしておくこと。 ・レポート「事例検討を通して考えたこと」を作成すること。(160分＝4回分を要する) ・レポート「一人前の対人援助職となるために必要とされる『育つちから』とは」を作成すること。(160分＝4回分を要する)
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク実習
科目責任者	落合　克能
単位数他	４単位（180 時間）　選択 ５～６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	社会福祉機関・施設において 23 日間、180 時間以上の配属実習を行う。 配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざす。
到達目標	これまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、実習先で出会う対象者の発達段階やニーズに合わせた支援をする実践力につなげることができる。 １．利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成をはかることができる。 ２．利用者理解とその需要の把握、及び支援計画作成に必要な後技術を習得する。 ３．利用者やその関係者との援助関係の形成をはかることができる。 ４．利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価について理解できる。 ５．他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの必要性を理解できる。 ６．社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定ついて、組織の一員としての役割と責任について理解できる。 ７．施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際について理解できる。 ８．当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることについて、および具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解できる。 ９．具体的体験や相談援助を専門援助技術として概念化・理論化し体系化する能力が身に付く。
授業計画	＜担当教員名＞落合克能、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子 ＜授業内容・テーマ等＞ 「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、180 時間の実習を行う。 実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を取得できていることが履修の前提になる。

アクティブラーニング	実習科目である。
授業内のICT活用	各領域ごとの学習内容による。
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。
課題に対するフィードバック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。
指定図書	使用しない
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話し合いたいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。　（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	各領域ごとの学習内容による。
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（60 時間）　選択　５～６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目はソーシャルワーク実習の直前学習、事後学習として位置づけられる。 直前学習では、配属実習を行う上での最終的な準備を整えることが主な授業内容となる。 事後学習では、配属実習の振り返り、学習のまとめ、実習報告会での発表、学習総括レポートの作成を行う。そのプロセスはグループ及び個別スーパービジョンによって進められる。
到達目標	ソーシャルワーク実習に向けて、それまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、対象者の発達段階やニーズに合わせた支援を行うための直前準備をする。また、実習後は、その経験を振り返り、対人援助・社会支援のための知識を深め、技術を高めるとともに、実習経験を通じて自己覚知を深めようとする姿勢をもつ。 １．配属実習を行う際に実際に必要となる知識、技術等を習得する。 ２．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ３．具体的な体験や援助活動をソーシャルワークとして概念化し理論化し、体系立てることができる。
授業計画	＜担当教員＞落合克能、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子 ＜授業内容・テーマ等＞ **【実習の直前学習】** 第１回：全体授業：事前準備の概要、実習計画書の作成、事前訪問の意義、訪問の仕方、記録の意義、実習ノートの書き方(落合)、領域別学習（各担当教員） 第２回：領域別学習(各担当教員)　実習領域と施設・事業所・機関・団体に関する理解 第３回：　〃　実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する理解 第４回：　〃　必要とされるソーシャルワークの知識・技術の修得 第５回：　〃　必要とされるソーシャルワークの技術、実習計画書作成 第６回：実習先事前訪問 第７回：全体授業：スーパービジョン、評価票の記入の仕方、活用方法、プライバシーの尊重と守秘義務、実習生の役割(落合)、領域別学習（各担当教員） 第８回：個別指導(各担当教員)　実習計画書の書き方指導 第９回：　〃　実習計画書の書き方指導 第 10 回：　〃　実習計画書の書き方指導、その他 **【実習の事後学習】** 第 11 回：配属実習終了後のオリエンテーション(川向) 第 12 回：グループスーパービジョン(各担当教員)　オリエンテーション 第 13 回：　〃　実習体験を共有する① 第 14 回：　〃　実習体験を共有する② 第 15 回：　〃　自己の実習体験を多面的にとらえる① 第 16 回：　〃　自己の実習体験を多面的にとらえる② 第 17 回：　〃　自己の実習体験の意味付けを行う① 第 18 回：　〃　自己の実習体験の意味づけを行う② 第 19 回：　〃　実習での成果と学習題をまとめる 第 20 回：グループワーク(各担当教員)　実習報告会に向けて　方針検討 第 21 回：　〃　〃　発表内容をまとめる 第 22 回　〃　〃　発表内容の検討 第 23 回：　〃　〃　プレゼン方法の検討 第 24～26 回（3 コマ連続授業）：実習報告会 第 27 回：全体授業　実習報告会振り返り（教員全員から） 第 28 回：個別スーパービジョン(各担当教員)　自己の学習内容の言語化 第 29 回：　〃　自己の課題の明確化 第 30 回：　〃　レポート指導

アクティブラーニング	実習科目である。
授業内のICT活用	実習報告会においてはプロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う。
評価方法	領域別授業（事前・事後）、報告会に向けての準備等への参加状況・学習状況（提出物・実習計画書含む）40%、総括レポート60%で評価する。
課題に対するフィードバック	スーパービジョンにてフードバックする。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習の直前学習においては、実習指導Ⅰでの学びの振り返り、新たな課題についての調べ学習、実習計画書の作成が課題となる。 実習の事後学習においては、実習体験の振り返り、実習記録の読み込み、実習での学びの整理がグループスーパービジョンに臨むにあたって必要となる。（目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	落合克能（社会福祉学部社会福祉学科）：2613研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉経営論
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	福祉サービスの経営管理を担当している方々の講義を通して、福祉サービスにかかる組織や団体および、福祉サービスの経営と管理運営に関する基礎的知識を修得することを目的としている。社会福祉法人制度、財源、働きやすい労働環境の整備などについて学び、そのことが様々なニーズを持った利用者への適切な支援、地域共生社会の実現につながることを理解する。
到達目標	以下の到達目標を達成し、社会福祉サービス提供組織の経営管理に関する様々な事象について、専門用語を使って説明できるようになる。 1. 福祉サービスの制度および福祉サービスの組織と経営の基礎的知識を修得する。 2. 福祉サービスの管理運営の方法に関する知識を修得するとともに、その実際を理解する。
授業計画	【担当教員】武居　敏、落合克能 ＜回数・日程（6 限）＞　＜授業内容・テーマ等＞　＜担当講師＞ 第 1 回：オリエンテーション、福祉サービス提供組織の経営とは　武居　敏 第 2 回：福祉サービスにおける組織と経営　落合克能 ・福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度 第 3 回：福祉サービスにかかわる組織や団体　落合克能 ・社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体 第 4 回：福祉サービスにの組織と経営の基礎理論①　落合克能 ・戦略、事業計画、組織と福祉サービス 第 5 回：福祉サービスの管理運営の方法①　人事管理と労務管理　鎌田裕子 ・福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成 第 6 回：福祉サービスの管理運営の方法②　会計管理と財務管理　井上英樹 ・社会福祉法人会計基準、、経営分析、経営と財務等 第 7 回：福祉サービスの管理運営の方法④　サービス管理　野村則国 ・サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント 第 8 回：福祉サービスの管理運営の方法③　情報・施設管理　西澤基示郎 ・利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等 第 9 回：福祉サービスにの組織と経営の基礎理論②　落合克能 ・中間まとめ、組織、管理運営の基礎理論 第 10 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム　松本有司 第 11 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：障害者施設（措置）　村田孝弘 第 12 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会　弓桁智弘 第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論③　落合克能 ・中間まとめ、集団力学、リーダーシップ 第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営　武居　敏 第 15 回：本科目全体のまとめ　落合克能 ※都合により、講師の順番が入れ替わることがあります。
アクティブ	WEBCLASS を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、

ラーニング	履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、WebClass を活用します。
授業内の ICT 活用	WEBCLASS を活用した、出欠席管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開を行います。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、小レポート 20%、定期試験 50%として評価します。 【小レポート】 「社会福祉法人の制度改革」に関する文献（授業で指定）を通読し、重要ポイントと所感（考察）を 1200 字程度で記述して頂きます。 【定期試験】 記述、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営　第 5 版』中央法規　2017 年
参考図書	・『見て覚える　国試ナビ 2021』中央法規　2020　発刊予定 ・授業中に随時配布
課題に対するフィードバック	毎回 WEBCLASS に入力してもらうリアクションを各外部講師にお送りし、授業の冒頭でフィードバックします。また、中間レポート課題に関しても授業内でフィードバックします。
事前・事後学修	【事前学修】毎回、事前に指定図書の該当部分を一読して来て下さい。該当部分の詳細に関しては、WEBCLASS にアップされている「指定図書対応表」を確認して下さい。 【事後学修】毎回、授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに WEBCLASS に入力して頂きます。また、事後学習としての中間レポート課題（WEBCLASS に詳細説明：10 月末〆切）を課します。　（目安時間　40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	WEBCLASS を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、 履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、WEBCLASS を活用します。

科目名	社会福祉行政論
科目責任者	河村　等
単位数他	１単位（15 時間）　選択　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉行政の動向や法制度の展開、国と地方自治体の関係を理解する。また、国や地方自治体の福祉計画の仕組み、特徴、役割を学び、問題点や課題を理解する
到達目標	社会福祉と行政の関係を組織・財政・計画の観点から理解する 社会福祉専門職者として、福祉行財政並びに福祉計画に関する仕組みと役割を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明） 第 2 回： 福祉と制度・福祉の法制度の展開・福祉計画の概要 第 3 回： 行政の骨格・社会福祉と法制度・福祉行政の組織・社会福祉基礎構造 第 4 回： 現状の社会福祉の動向を踏まえて、福祉と制度～社会福祉基礎構造までのまとめ 第 5 回： 財政と社会福祉・一般会計予算と社会保障関係費の動向 地方自治体の財政と民生費の動向 第 6 回： 民間社会福祉事業の財源・福祉サービスの利用と費用負担 社会福祉基礎構造改革・相談過程・相談体制 専門諸機関・地域の相談システム・専門職 第 7 回：現状の社会福祉の動向を踏まえて、財政と社会福祉～専門職までのまとめ 第 8 回： 地域（浜松市）での社会福祉の動向、現状

アクティブラーニング	地域の行政組織及び財政状況を自らが調べることにより、課題を確認し、福祉行政を身近なものと感じ理解を深める。
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回実施するリアクションペーパーへのコメント、質問への解説を行う。
指定図書	新・社会福祉士養成講座１０「福祉行財政と福祉計画」第５版　中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を確認、学習しておくこと。 事後学修：授業内容について、振り返り、整理しておくこと。（目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「行政実務」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉計画論
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	１単位（15時間）選択　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP4専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	福祉計画の必要性や意義、目的、主体を理解し、その策定方法を学ぶとともに、実際の福祉計画について理解や考察を深めることを目的とする
到達目標	１．福祉計画についての現状とニーズ、歴史的背景を理解する ２．福祉計画の意義・目的・主体・評価方法などを説明できる ３．分野別福祉計画の実際を説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回　オリエンテーション 福祉計画の意義と目的、福祉行財政と福祉計画　佐藤順子 第２回　福祉計画の主体と住民参加の意義　佐藤順子 第３回　福祉計画の種類と実際①　高齢者関係計画　野田由佳里 第４回　福祉計画の種類と実際②　障害者関係計画　川向雅弘 第５回　福祉計画の種類と実際③　こども・若者関係計画　大場義貴 第６回：福祉計画の種類と実際④　地域福祉関係計画　佐藤順子 第７回　福祉計画の策定過程と留意点　佐藤順子 第８回　福祉計画の評価方法　まとめ　佐藤順子

アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・ICTを活用し、居住市町村の各福祉計画を調べる ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出する
評価方法	授業態度10%　課題20%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」中央法規
参考図書	授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：3～7回については課題に取り組む （居住市町村における各福祉計画概要まとめ含む） 事後学修：関連する国家試験過去問に取り組む （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉・精神保健福祉の実務経験を有する社会福祉士・精神保健福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	司法福祉論
科目責任者	山本 幸則
単位数他	１単位（15 時間）選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「司法福祉」の意味・範囲は一義的ではない。中心となるのは「更生保護制度」であるが、それにとどまらず、高齢者・障害者の生活に支障をきたす法律問題について学習する。
到達目標	司法福祉諸分野制度等について俯瞰的な理解を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞山本幸則、堂元京子 第 1 回：司法福祉の意味と刑務所の実情を知る　山本幸則 第 2 回：成人の刑事手続の流れを知る①　山本幸則 第 3 回：成人の刑事手続の流れを知る②　山本幸則 第 4 回：罪を犯した人の現状を知る（知的障害者、精神障害者、高齢者）　山本幸則 第 5 回：身元保証の問題　山本幸則 第 6 回：医療同意の問題　山本幸則 第 7 回：成年後見制度（実践現場から）　堂元京子 第 8 回：悪質商法被害の実態　山本幸則
アクティブラーニング	なし

授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験100%による
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例を提示する
指定図書	『司法福祉　罪を犯した人への支援の理論と実践』 加藤幸雄・ 前田忠弘監修　藤原正範・ 古川隆司編　法律文化社
参考図書	『獄窓記』『累犯障害者』いずれも山本譲司著　新潮文庫
事前・事後学修	予習としてはテキストの該当箇所におおまかに目を通すこと，復習として授業で扱った箇所を精読していただきたい。（目安時間　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は司法書士（成年後見分野）の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会調査論
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	社会調査とは国や地方自治体、企業や学校、社会福祉などの各種法人、または個人が、ある社会的な問題意識に基づいて情報（データ）を収集し、収集したデータを演繹的又は帰納的に描写、解釈、分析し、調査対象について理解を深め、課題を整理したり、対応策を立案したりする一連の営みである。本科目では社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理について理解し、量的および質的なデータの整理と分析の方法について学習する。
到達目標	・倫理を含む社会調査における基礎的知識を修得できる。 ・社会調査における量的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。 ・社会調査における質的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：社会調査の基礎 1（社会調査とは、社会福祉分野における社会調査） 第　2 回：社会調査の基礎 2（社会調査の意義、目的、統計法の概要）調査対象と方法） 第　3 回：社会調査の基礎 3（社会調査における倫理と個人情報保護、IT の活用） 第　4 回：量的調査の方法 1　（量的調査の特徴と種類） 第　5 回：量的調査の方法 2　（調査票の作成方法、調査票の配布と回収） 第　6 回：量的データと分析法 1（単純集計、表計算ソフトの具体的活用方法） 第　7 回：量的データと分析法 2（1 変量の性質を表す記述統計量） 第　8 回：量的データと分析法 3　（2 変量の性質を表す記述統計量） 第　9 回：量的データと分析法のまとめ 第 10 回：質的調査の方法 1　（質的調査の特徴と種類） 第 11 回：質的調査の方法 2　（調査設計と対象者の選定） 第 12 回：質的調査の方法 3　（調査手法と調査の実施） 第 13 回：質的データと分析法 1（KJ 法・グラウンデッドセオリー） 第 14 回：質的データと分析法 2（KJ 法を体験的に理解する） 第 15 回：質的データと分析法のまとめ

アクティブラーニング	エクセルを使用した量的調査結果の処理過程に関しては、コンピュータールームにおいて実践的な講義を行います。また、授業内ではチャレンジ問題を用いて学修の成果を確認しながら授業を進めます。課題提出などは、WEBCLASS を活用します。
授業内の ICT 活用	WEBCLASS を活用した、出欠席管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開を行います。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、中間試験 20%、定期試験　50%として評価します。 【中間試験】 量的調査までの範囲に関して記述、計算、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【定期試験】 記述、計算、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」5　社会調査の基礎　第 3 版』中央法規（2015）
参考図書	『社会調査の基礎　社会調査士 A･B･C･D 科目対応』弘文堂 2012 『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房 2004
課題に対するフィードバック	毎回 WEBCLASS に入力してもらうリアクションに対しては、WEBCLASS 上にまとめを公開するとともに、必要に応じて次回の授業の冒頭でフィードバックします。また、中間試験に関しても授業内でフィードバックします。
事前・事後学修	【事前学修】授業前に指定図書の予定授業範囲を読み、分からない箇所に下線を引いてきて下さい。また、授業前に配信される量的データに関して自分なりの分析を試みて下さい。 【事後学修】授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに WEBCLASS に入力して頂きます。また、授業で行った内容に関する中間テストを第 10 回授業時に実施しますので、第 9 回終了後は特に第 9 回までの復習を丁寧に行って下さい。　（目安時間　40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	トップマネジメント論
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	１単位（15時間）　選択　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	トップマネジメントとは一般的に経営層のことを指すが、特に方針、目標を決め、その目標を達成する「マネジメントシステム」の責任を負う人を意味する。 本講義では、質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要なマネジメントに関わる“ヒト、モノ、カネ、情報”等の資源に関する専門的知識・技術を学び、所属する施設・事業所や法人のマネジメントについて深く理解し、関わることのできる組織の一員になること、そして将来、直接マネジメントに携わることのできる人材の養成をめざす
到達目標	１．施設・事業所、法人等のマネジメントについて「チームリーダー」の立場で理解できる ２．福祉サービスの基本理念と倫理の徹底・浸透のための方法を理解できる ３．福祉マネジメントに必要な“ヒト、モノ、カネ、情報”等に関する専門的な考え方を理解できる ４．所属する施設・事業所、法人の使命・計画、運営・経営に関することを理解した組織の一員となる準備ができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：オリエンテーション　福祉サービスの基本理念と倫理　佐藤順子（落合克能） 第２回：法人・事業所のガバナンス　落合克能 第３回：組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCAサイクル）　落合克能 第４回：サービスマネジメントとは　落合克能 第５回：人事、労務管理　佐藤順子 第６回：地域協働　佐藤順子 第７回：社会福祉法人の地域貢献①　考え方　佐藤順子 第８回：社会福祉法人の地域貢献②　事例　佐藤順子 （マネジメントコースが推奨するマネジメント演習もあわせて受講することが望ましい）

アクティブラーニング	反転授業、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・iPadを活用し、調べ学習を行う ・Webclassを活用し双方向型授業を行う
評価方法	定期試験80%、授業態度20%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト　チームリーダー編』　全国社会福祉協議会 『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営　第5版』中央法規
参考図書	必要に応じ、授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について読んでおく Webclass内の事前課題に取り組む 事後学習：1～8回学びをまとめ、Webclassに提出する 関連する国家試験過去問などに取り組む （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）社福　選択　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に取り上げる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定して実技指導を行う。
到達目標	1. 個人や家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。 2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。 3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。
授業計画	＜担当教員名＞福田俊子、大場義貴、落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 第 2 回：事例研究①－支援計画① （① 役割の決定　②事例の理解　③何を聴くかの整理・面接の準備） 第 3 回：事例研究①－支援計画② （① 模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集） 第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理） 第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング） 第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ 第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表　②ロールプレイの実施） 第 8 回：事例研究①のまとめ 第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する） 第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る） 第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る） 第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担　②発表の予行演習 第 13～14 回：発表会 第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ

アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	第2～14回の授業では、達成課題が提示される。 あらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につける １．地域福祉の援助技術の概要を理解する ２．地域・コミュニティ、住民の意味を理解する ３．コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として 住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を習得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞佐藤順子、川向雅弘、落合克能、横尾惠美子 第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 実習中に体験した「地域との関わり」 第2回：地域を知る① 第3回：地域を知る② 第4回：地域住民のニーズを知る 第5回～6回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）検討 第7回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）　発表 第8回：前半振り返り 第 9 回：個別ニーズを把握する 第 10 回～11 回：個別ニーズをアセスメントする 第12回～13回：個別支援計画を策定する 第14回：地域での展開を考える 第15回：　まとめ

アクティブラーニング	演習科目 ほぼ毎回グループワークを実施し、その結果のプレゼンテーションを行う
授業内のICT活用	・webclassを活用して双方向型授業を行う ・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う
評価方法	授業への取組姿勢30%、事前課題20%、定期試験（レポート）50%として評価します。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する
課題に対するフィードバック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし　授業中に資料を配布
参考図書	筒井のり子著『ワークブック社会福祉援助技術演習　コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：毎回事前課題を出すので、それに取り組んだ上でグループワークに臨む 事後学修：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する 8回終了後、中間レポートをWebclassに提出する　（目安時間約40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。
到達目標	1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。 2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。 3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘、落合克能、横尾惠美子 演習グループを 4 グループ編成し、各教員が 2 グループを担当する。 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り） 第２回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成） 第３回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成） 第４回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備） 第５回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備） 第６回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習） 第７・８回：事例発表会・まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。（20 分発表×グループ数）

アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	臨床原論
科目責任者	福田　俊子
単位数他	１単位（15 時間）　必修　社福　７～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は、ソーシャルワークの原点や原理に立ち戻り、学科所属教員らによる「支援とは何か」「専門性とは何か」といったテーマに基づいた講義をきくことで、学生自身がこれらのテーマについて調べ、考え、そして自らの言葉で表現できるようになることを目的とし、社会福祉学科において積み重ねてきた講義、演習、実習の学修を総括する。
到達目標	1.　多様な人間や社会のありようを再認識し、自己の価値観を確認する。 2.　これまでの学修を振り返りながら、自己の将来像を表現できるようになる。 3.　自分の言葉を用いて、各テーマにかかわる意見を表現できるようになる。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、大場義貴、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和、村上武敏 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第１回：　講義概要　福田俊子 第２回：専門家であること　福田俊子 第３回：社会福祉実践とは何か　村上武敏 第４回：思春期のメンタルヘルス　大場義貴 第５回：　ソーシャルワーカーの訪問支援　佐々木正和 第６回：　ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー　川向雅弘 第７回：福祉コミュニティをつくる　佐藤順子 第８回：まとめ　福田俊子
アクティブラーニング	テーマに沿ったグループディスカッション、WebClass への課題提出などがなされる。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	毎回の小レポート 40%（5 点×8 回） 総括レポート 60% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	各回の授業冒頭で、前回の授業を担当した教員より、フィードバックがなされる。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。

参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	＜事前学修＞ 第2～7回の授業では、WebClass等に提示された事前課題に必ず取り組むこと。 ＜事後学修＞ ・第2～7回の授業では、自主的に調べた内容も加味してレポートを作成すること。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	特になし。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。す。

科目名	精神保健福祉制度論Ⅱ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神障害者に関連する社会保障制度の概要を理解する。また、更生保護制度（概要と精神障害者福祉との関係、更生保護制度における関係機関や団体との連携）および医療観察法（概要と医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割）について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について事例を用いながら学ぶ。
到達目標	1. 精神障害者の制度政策の概要の理解を深める。 2. 司法における精神保健福祉士の役割を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞佐々木正和・ゲストスピーカー 第 1 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要①　社会政策と社会福祉制度 第 2 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要②　医療保険制度・介護保険制度 第 3 回：相談援助に係る行政組織と民間組織 第 4 回：福祉サービス提供施設・機関の役割 第 5 回：専門職や地域の支援者等　　担当：ゲストスピーカー 第 6 回：刑事司法と更生保護制度 第 7 回：保護観察所と更生保護制度の担い手 第 8 回：司法・医療・福祉の連携の必要性と実際 第 9 回：医療観察法の意義と内容・医療観察法の審判と精神保健参与員の役割 第 10 回：指定入院医療機関における処遇・地域における処遇 第 11 回：社会復帰調整官の役割と実際・精神保健福祉士の仕事 第 12 回：社会調査の意義と目的・対象・倫理 第 13 回：量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点・ICT の活用方法 第 14 回：社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結び付けた事例 第 15 回：まとめ
アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向の情報 提供を行います。

授業内のICT活用	Webclassによるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	webclassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム(第６版) へるす出版（精神保健福祉制度論Ⅰで使用した教科書を使用します）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（１～15回） （事前・事後学修　目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健生活支援システム論
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　７～８セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害者（精神科受診の発達障害者を含む）の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。また、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）及び行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。
到達目標	１．精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権について理解する。 ２．精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、精神障害者の生活支援システム、市町村における相談援助及びその他の行政機関における相談援助について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ (春セメスター) 第 1 回 : 障害者基本法・精神保健福祉法における精神障害、精神障害者の特性 第 2 回 :　精神障害者の生活と人権、精神障害者と家族の状況 第 3 回 : 精神障害者と地域社会、精神障害者の生活支援の理念と概念 第 4 回 : 行政機関における相談援助システム　　ゲストスピーカー 第 5 回 : 精神障害者の居住支援制度の歴史的展開、居住の場の確保と精神保健福祉士の役割 第 6 回 :　精神障害者の居住支援に関わる専門職と役割、今後の居住支援 第 7 回 : 地域生活支援システム（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム） 第 8 回 : 精神障害者の雇用・就業支援制度の歴史的展開 第 9 回 : 精神障害者の就業支援制度の概要　就労とは～働くことの意義　　ゲストスピーカー 第 10 回 : 福祉的就労における支援の実際、雇用・就労支援における近年の動向 (秋セメスター) 第 11 回 : 精神科地域連携クリティカルパス 第 12 回 : クライシスケアシステム（自殺予防ネットワーク、自殺未遂者支援） 第 13 回 : 社会参加、余暇活動 第 14 回 : 統合的生活モデル①（世界のベストプラクティス） 第 15 回 : 統合的生活モデル②（日本のベストプラクティス）

アクティブラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWebClassを介して行います。
評価方法	100点満点とし、授業への取り組み50%（事前・事後学修含）、レポート50%として評価します。レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座　第7巻『精神障害者の生活支援システム』中央法規出版
参考図書	『精神障害者のための就労支援ガイドブック』野中猛・松為信雄編　金剛出版
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅰ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
到達目標	1. 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解すると共に、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を得る。 2. 相談援助の過程及び対象との援助関係について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当　佐々木正和・ゲストスピーカー＞ 第 1 回：障害者福祉の理念と精神障害①　ノーマライゼーション・リハビリテーション 第 2 回：障害者福祉の理念と精神障害②　生活の質（QOL）・自立支援・ソーシャルインクルージョン 第 3 回：精神障害者の人権 第 4 回：障害者権利条約の理念 第 5 回：精神保健福祉の歴史と理念　　精神保健福祉の歴史①（治安対策と監護） 第 6 回：精神保健福祉の歴史②（地域ケアと入院医療） 第 7 回：精神保健福祉の歴史③（地域ケアと社会復帰） 第 8 回：精神保健福祉の現状と課題 第 9 回：精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 第 10 回：精神科医療における権利擁護　　担当：ゲストスピーカー 第 11 回：日本の PSW の歴史・精神保健福祉士の国家資格化 第 12 回：精神保健福祉士の専門性と倫理①　導入期・混乱期 第 13 回：精神保健福祉士の専門性と倫理②　展開期・拡大期 第 14 回：精神保健福祉士の倫理と業務 第 15 回：まとめ　具体的事例検討
アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向の情報 提供を行います。

授業内のICT活用	Webclassによるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験70%
課題に対するフィードバック	WebClassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー④　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（第６版） へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） 事後学修 ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（１～15回） （事前・事後学修　目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、技法について学ぶ。また、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ。
到達目標	１．相談援助活動のための面接技術及び相談援助・家族調整・支援の実際と事例の支援過程（医療機関、福祉事業所、地域社会を含む）について理解する。 ２．地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む）について理解する。
授業計画	＜担当教員名＞　大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　精神障害者（主に統合失調症）の理解 第２回　ソーシャルワークの展開過程 第３回　精神保健ソーシャルワーク面接の特徴・ソーシャルワーカーの態度 第４回　精神障害者を対象としたケアマネジメント 第５回　精神障害者支援のための関連専門職種との連携 第６回　グループを活用した支援 第７回　精神科デイケア・SST の実際　／ゲストスピーカー 第８回　精神科救急と危機介入 第９回　事例分析（背景と個別性の理解・関連専門職種との連携） 第 10 回　精神保健福祉士が行う訪問型支援（ACT・生活訓練訪問型・訪問看護） 第 11 回　個別支援とネットワーク型支援 第 12 回　精神保健福祉士が行う家族への個別支援 第 13 回　精神保健福祉士が行う家族 SST・家族心理教育・家族教室 第 14 回　ピアサポーター・セルフヘルプ・リカバリー 第 15 回　チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
アクティブラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。 第８・９回は発表（プレゼンテーション）を行います。
授業内の ICT 活用	Web Class を介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布も WebClass を介して行います。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）70%、授業への取り組み・発表 20%、事前事後学修提出状況 10%として評価します。

課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー4（第6版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい(20分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位(30 時間)　 選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を涵養する。
到達目標	１．精神保健福祉士に求められる総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助事例を体系的、実践的に理解する。 ２．精神保健福祉支援における諸課題を、概念化、理論化、体系化して理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　大場義貴、佐々木正和 第 1 回：精神保健福祉士としての価値　大場・佐々木 第 2 回：精神保健福祉士としての技術　大場・佐々木 第 3 回：精神保健福祉士としての視点　大場・佐々木 第 4 回：退院支援、地域移行①インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング　大場・佐々木 第 5 回：退院支援、地域移行②効果測定と支援の評価・終結とアフターケア　大場・佐々木 第 6 回：就労（雇用）支援①　インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング　大場・佐々木 第 7 回：就労（雇用）支援②　効果測定と支援の評価・終結とアフターケア　大場・佐々木 第 8 回：ネットワーキング・ 社会資源の活用・調整・開発　大場・佐々木 第 9 回：地域における精神保健（自殺、ひきこもり等）　大場・佐々木 第 10 回：実習場面のふりかえり①　(当事者理解)　大場・佐々木 第 11 回：実習場面のふりかえり②　(医療機関の機能と精神保健福祉士)　大場・佐々木 第 12 回：実習場面のふりかえり③　(福祉事業所・行政等機能との精神保健福祉士)　大場・佐々木 第 13 回：実習場面のふりかえり④　(発表と評価)　大場・佐々木 第 14 回：地域における精神保健福祉啓発活動開発①（グループワーク）　大場・佐々木 第 15 回：地域における精神保健福祉啓発活動開発②（発表と評価）　大場・佐々木

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第6回ではロールプレイングを行います。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位(30 時間)　 選択　社福　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習の経験を踏まえ、長期入院をしている精神障害者の生活上の課題や、必要な支援やについて把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、体系化し、実践できる能力を涵養するため、個別並びに集団による実技指導を行う。
到達目標	１．個人指導並びに集団指導による、精神障害者及び家族への具体的な援助場面を想定した、模擬面接（ロールプレイ）を実施し、インテーク（受理面接)、 アセスメント（課題分析)、プランニング（支援の計画)、 支援の実施、 モニタリング（経過観察）を組み立てる。 ２．家族間の調整（模擬面接）や、関係者との模擬ケア会議を企画、実施できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　大場義貴、佐々木正和 第 1 回：　オリエンテーション・精神保健福祉士の行う相談援助の原則・事例の理解 第 2 回：　初回面接の準備（クライエントの理解、かかわり方の検討)　大場・佐々木 第 3 回：　初回面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント　大場・佐々木 第 4 回：　アセスメントと第２回目面接の準備　大場・佐々木 第 5 回：　第２回目面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント　大場・佐々木 第 6 回：　家族（弟）面接の準備　大場・佐々木 第 7 回：　家族（弟）面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント　大場・佐々木 第 8 回：　個別支援計画のプランニング①　クライエントに関する情報の整理　大場・佐々木 第 9 回：　ロールプレイを通してクライエントと家族関係の多面性を理解する　大場・佐々木 第 10 回：個別支援計画のプランニング②　個別支援計画の作成　大場・佐々木 第 11 回：個別支援計画の立案③　個別支援計画の説明の準備　大場・佐々木 第 12 回：クライエントに対して支援計画の説明（ロールプレイ）　大場・佐々木 第 13 回：モニタリングと個別支援計画の再プランニング　大場・佐々木 第 14 回：効果測定と支援の評価・終結とアフターケア　大場・佐々木 第 15 回：精神保健福祉士の行う相談援助の実際・スーパービジョン　大場・佐々木

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第3・5・7・9・12回ではロールプレイングを行います。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWeb Classを介して行います。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	３単位(90 時間)　選択　社福　６～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健ソーシャルワーク実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。
到達目標	１．精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ２．精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	＜担当教員名＞　佐々木正和　大場義貴（両名が１回から４５回まで担当） ＜授業内容・テーマ等＞ 実習前 第 1 回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義　佐々木・大場 第 2 回：実習現場の理解（各論）：就労支援①（講義）　（ゲストスピーカー） 第 3 回：実習現場の理解（各論）：就労支援②（グループワーク）佐々木･大場（ゲストスピーカー） 第 4 回：実習現場の理解（各論）：行政機関①（講義）　（ゲストスピーカー） 第 5 回：実習現場の理解（各論）：行政機関②(グループワーク）佐々木･大場（ゲストスピーカー） 第 6 回：実習現場の理解（各論）：精神科病院①（講義）　（ゲストスピーカー） 第 7 回：実習現場の理解（各論）：精神科病院②(グループワーク）佐々木･大場（ゲストスピーカー） 第 8 回：実習現場の理解（各論）：地域活動支援センター・相談支援事業所など　佐々木･大場 第 9 回：実習現場の理解（各論）：精神科デイケア・訪問看護など　佐々木・大場 第 10・11 回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定　（グループワーク・個別指導） 第 12 回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解　佐々木・大場 第 13 回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解　佐々木・大場 第 14・15 回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解　佐々木・大場 第 16・17 回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解　佐々木・大場 第 18・19 回：巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）の意義について佐々木・大場 第 20～22 回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成　佐々木・大場 第 23・24 回：実習計画の発表　佐々木・大場 第 25・26 回：中間報告会　佐々木・大場 第 27・28 回：中間報告会 実習後 第 29・30 回：グループスーパービジョン　佐々木・大場 第 31～36 回：実習の振り返りと実習報告会準備　佐々木・大場 第 37～40 回：実習報告会　佐々木・大場 第 41 回：実習報告会振りかえり 第 42 回：専門職としての理解：当事者からの学び①（講義）　（ゲストスピーカー） 第 43 回：専門職としての理解：当事者からの学び②(グループワーク）　佐々木・大場（ゲストスピーカー） 第 44 回：専門職としての理解：家族からの学び①（講義）　（ゲストスピーカー） 第 45 回：専門職としての理解：家族からの学び②(グループワーク）佐々木・大場（ゲストスピーカー）
アクティブラーニング	グループワークやロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、webclass を活用し双方向で情報提供を行います

授業内のICT活用	Webclassによるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	授業への取り組み50%、定期試験（レポート）50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	WebClassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	① 株）みらい 『ソーシャルワーク実習ノート（第２版)』 ②実習の手引き
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修 ・教科書の単元を読み込んでおくこと（3～10回)。 ・提出する資料を作成しておくこと（12～17回)。 事後学修 ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（１～40回） （事前・事後学修　目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	５単位(210 時間)　選択　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得すると共に、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 学生が以下に示す達成課題に取り組むことができるように、実習先の実習指導者並びに実習担当教員は、実習状況を把握し、適宜指導を行う。
到達目標	１．精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ２．精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
授業計画	＜担当教員＞　　佐々木正和　大場義貴（実習巡回指導は両名が行う） ＜授業内容・テーマ等＞ 　精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 　精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①治療中の患者及びその家族への相談援助 ②日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ③地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 　地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、原則的に次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。また、不足する内容に関しては、精神保健ソーシャルワーク実習にて補う。 ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティ等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	webclass 上で講義や講演会の情報等の情報交換を双方向で行う。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	実習への取り組み 70%、定期試験（レポート）30%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	①（株）みらい『ソーシャルワーク実習ノート（第 2 版)』(3 年次購入済み)、②実習の手引き 各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します. 各回２０分程度の復習と、２０分程度の予習をして実習に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神障害リハビリテーションⅠ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害リハビリテーションの理念、意義を理解し、精神障害者が「主体的に生きる」ことを支えるための構成及びプロセスについて具体的に学習する。さらにその実際の中で精神保健福祉士としての視点、役割を確認し、精神障害リハビリテーションにおける専門性に基づいた精神保健福祉士の実践を理解する。
到達目標	1. 歴史的経過を踏まえた精神科リハビリテーションの意義を理解できる。 2. 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の実践の意義を理解できる。 3. 生活支援の視点を理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1回　講義のオリエンテーション 第　2回　リハビリテーションの概念、定義 第　3回　リハビリテーションの分野、理念と意義、基本原則 第　4回　精神科リハビリテーションの歴史と概念 ／精神科リハビリテーションの理念と意義　① （セルフヘルプ活動・クラブハウスモデル） 第　5回　精神科リハビリテーションの理念と意義　② （ストレングス・エンパワメント・リカバリー） 第　6回　精神科リハビリテーションの基本原則 第　7回　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割／専門職との連携 第　8回　精神科リハビリテーションの対象／精神科リハビリテーションにかかわる専門職 第　9回　精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業　① 第 10 回　精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業　② 第 11 回　精神科リハビリテーションのプロセス（基本プロセス） 第 12 回　精神科リハビリテーションのプロセス（展開） 第 13 回　精神科リハビリテーションのプロセス（地域におけるリハビリテーション） 第 14 回　精神科リハビリテーションのプロセス（疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション） 第 15 回　まとめ
アクティブラーニング	該当なし
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー20%、定期試験（筆記試験）80% レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。

課題に対するフィードバック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑤　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第６版） へるす出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修 ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15 回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14 回） 事後学修 ・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること（１～15 回） （事前・事後学修　目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神障害リハビリテーションⅡ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神保健福祉におけるリハビリテーションの基本的枠組みの理解と具体的な目的、技法を学び、地域生活の支援のあり方、社会資源の活用、地域相談や関係機関との連携など、ケアマネージメント、コミュニティーワークの実際を理解する。
到達目標	１．精神保健福祉におけるリハビリテーションの目的や基本的考え方、技法を理解する。 ２．社会生活を基礎とした支援技法、専門職として連携の在り方について理解を深める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 精神障害者を対象としたリハビリテーションの意義・目的 第 2 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法①（作業療法、集団精神療法） 第 3 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法②（認知行動療法の基礎） 第 4 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法③（SST の方法と展開） 第 5 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法④（心理教育、チームアプローチ） 第 6 回：発達障害の 2 次障害と精神科リハビリテーション 第 7 回：精神科リハビリテーションサービス①（デイケア・ナイトケア） 第 8 回：精神科リハビリテーションサービス②（居住支援・就労支援） 第 9 回：地域生活支援とネットワーキング　ケアマネージメント 第 10 回：仲間による地域生活支援①　ピアサポート・リカバリー 第 11 回：仲間による地域生活支援②　ピアサポーター　ゲストスピーカー 第 12 回：精神保健福祉ボランテアの育成と活用 第 13 回：精神保健福祉ボランテアの実際　ゲストスピーカー 第 14 回：児童・思春期・青年期の精神障害リハビリテーション 第 15 回：精神疾患の子どもへの影響と支援のあり方

アクティブラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。
授業内のICT活用	Web Classを介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWeb Classを介して行います。
評価方法	100点満点とし、授業への取り組み50%（事前・事後学修含）、レポート50%として評価します。レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー5（第6版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　へるす出版 （精神障害リハビリテーションⅠ使用テキスト）
参考図書	ストレングスモデル[第3版]―リカバリー志向の精神保健福祉サービス（2014）チャールズ・A・ラップ（著），　リチャード・J・ゴスチャ（著），田中 英樹 監訳（翻訳） 精神障害者支援の思想と戦略　ＱＯＬからＨＯＬへ（2018）田中英樹／著
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClassに入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学Ⅱ
科目責任者	山末　英典
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、精神科ではどのような治療が、どのような環境・法制度のもとで行われているのかについて基本的な知識を学ぶ。
到達目標	1. 精神疾患に対する治療法を知り、どのような精神疾患に対して用いられるかを理解する。 2. 精神科の治療構造を知り、それぞれどのような疾患、病状に適応されるかを理解する。 3. 精神疾患に対する治療の一般的な流れについて理解する。 4. 精神医学に関連した法制度について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等（担当教員名）＞ 第 1 回：ガイダンス・精神科医療とは（山末英典） 第 2 回：精神障害の治療（1）薬物療法（栗田大輔） 第 3 回：精神障害の治療（2）精神療法（栗田大輔） 第 4 回：精神障害の治療（3）精神科リハビリテーション（高貝就） 第 5 回：精神障害の治療（4）環境・社会療法（高貝就） 第 6 回：精神科医療機関の治療構造（1）疾病構造の変化（亀野陽亮） 第 7 回：精神科医療機関の治療構造（2）外来診療／在宅医療（亀野陽亮） 第 8 回：精神科医療機関の治療構造（3）入院診療（宇佐美梨奈） 第 9 回：精神科医療機関の治療構造（4）医療観察法（宇佐美梨奈） 第 10 回：精神科医療における人権擁護（1）精神科治療と入院形態（桑原斉） 第 11 回：精神科医療における人権擁護（2）インフォームド・コンセント（桑原斉） 第 12 回：精神科医療における人権擁護（3）隔離・拘束（横倉正倫） 第 13 回：精神科医療における人権擁護（4）精神科救急システム／移送制度（横倉正倫） 第 14 回：関連諸機関同士の連携（1）治療の導入／再発予防／退院促進（高木英昌） 第 15 回：総括（高木英昌）

アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第２版』中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	マネジメント演習
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	社会福祉経営論、トップマネジメント論で理論的に学んだことが、社会福祉施設・事業所、法人等の現場でどのように運用・実践されているのかについて、フィールドワークをとおして具体的に学ぶとともに、施設・事業所、法人のマネジメントに関わる現代的課題について、主体的に探索し、学修し、理解を深める。
到達目標	福祉専門職に求められるマネジメントの基本的な知識・理論をもとに、現場で求められる課題設定の視点、解決に向けた展望を描くことができる。 １．社会福祉施設・事業所、法人の運営、経営について、実際に現場に赴いて関係者から説明を受ける中で、具体性、現実性をもって理解できる ２．施設・事業所、法人などの組織運営をする上での現代的課題について、主体的に課題設定し解決策を導くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　：オリエンテーション 第２回：Ａ法人　運営の実際①　見学 第３回：　〃　　運営の実際②　講話 第４回：　〃　　学びのまとめ 第５回：Ｂ法人　運営の実際①　　見学 第６回：　〃　　運営の実際②　　講義 第７回：　〃　　学びのまとめ 第８回：Ｃ法人　運営の実際①　　見学 第９回：　〃　　運営の実際②　　講義 第10回：　〃　　学びのまとめ 第11回：マネジメントに関する自由研究・発表① 第12回：マネジメントに関する自由研究・発表② 第13回：マネジメントに関する自由研究・発表③ 第14回：マネジメントに関する自由研究・発表④ 第15回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目である ほぼ毎回グループワークを実施
授業内のICT活用	・ipadを用いて法人見学の事前学習を実施する ・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う
評価方法	授業への参加態度（見学後のミニレポート含む）60%　定期試験（レポート）　40% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業のまとめ、リアクションペーパーについては、毎回フィードバックする
指定図書	授業の中で、毎回関連する資料を配布する
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学修：社会福祉経営論や、（履修している学生はトップマネジメント論）の復習をする 2，5，8回に実施する施設・事業所・法人見学に向けて予習課題を行う。 11～14回のマネジメントに関する自由研究・発表に向けた学修を進める 事後学修：見学後には必ずミニレポートを提出する （事前・事後学修　40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクール（学校）ソーシャルワーク論
科目責任者	平川　悦子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
到達目標	１．今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する ２．スクールソーシャルワークの発展過程について理解する ３．海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する ４．スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する ５．スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解する
科目概要	スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子ども（児童生徒）達が健やかに育つ環境をつくるために、現代の日本の社会においてスクールソーシャルワークは何をすべきかを考える。 今日の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の現状を把握したうえで、スクールソーシャルワークの国内外における発展過程、実践モデル等について学ぶ。事例も取り入れ、実践的な理解も深める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：オリエンテーション 第　2 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題① 学校における問題（不登校、非行、いじめ等） 第　3 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題② 家庭の抱える課題（児童虐待、子どもの貧困等） 第　4 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③ 発達障がいと特別支援教育 第　5 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③ 外国にルーツのある子どもの現状 第　6 回：スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理 第　7 回：海外におけるスクールソーシャルワークの発展と現状 第　8 回：日本におけるスクールソーシャルワークの展開と課題 第　9 回：　スクールソーシャルワークの実践モデル 第 10 回：　スクールソーシャルワークの支援方法（ミクロレベル） 第 11 回：　スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル） 第 12 回：支援ケース会議の重要性、進め方 第 13 回：　スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル） 第 14 回：日本の教育施策の動向とスクールソーシャルワークの役割 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	グループディスカッションによる事例検討を行います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業への取り組み５０％ レポート５０％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次回授業時にコメント・回答等を返します。
指定図書	山野則子・野田正人・半羽利美佳編著「よくわかるスクールソーシャルワーク　第2版」 ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 配布資料について熟読し理解を深めてください。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「スクールソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク演習
科目責任者	帖佐　加代
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について学び、スクールソーシャルワーカーの基盤となる理論と実践について理解し、実際に活用する力をつける。 学校や教育機関という福祉とは異なった現場において、子どもたちの最善の利益を目標にソーシャルワークを実践するスクールソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得できるように、グループワークやロールプレイなどの演習を行い、様々な事例や場面について体験できるようにする。
到達目標	１　ミクロ実践として具体的な事例に対しアセスメント、プランニング、モニタリングを実際に展開することができる。 ２　メゾ実践として、ケース会議をロールプレイにおいて運営することができる。 ３　マクロ実践として、ニーズに対してどのようにアプローチを行うか検討し、新たな仕組みを開発する視点をもつことができる。 ４　スクールソーシャルワーク実践を記録化すること、それを通してスクールソーシャルワークの視点を説明できると同時に、記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画や方法の説明） 学校教育現場が抱える課題と学校教育現場におけるソーシャルワークの価値 第２回：ソーシャルワークの対象者理解（子ども、家庭、地域のアセスメント） 第３回：ソーシャルワークの対象者理解（学校理解とチーム学校） 第４回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス１） 第５回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス２） 第６回：スクールソーシャルワーク実践（メゾプラクティス） 第７回：スクールソーシャルワーク実践（マクロプラクティス） 第８回：スクールソーシャルワークを維持・発展させる力（記録やデータの蓄積を行うこと、スーパービジョン、評価）

アクティブラーニング	毎回、ディスカッション、グループワークを行います。
授業内のICT活用	発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	１００点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%、レポート５０％として評価します。レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。
指定図書	『よくわかるスクールソーシャルワーク』山野則子編著　ミネルヴァ書房
参考図書	『学校でソーシャルワークをするということ』鈴木庸裕編著　学事出版 『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』金沢ますみ　学事出版 『子どもの貧困に向き合える学校づくり』鈴木庸裕他　かもがわ出版 授業中に随時連絡します
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭福祉に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 各回の進行に応じて、課題や資料を配布します。資料を熟読し課題理解を深めてください。(目安時間40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目はスクールソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６～７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。
到達目標	１.教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。 ２.具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 ３.ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第６セメスター 第　１回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義 第　２回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解 第　３回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解 第　４回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解 第　５回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など） 第　６回：浜松市の子ども相談体制についての理解　（ゲストスピーカー） 第　７回：実習計画の作成（前半実習） 第　８回：実習計画の発表 第　９回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 第７セメスター 第 10 回：前半実習のふり返り 第 11 回：実習計画の作成（後半実習） 第 12 回：巡回指導 第 13 回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 第 14 回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成 第 15 回：実習の評価全体総括会（実習報告会）

アクティブラーニング	グループ学修を行います。課題提出などは、Web Class を活用し双方向で情報提供を行います
授業内のICT活用	Web Class を介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布もWeb Class を介して行います。
評価方法	100点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%、定期試験（レポート）および実習報告書50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	Web Class にてリアクションペーパーを記述してください。次回の講義でリアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	なし。随時資料を配付。
参考図書	『学校ソーシャルワーク演習』門田光司・鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカーの学校理解』鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・事後学修	【事前学修】第2回～第15回授業前にWebClass 内の事前課題に回答して下さい（20分） 【事後学修】第2回～第15回授業へのリアクションを期日までにWebClass に入力して下さい（20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク実習
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（90 時間）　選択　社福　６～７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	１.児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 ２.スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 ３.教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 ４.子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。 ・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
到達目標	１.学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。 ２.教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。 ３.子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 大学が指定する学校・機関・組織にて９０時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。 ①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成 ②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通した、円滑な人間関係の形成 ③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成 ④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）と評価 ⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際 ⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際 ⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
アクティブラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	Web Class を介して、事前事後学修を提出して頂きます。また、リアクションペーパーのフィードバックや、資料の配布も Web Class を介して行います。
評価方法	100 点満点とし、実習への取り組み 70%、報告書（報告会用）30%にて行う。

課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	実習の手引き（大学から配付）
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。 （目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ジョブコーチ論
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	1単位(15時間)　選択　社福　7セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害者雇用制度の基礎、障害者雇用及び就労支援の現状を把握し、ジョブコーチ支援の考え方と支援方法の基礎を理解します。特に、障害者雇用における職場環境の工夫、仕事を分かりやすく教える方法、ナチュラルサポートの形成方法などの実際を現場実務者から学びます。
到達目標	１．障害者雇用制度の基礎知識を身につける。 ２．就労支援に関わる社会資源や制度の基礎知識を身につける。 ３．ジョブコーチの支援を理解する。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回 ：ジョブコーチ支援の実際① 第２回 ：障害特性を理解する① ―自閉症の人が見ている世界― 第３回 ：障害特性を理解する② ―自閉症の人を正しく理解する― 第４回 ：障害者雇用と法制度① ―障害者総合支援法の中の就労支援― 第５回 ：障害者雇用と法制度② ―法定雇用率制度― 第６回 ：知的障害者と就労支援（就労継続支援事業所現場学習） 第７回 ：知的障害者と就労支援（就労継続支援事業所現場学習） 第８回 ：ジョブコーチの支援の実際② ゲストスピーカー（支援機関のジョブコーチ）
アクティブラーニング	現場学習やゲストスピーカーから支援の実際を学びます。
授業内のICT活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。

評価方法	授業態度:20%、現場学習レポート：40%、期末レポート：40% レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーへのコメント・解説等を行います。
指定図書	なし　プリント等を配布します。
参考図書	小川浩編著『ジョブコーチハンドブック』エンパワメント研究所
事前・事後学修	【事前】毎回終了時に次回までの調べものを提示します。短いレポートにまとめ Webclass に提出します。自分自身のアルバイト体験や家族の労働を通して、人が「働く」こと、「労働」の意味を考えて下さい。また、障害者就労支援事業所を見学するにあたって障害者総合支援法についての事前学修が必要になります。 【事後】毎回の授業で出てきた重要なキーワードについて調べ、Webclass に提出します。国家試験対策を兼ねています。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	医療ソーシャルワーク演習
科目責任者	村上　武敏
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	保健医療機関において、子どもから高齢者まであらゆる年齢階層の人たちが直面する生活問題について、医療職種をはじめとする様々な専門職との協働により、いかに解決に導くのか。その方法論の習得を目的としてグループ学習を行う。 医療提供体制の効率化と地域包括ケアシステムの構築、「医療から介護へ」という流れのなかで医療職と協働して問題解決にあたる医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター社会福祉士、ケアマネジャー、行政社会福祉士などを志す方に受講を勧めたい。
到達目標	1.疾病にともなう生活問題の解決に向けた方法論を習得する 2.医療職を含む多職種協働と地域のネットワークづくりの方法について習得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：医療介護制度改革とソーシャルワーク 第 2 回：医療福祉にかかわる制度の活用（グループワーク） 第 3 回：多職種協働における視点と方法（グループワーク） 第 4 回：疾病と貧困の悪循環について理解する（グループワーク） 第 5 回：インテーク・アセスメント・支援計画の実際（グループワーク） 第 6 回：医療ソーシャルワーカーの実践について ゲスト講師：聖隷浜松病院 MSW 第 7 回：地域のネットワークづくりの実践について ゲスト講師：在宅連携センターつむぎ MSW 第 8 回：地域のネットワークづくりの視点と方法（グループワーク）
アクティブラーニング	演習科目である
授業内の ICT 活用	グループワークにおいてアイパッドおよびスマートフォンを利用する。

評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・事後学修	【事前学習】第2回から第8回までの授業の前に課題を提示する（目安時間40分） 【事後学習】授業中に配布した資料をもとに授業の振り返りを行う。（目安時間 20分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）社福　選択　６～７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	「医療ソーシャルワーク実習」をより実り多いものとするために、事前学習として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして実習計画を作成する。 また、事後学習として、スーパービジョンやグループ学習を通して実習体験を理論的に整理するとともに実習報告会を実施する。
到達目標	１．実習において必要とされる知識を習得する ２．実習の目的にかなう実習計画書を作成する ３．医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する ４．医療福祉の対象と方法について理解する。 ５．医療福祉を取り巻く環境について理解する。 ６．実習体験を体系的に報告する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 事前学習（6 セメスター） 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：①病院の組織と医療相談室の役割 ②聖隷三方原病院見学 ゲスト講師：聖隷三方原病院 MSW 第 3 回：浜松市役所訪問 ①生活保護課の仕事 ②高齢者福祉課の仕事 ③児童相談所の仕事 講師：福祉総務課、中区生活福祉課、高齢者福祉課、児童相談所 第 4 回：4 年生の実習体験報告と進路について 第 5 回：リハビリテーション病院における MSW の業務 ゲスト講師：浜松市リハビリテーション病院 MSW 第 6 回：実習領域の選択 第 7 回：実習計画の検討 第 8 回：実習のまとめ 事後学習（7 セメスター） 第 9 回：グループスーパービジョン 第 10 回：個別スーパービジョン① 第 11 回：個別スーパービジョン② 第 12 回：実習報告会の準備① 第 13 回：実習報告会の準備② 第 14 回～15 回：実習報告会
アクティブラーニング	実習科目である
授業内の ICT 活用	グループワークにおいてアイパッドおよびスマートフォンを利用する。

評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	報告会においてコメントする。 期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	【事前学習】第2回から第5回まで授業の前に課題を提示する。(目安時間 40分) 【事後学習】第2回から第5回まで配布資料をもとに授業の振り返りを行う。(目安時間 30分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部2613研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」「地方自治体 社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療ソーシャルワーク実習
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（90 時間）　選択　６～７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	医療機関（病院・診療所・老人保健施設）またはその関連施設の医療福祉部門において、10 日間の配属実習を行う。「医療ソーシャルワーク実習指導」と合わせて、医療機関と医療福祉について理解を深める。 本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となるが、編入学など個別事情に配慮する。
到達目標	１．医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。 ２．医療福祉の対象と方法について理解する。 ３．医療福祉を取り巻く環境について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 10 日間の配属実習を行う。 実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。また、実習担当教員は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。
アクティブラーニング	実習科目である
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	実習への取り組み姿勢や実習記録等を総合して評価する。
課題に対するフィードバック	評価後に実習記録をお返しする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	1 日目から 10 日目まで、実習の振り返りと実習記録の作成に 2 時間、翌日の実習計画の作成に 30 分を必要とする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	2613 研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。
実務経験に関する記述	実習科目である

科目名	インターンシップⅡ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP１専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら､3 年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は 10 日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	＜担当教員名＞佐藤順子 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	ICTを活用し事前学習を進めます
評価方法	事前・事後学習への取り組み20% 配属実習での取り組み40% 定期試験（レポート）40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	特になし
参考図書	特になし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	横尾　惠美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP1　専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護実践において人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを理解することができるように、人権思想や福祉理念の歴史的変遷の授業展開ではできるだけ事例等を活用し講義を行う。
到達目標	1. 人間の尊厳と人権の考え方を知り、理解することができる。 2. 人権思想や福祉理念の歴史的変遷が理解できる。 3. 人間の尊厳や自立の概念が理解できる 4. 生活支援における人間の尊厳・自立を理解できる。 5. 介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：　人間を理解するということ 第　2 回：　人間の尊厳と人権・福祉理念について考える 第　3 回：　人間の尊厳と人権・福祉理念について事例で検討する 第　4 回：　尊厳と自立の概念をめぐる歴史と仕組み(1)人権、尊厳、自立の歴史的経緯 第　5 回：　尊厳と自立の概念をめぐる歴史と仕組み(2)福祉関係の法律の理念・目的・内容 第　6 回：　尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み(3)障害のある人の人権の歴史 第　7 回：　人間の尊厳・自立と生活(1)　事例で考える人間の尊厳 第　8 回：　人間の尊厳・自立と生活(2)　事例で考える人間の自立・自律 第　9 回：　人間の尊厳・自立と生活(3)　生きる意義を考える 第 10 回：　介護における尊厳の保持・自立支援(1)介護における権利擁護と人権尊重 第 11 回：　介護における尊厳の保持・自立支援(2)介護における自立支援 第 12 回：　介護における尊厳の保持・自立支援(3)介護における尊厳保持と自立支援実践 第 13 回：　法制度・社会の仕組みからみた人間の尊厳と自立 第 14 回：　介護福祉の価値と倫理 第 15 回：　事例から見る介護福祉の倫理的課題

アクティブラーニング	iPAD を使用して授業展開をします。またグループで話し合って意見をまとめて発表することもあります。
授業内のICT活用	ICT機器を利用して調べたりする授業を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションでプロジェクターを利用します。
評価方法	課題レポート60%、授業態度20%、小テスト20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーや課題はその都度コメントをつけて返却をします。 小テストは実施授業時に答合わせをします。
指定図書	「最新　介護福祉士養成講座　1　人間の理解 」中央法規出版
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学習：次回の授業の重要語句を事前に提示する。その言葉を調べてくる。 授業後に課題プリントを配布する。プリントを毎回授業開始時に提出する。(目安時間40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達と老化Ⅰ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 老化という高齢者のたどる過程を成長ととらえ、発達段階と考えることにより、介護現場で出会う高齢者の心理的身体的特徴が理解でき、適切な介護実践が可能となる基礎力を培う。 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。
到達目標	1. 人間の成長と発達の基礎的な知識を学習し、理解を深める。 2. 老年期の発達と成熟の特徴を学び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響を学習する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス　発達心理学の視点 第２回：人間の成長と発達の基礎的理解①―発達とは 第３回：人間の成長と発達の基礎的理解②―人間の発達段階と発達課題 第４回：人間の成長と発達の基礎的理解③―発達と個人差 第５回：老年期の発達と成熟―老化とは 第６回：老年期の発達と成熟―老年期の発達課題の留意点 第７回：老化が及ぼす心理的影響 第８回：老いの価値観・受容 主観的幸福感、QOL・生きがいの視点 第９回：老いの価値観・受容 老年期の適応課題とパーソナリティ 第 10 回：高齢者のこころの問題と精神障害 第 11 回：要介護による高齢者の心理 第 12 回：老化に伴うこころとからだの変化と生活 演習　資料「高齢者の特徴」、「加齢による身体的機能の変化」、「高齢者に起こりやすい状態」を基にロールプレイ　「高齢者のゲストスピーカー役」 第 13 回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化・免疫機能の変化・感覚機能の変化、咀嚼機能や消化機能の変化 第 14 回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 循環器の機能の変化・呼吸器の機能の変化、筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化 第 15 回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 記憶機能の変化、認知機能の変化

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWebClassにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。 グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座12巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。2回、4回、10回、18回、20回、22回、24回、26回）の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：毎回の授業後にWeb Class内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達と老化Ⅱ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 高齢者と健康ということで、高齢者に多い疾患や老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響などを理解し、介護過程の展開の根拠となる知識を修得する。 ①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。 ②老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響を理解し、生活支援の中でいつもとの違いを感じとり、医療職とどのように連携するのかについて学習する。
到達目標	１．高齢者の疾患と生活上の留意点が分かる。 ２．高齢者に多い疾患と老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響の留意点が分かる。 ３．保健医療職との連携のポイントが分かる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：振り返り：人間の成長と発達の基礎的理解、高齢者と健康 演習　高齢者疑似体験（課題に添って体験、振り返り） 第２回：高齢者の症状・疾患の特徴(慢性、複数疾患) 第３回：高齢者の症状・疾患の特徴(非定型的な症状、閉じこもりと廃用症候群, 社会・家族の影響) 第４回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(痛み（腹痛・骨・筋肉・関節)、めまい) 第５回：高齢者の症状・疾患の特徴(体重減少・食欲不振、しびれ、浮腫) 第６回：高齢者の症状・疾患の特徴(咳・痰、息切れ・息苦しさ、掻痒感) 第７回：高齢者の症状・疾患の特徴(不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血) 第８回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点（生活習慣病) 第９回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点（骨・関節系の病気) 第 10 回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点 （歯・口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気) 第 11 回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点 （呼吸器系の病気、腎・泌尿器系の病気、消化器系の病気) 第 12 回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点 （循環器系の病気、脳・神経系の病気、精神の病気) 第 13 回：高齢者に多い病気と老化に伴うこころとからだの変化と生活上の留意点（介護保険の特定疾患、感染) 第 14 回：保健医療職との連携―保健医療職とのチームケアの必要性　事例１ 第 15 回：保健医療職との連携―保健医療職との連携のポイント　事例２

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは Web Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。 グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業態度 20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20%　　定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：毎回の授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	認知症に関する知識を深めるとともに、認知症の人を中心に捉え本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する科目です。 認知症ケアの理解、認知症の人を支援する家族への支援を多職種連携の視点から学習し、実践できることを目的とします。 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解し、認知症の人や家族への支援、認知症の人を支える多職種の連携・協働の在り方を学びます。
到達目標	1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。 2. 認知症の人を支える、地域、家族の支援の在り方について理解できる。 3. 認知症の人を支える、多職種連携・協働について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：認知症の人へのかかわりの基本 第 2 回：認知症の進行に応じた介護(1) 認知症ステージ：発症～軽度の人への介護 第 3 回：認知症の進行に応じた介護(2) 認知症ステージ：中等度の人への介護 第 4 回：認知症の進行に応じた介護(3) 認知症ステージ：重度の人への介護 第 5 回：認知症の進行に応じた介護(4) 認知症ステージ：ターミナル期の人への介護 第 6 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(1) 認知症の症状と環境の関係 第 7 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(2) 認知症の種類と生活環境 第 8 回：認知症の人の介護過程(1)　行動の背景 第 9 回：認知症の人の介護過程(2)　アセスメントの視点 第 10 回：認知症の人の介護過程(3) 介護計画 第 11 回：地域におけるサポート体制　-地域包括支援センターの役割・機能 第 12 回：地域におけるサポート体制　-ボランティア、サポーターの役割・機能 第 13 回：認知症の人を支援する多職種連携と協働　チームアプローチ 第 14 回：家族への支援の在り方(1)　-家族のレスパイト 第 15 回：家族への支援の在り方(2)　-家族会と介護教室

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWebClassにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas（電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座13　認知症の理解』　中央法規
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。 奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	障害の理解
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。 2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　身体障害(1)視覚障害の種類と原因、特性 第 2 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　身体障害(2)聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性 第 3 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　身体障害(3)重複障害のある人の生活 第 4 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　身体障害(4)肢体不自由の種類と原因、特性 第 5 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　身体障害(5)内部障害の種類と原因、特性 第 6 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　知的障害の種類と原因、特性 第 7 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　精神障害の種類と原因、特性 第 8 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　高次脳機能障害高次脳機能障害の種類と原因、特性 第 9 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　発達障害の種類と原因、特性 第 10 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　重症心身障害重症心身障害のある人の生活 第 11 回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識　難病の種類と原因、特性 第 12 回：障害の概念、制度、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援　障害のある人の心理、障害の受容、適応と適応機制 第 13 回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援　障害に伴う機能の変化と日常生活への影響障害のある人の特性を踏まえたアセスメント 第 14 回：連携と協働　チームアプローチ、多職種連携・協働による支援 第 15 回：家族への支援　家族の受容段階や介護力に応じた支援
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 60%、課題提出物（レポート、リアクションペーパー）20%、小テスト 20%、計 100%

課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 14　障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。なお、5 回、10 回、15 回目には小テストを行うため、その事前学修もしておくこと。（40 分） 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。（40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだⅢ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアを行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第２回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第３回：機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響について理解する。 第４回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第５回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第６回：排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第７回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について理解する。 第８回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第９回：休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 10 回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 11 回：機能の低下・障害が及ぼす休息・睡眠への影響について理解する。 第12回:生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 13 回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだについて理解する。 第 14 回：人生の最終段階のケアについて事例をもとに理解する。 第 15 回：人生の最終段階のケアにおける医療職との連携について理解する。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座11巻「こころとからだのしくみ」中央法規出版
参考図書	必要時、理解しやすい「解剖生理学」等の書籍を適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3回、5回、7回、9回、11回、13回）の確認小テストの準備をする。（40分） 事後学修：毎回の授業後にWeb Class内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。（40分）
オープンエデュケーションの活用	. なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅴ
科目責任者	佐野仁美
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している
科目概要	「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるため、保健医療福祉職としての事故防止・安全対策・リスクマネジメントをはじめとした、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習をする。 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、自立とはなにか、自立を促すことの危険性を防護するために何をするべきかを考えます。介護における安全の確保とリスクマネジメントについて利用者側とサービス提供側双方の立場から考え、介護従事者の安全も含めた具体的な事例検討を中心にして学ぶ。
到達目標	1. 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識・理論や技能を体系的に理解する。 2. 対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明することができる。 3. 介護職と利用者の介護における安全の確保するための留意点を理解する。 4. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について学ぶ。 5. 施設及び在宅介護に伴う事故について知識を深め、その予防方法と対処法を学ぶ。 6. 利用者の事故防止・安全対策・感染対策、介護従事者の安全についても考えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：自立に向けた介護①　介護における安全の確保 第 2 回：自立に向けた介護①　介護現場におけるリスクマネジメント（セーフティマネジメント） 第 3 回：自立に向けた介護①　観察の視点・正確な生活支援技術 第 4 回：介護従事者の安全①　介護事故とヒヤリハット（予測・分析） 第 5 回：介護従事者の安全①　事故防止と安全対策 第 6 回：介護従事者の安全①　環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント） 第 7 回：自立に向けた介護②　服薬・生活医行為・受診援助 第 8 回：自立に向けた介護②　医療職とのアプローチ＜転倒・転落防止・骨折予防＞ 第 9 回：介護従事者の安全②　防火・防災対策・地域とのネットワーク（緊急連絡システム） 第 10 回：介護従事者の安全②　感染予防の意義と実際介護 第 11 回：自立に向けた介護③　感染予防の基礎知識と技術 第 12 回：自立に向けた介護③　衛生管理・利用者の生活の安全＜鍵の閉め忘れ・消費者被害＞ 第 13 回：介護従事者の安全③　介護従事者の健康管理①腰痛予防と対策 第 14 回：介護従事者の安全③　介護従事者の健康管理②感染予防と対策＜感染管理＞ 第 15 回：介護従事者の安全③　リスクマネジメント（セーフティマネジメント）

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%、計100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15回） 目安時間40分／回
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本VI
科目責任者	植田　裕太朗
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方と、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解し、生活の観点からとらえるための学習とする。介護福祉士が行う様々な生活支援の意義と役割について理解するとともに、介護福祉士の倫理を理解し、専門職者として意識を高める。 1. 社会福祉士及び介護福祉士法の役割と介護福祉士の倫理（職業倫理）について学習する。 2. 利用者の人権と介護について身体拘束や虐待など多方面から学ぶ。 3. プライバシーの保護の意義と介護職の役割を学習する。
到達目標	介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持や倫理的思考で捉えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　ガイダンス及び介護の基本VIの学習内容の説明と進め方「介護福祉士の職業倫理とは」 第２回　介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 第３回　どのようにしたら利用者の人権が護れるか・・グループワーク 第４回　介護実践における介護福祉士の倫理　日本介護福祉士会倫理綱領 第５回　介護実践における介護福祉士の倫理　介護福祉士の職業倫理 第６回　介護実践における介護福祉士の倫理　プライバシー保護 第７回　介護実践における介護福祉士の倫理　個人情報保護、その他 第８回　介護実践における介護福祉士の倫理　介護職が行う生活の継続性の支援を振り返り 尊厳・人権がどのように護られていたか・・・グループワーク 第９回　身体拘束禁止について・・講義 第 10 回　身体拘束禁止・・・事例からグループワーク 第 11 回　高齢者虐待・児童虐待について・・講義 第 12 回　高齢者虐待・児童虐待について・・１事例からグループワーク 第 13 回　高齢者虐待の事例から　グループで発表 第 14 回　児童虐待　の事例から　グループで発表 第 15 回　まとめ・解説

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	授業態度20%　レポート20%　　定期試験60%によって評価する。
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座4　『介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修 ・シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) ・授業前に提示した事前課題を行うこと(8～10回目) 事後学習 ・授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分) ・授業後に提示した小テストを行うこと(11回目)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校所属の植田裕太朗研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅳ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（60 時間）　選択　介護　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。 さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。
到達目標	1. 利用者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。 2. 利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の留意点について、説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回と第 2 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、知的障害のある人の生活の理解 第 3 回と第 4 回：知的障害のある人への介護過程の展開 第 5 回と第 6 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、精神障害のある人の生活の理解 第 7 回と第 8 回：精神障害のある人の生活支援、精神障害のある人への介護過程の展開 第 9 回と第 10 回：障害・視覚障害のいろいろ、特性と視覚障害リハビリテーションについての理解 第 11 回と第 12 回：視覚障害者に関する諸制度と生活の質を向上させる福祉機器を知る 第 13 回と第 14 回：視覚障害者の生活・就労の支援についての理解 第 15 回と第 16 回：視覚障害者の介助・ガイドの必要性と技術の理解 第 17 回と第 18 回：視覚障害者の介助・ガイドの留意点 第 19 回～第 21 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、高次脳機能障害のある人の生活の理解 高次脳機能障害のある人への介護過程の展開 第 22 回と第 23 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、発達障害のある人の生活の理解 発達障害のある人の生活支援と環境整備、発達障害のある人への介護過程の展開 第 24 回と第 25 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 重症心身障害のある人の生活の理解、重症心身障害のある人への介護過程の展開 第 26 回と第 27 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 重複障害（盲ろう）のある人の生活の理解、介護過程の展開 第 28 回と第 29 回：感覚機能・運動機能が低下している人の介助の留意点 （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護） 第 30 回：認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。

評価方法	筆記試験 60%、課題提出物（レポート、リアクションペーパー）20%、小テスト 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 8　生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座 14　障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅴ
科目責任者	富安　奈穂美
単位数他	２単位（60 時間）　選択　介護　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。 さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について学ぶ。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。 2. 利用者の状態・状況に応じて生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用の留意点について、説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回と第 2 回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、内部障害に応じた介護の理解 第 3 回と第 4 回：心臓機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 5 回と第 6 回：心臓機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 7 回と第 8 回：呼吸器機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 9 回と第 10 回：呼吸器機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 11 回と第 12 回：腎臓機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 13 回と第 14 回：腎臓機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 15 回と第 16 回：膀胱・直腸、小腸機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 17 回と第 18 回：膀胱・直腸、小腸機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 19 回と第 21 回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 22 回と第 23 回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 24 回と第 25 回：肝臓機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備 第 26 回と第 27 回：肝臓機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携 第 28 回と第 29 回：内部障害のある方への生活支援についてグループワーク （自生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用） 第 30 回　　：内部障害のある方への生活支援についてのまとめ（生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用）

アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	筆記試験80%、授業態度20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座14　障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅴ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP１　専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 本科目では、利用者の個別性を理解し、人生に寄り添った生活支援を行う介護福祉士だから知ることができる「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士の仕事の魅力」などを、介護過程の実践的展開を通して学ぶ。
到達目標	1. 人の暮らしは、さまざまな要因が複雑に絡み合って成り立っていることを理解する。 2. 介護福祉士としての感性を磨き、人とのかかわりの重要性を理解する。 3. 介護過程の実践的展開を通して、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解し介護観を言語化できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス　介護過程の復習 第 2 回：介護福祉士の仕事の魅力 第 3 回：介護過程の展開の理解－事例検討１　（精神障害：統合失調症） 第 4 回：介護過程の展開の理解－事例検討１　（GW：疾患の理解） 第 5 回：介護過程の展開の理解－事例検討２　（GW：ロールプレイ準備） 第 6 回：介護過程の展開の理解－事例検討２　（グループワーク） 第 7 回：介護過程の展開の理解－事例検討３　（資料の準備） 第 8 回：介護過程の展開の理解－事例検討３　（発表会） 第 9 回：介護過程の展開の理解－事例検討４　（若年型認知症）（失語症） 第 10 回：介護過程の展開の理解－事例検討４　（GW：疾患の理解） 第 11 回：介護過程の展開の理解－事例検討５　（失語症） 第 12 回：介護過程の展開の理解－事例検討５　（グループワーク） 第 13 回：介護過程の展開の理解－事例検討６　（資料の準備） 第 14 回：介護過程の展開の理解－事例検討６　（発表会） 第 15 回：介護観をまとめる

アクティブラーニング	事例検討ではグループワークを行うので、グループ内のディスカッションに積極的に参加すること。
授業内のICT活用	
評価方法	レポート50%、課題提出物50% レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規
参考図書	矢原隆行「よくわかる介護福祉研究入門」保育社 公益社団法人日本介護福祉士会「介護福祉士がすすめる多職種連携」
事前・事後学修	【事前学習】シラバスに示した指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後学習】授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 （yukari-n@seirei.ac.jp）
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。
到達目標	1.　喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 2.　喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 第 1 回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引 第 2 回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第 3 回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）、急変状態、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変･事故発生時の対応と事前対策 第 4 回：喀痰吸引器で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持 第 5 回：吸引の技術と留意点 第 6 回：痰の吸引に伴うケア 第 7 回：報告及び記録 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 第 8 回：経管栄養法とは 第 9 回：注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点 第 10 回：急変・事故発生時の対応と事前対策 第 11 回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第 12 回：経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 第 13 回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 第 14 回：経管栄養の技術と留意点 第 15 回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは Web Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度 20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20%　　定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Class にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回（3 回、5 回、7 回、9 回、11 回、13 回）の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修：毎回授業後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	医療的ケアⅢ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）について講義を行ったうえで、シミュレーターを用いた演習を行い、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するための知識・技術を修得する。
到達目標	１．喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）を身につける。 ２．経管栄養（基礎的知識・実施手順）を身につける。 ３．救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員＞秋山恵美子、高山暢子 第１回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（喀痰吸引に必要な人体の構造と機能） 第２回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第３回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（口腔内および鼻腔内） 第４回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（気管カニューレ内部） 第５回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第６回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第７回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第８回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経管栄養に必要な人体の構造と機能） 第９回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第 10 回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（胃瘻および腸瘻による経管栄養） 第 11 回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経鼻経管栄養） 第 12 回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第 13 回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第 14 回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第 15 回：医療的ケア実施の基礎「救急蘇生法」 救急蘇生法シミュレーターを用いて演習

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは Web Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内の ICT 活用	Web Class で、該当 DVD を視聴
評価方法	授業態度 10%　・課題提出物 10%　　評価実技試験 80% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	WebClass にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	介護職員のための医療的ケア/ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	事前学修：毎回演習授業の単元テキストの手順を熟読し、課題をまとめる。(40 分) Web Class の演習 DVD を 3 回以上視聴する。 事後学修：毎回の演習後に Web Class 内のミニッツペーパーに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉管理論
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	本科目は、介護福祉士として福祉サービス提供組織の運営管理を行う上で、介護の質を高めるために必要となるチームマネジメントの基礎的知識について、実際に高齢者福祉施設における福祉サービスの第三者評価を実施することなどを通して、リアリティーをもって理解する科目である。介護福祉施設における福祉サービス第三者評価の実施プロセスを通して介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し、チームで働くための能力の修得を図ることを目的としている。
到達目標	・福祉サービスの制度および福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに関する基礎的知識を修得する。 ・適切なサービスマネジメントを行う上で必要となる介護サービス提供チームのマネジメントに必要な知識・技術やシステムについて理解できる。 ・介護福祉サービス事業を行う組織における運営管理の実態について把握するとともに介護福祉サービスの管理運営について実体験をもとに説明できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 1 回　オリエンテーション、介護保険サービスに関する制度の理解 2 回　介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の概要、介護の質を高めるために必要な、チームマネジメント 3 回　介護老人福祉施設の経営（理念・事業計画・人事・労務管理） 4 回　介護老人福祉施設の経営（財務・会計・経理） 5 回　介護老人福祉施設の経営を取り巻く環境（ICT を含む福祉工学の活用） 6 回　福祉サービス第三者評価基準（サービスマネジメント部分）について 7 回　福祉サービス第三者評価基準（具体的サービス内容）について 8 回　介護老人福祉施設における第三者評価実施 9 回　介護老人福祉施設における第三者評価実施 10 回　介護老人福祉施設における第三者評価実施 11 回　介護老人福祉施設における第三者評価実施 ※8-11 回は、実際に介護老人福祉施設において模擬的に第三者評価（模擬）を実施する 12 回　第三者評価結果に関する検討　　※事前に調査後のまとめ（文書化）をしてくる。 13 回　第三者評価結果に関する報告書作成 14 回　第三者評価結果に関する施設へのフィードバック 15 回　まとめ　ーチームで働くために必要となる能力とは

アクティブラーニング	産学協同による授業であり、授業として特別養護老人ホームに出向きサービスの第三者評価を実施する。評価結果を施設にフィードバックし共に改善点を探る。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	授業への取り組み状況（中間課題含む）40%、調査･報告の内容30%、定期試験（レポート）30%
課題に対するフィードバック	中間課題やリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営』中央法規
参考図書	・『福ナビへＧＯ！－第三者評価を活用しよう』　環境新聞社2014 ・「静岡県福祉サービス第三者評価基準」（静岡県） ・授業中に随時配布
事前・事後学修	【事前・事後学修】①第1回～第4回では、対象施設の経営内容等に関する情報を「福祉サービス第三者評価」、「介護サービスの情報公表制度」等により調べてまとめて頂きます。②第5回～第6回では、第三者評価基準を把握してきて頂きます。③第7回（調査前）に施設の自己評価の読み込みをして頂きます。第8回～11回では、調査後のまとめをして頂きます。第13回では、調査後の評価に関する合議結果をレポートにまとめて頂きます。（各40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間には、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実践演習
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　　こども　　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育者の資質として①使命感（倫理）や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やマネージメント、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を考案する。
到達目標	1. 保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2. 保育職の意義や役割を確認する。 3. クラス運営について理解する。 4. 保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員＞太田雅子　鈴木光男　細田直哉 第 1 回：保育実践演習とは？ 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする―保育者としての資質の確認 第 2 回：保育職の意義・保育者の役割　②　保育士（保育教諭） 園長等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う 第 3 回：クラスマネージメント（学級経営）、タイムマネージメントについて① 新人職員としての課題―卒業生等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う 第 4 回：　クラスマネージメント、タイムマネージメントについて② 理解したこと、実行したいことをグループごとにまとめて発表する 第 5 回：コミュニケーション能力①―保護者・保育者間の関係作り 第 6 回：コミュニケーション能力②―関係作りのためのワーク 第 7 回：子育て支援―親子プログラムの実践① 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助　（準備） 第 8 回：子育て支援―親子プログラムの実践② 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助　（実践） 第 9 回：子育て支援―親子プログラムの実践③ 親子の関わりを促す遊び・活動の計画と実践 第 10 回：保育者としての表現力①（計画） 第 11 回：保育者としての表現力②（実践） 第 12 回：保育における構想力と実践力①（計画） 第 13 回：保育における構想力と実践力②（実践） 第 14 回：グローバル時代の保育者のあり方 第 15 回：―まとめ　保育者になることへの期待と希望

アクティブラーニング	学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度（グループ課題の発表）50%　　レポート50%　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15回終わったところで、全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。
指定図書	その都度プリントを配布する。
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い保育・子育て支援の実践準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教職実践演習（幼・小）
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	授業は大きく２つに分けることができる。 第１は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。 第２は、教育委員会や教育現場、関連機関（社会福祉施設等）における演習である。教育に対する使命感、 責任感についての認識を深めるとともに、 子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。
到達目標	大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。 教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の４項目について確認する。 ① 教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること ② 社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること ③ 幼児・児童理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること ④ 領域・教科等の指導力の基礎を形成していること
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　太田雅子、鈴木光男、福重浩之、細田直哉 第１回　グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表 第２回　研究授業の紹介と意見交換（授業における技の実際） 第３回　実習で経験したコミュニケーションの技術 第４回　演習「板書指導のコツ」 第５回　講義「ニューカマーの教育や英語イマージョン教育など教育の国際化」 第６回　講義（浜松市教育委員会）「教師の仕事と心得」 第７回　講義（浜松市校長会・園長会）「幼稚園と小学校の教育」 第８回　浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事前研修） 第９回　浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（参観） 第 10 回　浜松市・磐田市公立小学校の授業や幼稚園の保育の参観（事後研修） 第 11 回　講義と演習「教科指導の実際」「指導案の作成」 第 12 回　模擬授業と研究協議（国語、算数、英語） 第 13 回　模擬授業と研究協議（理科、社会、総合的な学習の時間） 第 14 回　模擬授業と研究協議（道徳、特別活動） 第 15 回　まとめ･振り返り 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究
授業内のICT活用	なし
評価方法	学習への積極性・参加態度など：20% 指導案・単元構想などの課題：30% コミュニケーション技術、授業技術の分析：20% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業ごとに資料配布
参考図書	参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育制度論
科目責任者	成松　美枝
単位数他	２単位(30 時間)　選択　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	教育制度とは、教育の目的を達成するために社会的に公認されたしくみ、「公教育」の組織である。 本講義では、公教育制度の原理とその歴史について理解を深めるとともに、それらが教育現場においてどのように運用されているのか理解する。その上で、教育制度を運営する教育行政の機関としての「教育委員会制度」の理念とそのしくみを理解する。幼稚園教諭をめざす学生として、基本的な教育制度の知識を習得することを目的としている。
到達目標	1　現代社会の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているか説明できるようにする。 2　教育制度を運営する教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みと学校経営について理解を深め、説明できるようにする。 3　今日の公教育制度の問題点と教育制度改革について理解し、説明できるようにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：授業のガイダンス：公教育・私教育とは何か? 第２回：　公教育の制度的原理 第３回：教育制度の類型:アーティキュレーションとインテグレーション 第４回　　日本の教育制度の歴史:近代 第５回　　日本の教育制度の歴史:現代 第６回　　教育行政の組織と活動：国と地方の役割 第７回　　教育行政の組織と活動１：国の教育組織・文部科学省 第８回　　教育行政の組織と活動２：教育委員会の原理 第９回　　教育行政の組織と活動３：教育委員会 の仕組み 第 10 回　教員に関する制度と教育行政：職務・身分・任用 1 第 11 回　地方の教育制度改革:学校選択と学校参加・コミュニティースクール 第 12 回　保育行政:幼児教育制度の歴史 第 13 回 子ども・子育て支援新制度について:調査レポート作成:　資料収集 第 14 回 子ども・子育て支援新制度について:調査レポート作成・資料分析 第 15 回 子ども・子育て支援新制度:調査内容の評価
アクティブラーニング	リサーチプロジェクト、グループディスカッション、キーワード・レポート
授業内の ICT 活用	リサーチレポートを ipad による資料検索を行って、作成します。
評価方法	授業内評価点（６0%　小テスト・提出レポート 50% ＋授業態度　10%）＋　最終テスト（４0%） ・毎回の授業の最後には、小テストを実施して評価します。 ・論述式のテストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・テストの解答例の提示、テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント

指定図書	・授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	・河野和清、『教育行政学』、ミネルヴァ書房、2006 年、 ・牛渡 淳編著『改訂版　初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論』、金港堂、2014 年。
事前・ 事後学修	・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して次の授業に臨んでください。（2 回～15 回目） ・提出課題の修正を次回までにしっかりやってきて下さい。（2～15 回目） ・毎回の事後学修の目安時間は 40 分です。
オープンエデュケーションの活用	・文部科学省 HP　https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm ・浜松市教育委員会 HP　・内閣府子ども子育て新制度 HP
オフィスアワー	・質問等はいつでもいらしてください。 ・相談でしたら、火曜日２限目 1711 研究室　E-mail: mie-n@seirei.ac.jp　で予約をしてください。
実務経験に関する記述	・中学校・高等学校教諭、浜松市公立学校の学校運営協議会委員などを経験しています。

科目名	教育課程論
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、学校教育（小学校・幼稚園）で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本的原理と方法（手法）、学習指導要領・幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。児童・幼児の発達や学習との関連から系統的に構築された教育計画の実際を学ぶ。 さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて指導計画案作成し実践する。
到達目標	1.　学校教育（小学校・幼稚園）において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2.　教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3.　教科・領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：現行の学習指導要領下の学校（幼稚園）教育の社会的状況と検討課題 第 2 回：教育課程の意義と役割及び機能 第 3 回：教育課程の編成の原理とガイドライン（学習指導要領）の内容との関係性 第 4 回：学習指導要領の改訂の変遷・性格と基本構造 第 5 回：幼稚園教育要領の改訂の変遷・性格と基本構造（全体的な計画） 第 6 回：教育課程の比較：欧米、オセアニア 第 7 回：教育課程の運用：カリキュラム・マネジメントの意義と重要性 第 8 回：長期的指導計画の作成（小学校） 第 9 回：短期的指導計画の作成（小学校）（教科横断的学習を意識して） 第 10 回：長期的指導計画の作成（幼稚園） 第 11 回：短期的指導計画の作成（幼稚園）　（総合的な学びを意識して） 第 12 回：学習指導案の作成と教育評価（小学校－スタートカリキュラムを意識して） 第 13 回：保育指導案の作成と教育評価（幼稚園－アプローチカリキュラムを意識して） 第 14 回：模擬授業の実施と評価（小学校） 第 15 回：模擬保育の実施と教育評価（幼稚園） 定期試験

アクティブラーニング	保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度20%、課題提出物の評価　40%、小テスト40% 評価は演習・課題提出物・小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバック や解説を行う。まとめ（授業の振り返り）を行う。
指定図書	教師教育テキストシリーズ『教育課程』第二版　山崎準二編、学文社、2018年 「小学校学習指導要領解説・総則編」「幼稚園教育要領解説」
参考図書	『カリキュラム・マネジメント入門　「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション』田村学(編)　東洋館出版社
事前・ 事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動（遊び）や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間40分】
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業にて提示する。
実務経験に関する記述	

科目名	道徳理論と指導法
科目責任者	内崎　哲郎
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基盤となる価値、道徳性の概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらに、それを踏まえ、道徳教育の要としての道徳の時間の目標や特質、小学校における授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを主目的とする。
到達目標	①道徳とは何か、その今日的意義と重要性について理解できる。 ②小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容について理解できる。 ③道徳教育の全体指導計画の意義を理解し、教育活動全体を通しての指導の必要性について説明できる。 ④道徳の時間の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　内崎哲郎、仲義之 第１回：子どもの心の成長と道徳教育の意義　内崎哲郎 第２回：学習指導要領総則に示された道徳教育の目標　内崎哲郎 第３回：道徳教育の内容と道徳の時間の意義　内崎哲郎 第４回：明治から現代までの道徳教育の変遷　内崎哲郎 第５回：海外の道徳教育から我が国の特色を考える　内崎哲郎 第６回：宗教的情操を育む道徳教育（聖書による授業）　仲　義之 第７回：命の尊厳を育む道徳教育（聖書による授業）　仲　義之 第８回：道徳教育の計画と多様な道徳資料　内崎哲郎 第９回：道徳の時間における授業の在り方　内崎哲郎 第１０回：小学校道徳学習指導案の作成　内崎哲郎 第１１回：道徳の時間における指導方法・指導技術　内崎哲郎 第１２回：道徳授業の実際の様子（映像）に学ぶ　内崎哲郎 第１３回：学習指導案を生かした指導の実際　内崎哲郎 第１４回：道徳の時間と学級経営・生徒指導　内崎哲郎 第１５回：道徳教育の評価とまとめ　内崎哲郎 定期試験

アクティブラーニング	・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業 ・講義担当者が教師役になり、学生が子ども役になっての模擬授業 ・役割演技の実演 ・グループによる指導案作成作業 ・作成した指導案のプレゼンテーション
授業内のICT活用	グループディスカッションや個人検討でまとめたもののプレゼンテーションをプロジェクターや教材提示装置を活用して行います。
評価方法	試験（授業に関する記述式試験）40%、学習指導案作成及びレポートなどの取組45%、 授業や課題への取組状況15% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・小レポートを書かせて、授業中あるいは次回の授業の中で返答したり、解説・コメントしたりする。 ・事前にテキストの読んでくる箇所を指示して、次回の授業の中で、解説しながら講義する。 ・試験（道徳教育の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く） ・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を述べているかコメントを書く）
指定図書	・「小学校学習指導要領」 ・「小学校学習指導要領解説・道徳編」
参考図書	・「小学校学習指導要領　ポイント総整理　特別の教科　道徳」 永田繁雄　（東洋館出版社） ・「自ら学ぶ『道徳教育』」　押谷由夫　（保育出版社）
事前・事後学修	・事前学修では、次時に向けた課題意識の継続化と、課題解決に向けての見通しを持たせるために、前回の講義で出されたテーマについて、自分自身の言葉で考え方をまとめる。 ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、批判的な考察を述べる。（目安時間40分） ・レポート「道徳はなぜ教科化されたのか」（40分） ・レポート「道徳の時間の年間指導計画の作成」（40分） ・道徳の時間の学習指導案の作成（80分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	特別活動と総合的な学習の時間について教育課程上の位置づけと役割を理論的に検討する。そのうえで、教員の現代的な役割を確認したうえで、指導法の観点から特別活動と総合的な学習の時間の実践事例を検討する。
到達目標	・現代学校の教育課程の基本理解をふまえ、特別活動と総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけと役割について捉えることができる。 ・教員の現代的な役割を理解したうえで、特別活動と総合的な学習の時間について教育実践の観点から具体的事例をもとに、指導法に関する知識と技法について理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　鈴木光男　飯田真也　梅澤収 第１回：イントロダクション　本授業の概要・進め方・評価について、学習指導や参考書　梅澤収 第２回：特別活動と総合的な学習の時間の体験①（ワークシート）　鈴木光男 第３回：特別活動と総合的な学習の時間の体験②：グループ討論　鈴木光男 第４回：現代学校の教育課程と学習指導要領①：小学校編　梅澤収 第５回：現代学校の教育課程と学習指導要領②：中・高編　梅澤収 第６回：特別活動の内容①：学級活動　梅澤収 第７回：特別活動の内容②：児童会（生徒会）、クラブ活動、学校行事　梅澤収 第８回：特別活動の実践①：事例を検討する　梅澤収 第９回：特別活動の実践②：事例と体験から実践を構想する（ワークシート）　梅澤収 第 10 回：グループワークⅠ　上記構想案の発表　梅澤収 第 11 回：総合的な学習の時間のカリキュラムデザイン　鈴木光男 第 12 回：総合的な学習の時間の実践①：事例を検討する　飯田真也 第 13 回：総合的な学習の時間の実践②：事例と体験から実践を構想する（ワークシート）　飯田真也 第 14 回：グループワークⅡ　上記構想案の発表　飯田真也 第 15 回：授業全体の総括～ESD の視点の重要性～　梅澤収 定期試験

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・グループワーク
授業内のICT活用	–
評価方法	授業の到達目標と授業への参加・取組状況を次の３つの観点をもとに総合的に評価する。 ①基礎的な知識・技能（70%） ②課題設定、検討・議論、表現・発表等のコンピテンシー（15%） ③学習意欲・態度（15%）
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	テキスト　第1回授業で提示する
参考図書	小学校学習指導要領。その他は第1回授業で提示する
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育方法・技術論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びのプロセスや具体的方法（授業・保育の展開）を理解する。子どもの思考力・表現力を促すための方法や教材・ICT 活用等の方法・能力を身につける。さらに個々が指導計画案を作成し、実践と振り返り、課題の明確化を行い次に繋げられるようにする。
到達目標	１．これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 ２．教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 ３．情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　太田雅子、成松美枝、津森伸一 第 1 回：これからの時代にふさわしい教育・育成すべき資質・能力とは　太田 第 2 回：教師に求められる指導力とは―アクティブ・ラーニングの視点からの学習のあり方　成松 第 3 回：授業・保育を設計（デザイン）し、運営（マネジメント）する力　太田・成松 第 4 回：学びの環境や人材など整えるべき条件・学びのゴールと手段　太田・成松 第 5 回：学びに対する評価・記録とその活用（PDCA）　太田・成松 第 6 回：学習問題（課題）と思考①：板書による提示　成松 第 7 回：学習問題（課題）と思考②：教師の「問い」と子どもの反応の受け止め　太田・成松 第 8 回：学習の形態、保育の形態　太田・成松 第 9 回：探求型学習・問題解決学習の実践に向けての方法①「生活科」指導計画と展開例　成松 第 10 回：探求型学習・問題解決学習の実践に向けての方法②　遊びを通しての総合的指導　太田 指導計画と展開例 第 11 回：教材研究と教材の活用の実際　太田 第 12 回：情報教育メディアの活用と技術（基本）　津森 第 13 回：情報教育メディアの活用と技術（実践）　津森 第 14 回：アクティブ・ラーニングをプランと実践（模擬授業・保育）　太田・成松 第 15 回：　模擬授業・模擬保育の振り返り　　総括と小テスト　太田・成松 定期試験は実施しない。

アクティブラーニング	指導計画を立てて、教材等を作成し、模擬授業・模擬保育を展開する。
授業内のICT活用	–
評価方法	授業への取り組み：20％　　小テスト：50％　　課題提出物　：30％
課題に対するフィードバック	指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。
指定図書	「小学校指導要領解説―総則篇」「幼稚園教育要領解説」
参考図書	参考書・参考資料等 『授業の見方―主体的・対話的で深い学びの授業改善』　澤井陽介　東洋館 『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成～3.4.5歳児の主体的・対話的で深い学び』 全国幼児教育研究協会・岡上直子（編）　ひかりのくに
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い模擬授業等、実践準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業の初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園・中学校教諭・高校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生徒・進路指導論
科目責任者	内崎　哲郎
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学校は子どもを育てる場であるが、正確には、子どもが自ら育つように働きかける場である。そのために欠かせないことが生徒指導と進路指導であり、両指導も教育課程の内外を通して行うものである。本授業では、いじめや不登校等の課題を切り口にしながらも、すべての子どもが「学校が楽しい」と実感でき、かつ、子どもらの主体性や自己有用感を育むために必要な働きかけについて各自が考えていくことで、学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義を理解することを主目的とする。
到達目標	①学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義について理解できる。 ②子どもの主体性と自己有用感を育むために必要な視点を理解できる。 ③生徒指導と進路指導の視点を入れた「学級経営案」（年間指導計画）を作成できる。 ④生徒指導と進路指導はほかの教職員や家庭・地域等と連携をして行うことで効果が上がることを理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：生徒指導・進路指導とは何か 第２回：いじめの問題を考える 第３回：進路指導とキャリア教育の違い 第４回：生徒指導・進路指導から考える授業づくり①（規律面） 第５回：生徒指導・進路指導から考える授業づくり②（学習意欲面） 第６回：生徒指導・進路指導から考える学級づくり①（子どもの居場所と絆） 第７回：生徒指導・進路指導から考える学級づくり②（環境等） 第８回：生徒指導・進路指導と特別活動（学校行事・児童会活動） 第９回：生徒指導・進路指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係 第１０回：生徒指導・進路指導の計画と点検（評価）・改善 第１１回：個別の課題を抱える児童への指導①（未然防止と早期発見） 第１２回：個別の課題を抱える児童への指導②（指導方法） 第１３回：家庭・地域と連携して取り組む生徒指導・進路指導 第１４回：教職員全員で取り組む生徒指導・進路指導 第１５回：1 回目から 14 回目までの総復習 定期試験

アクティブラーニング	・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業
授業内のICT活用	グループディスカッションや個人検討でまとめたもののプレゼンテーションをプロジェクターや教材提示装置を活用して行います。
評価方法	試験（授業に関する記述式試験）40%、レポートと授業における取組（毎時間の事例検討と授業の振り返り）45%、課題等の取組（年間指導計画の作成）15% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	・小レポートを書かせて、授業中あるいは次回の授業の中で解説・コメントする。 ・試験（生徒指導・進路指導の意義や目標、その指導内容や方法等について理解できているかコメントを書く。） ・小レポート【リアクションペーパー】（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を述べているかコメントを書く。） ・授業の終わりに、テーマを与え、その内容について次回の授業の中で、解説しながら講義する。
指定図書	・「生徒指導提要」　（教育図書） ・「小学校学習指導要領」
参考図書	・「研修でつかえる生徒指導事例５０」　藤平敦　（学事出版） ・「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」　（文部科学省） ・「生徒リーフ」　（国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター）
事前・事後学修	・事前学修では、次時に向けた課題意識の継続化と、課題解決に向けての見通しを持たせるために、前回の講義で出されたテーマについて、自分自身の言葉で考え方をまとめる。 ・事後学修では、講義内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、批判的な考察を述べる。（目安時間40分） ・前回の講義で出されるテーマについてレポートを作成する。（1～14回目） ・レポート「学級経営案の作成」（40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は小学校教員の実務経験を有する講師が実務の視点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育相談
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	教育相談を推進するための組織・運営の在り方、実態の把握の仕方、助言や支援の方法について学ぶ。
到達目標	幼児・児童教育を児童福祉や社会福祉といった広い視点でとらえ、子育て家庭を支援する力や、障害児など特別な支援を必要とする子どもに対する対応等を学び、子育て支援活動をトータルに把握し、マネジメントする能力を養い、現場におけるリーダーとして不可欠な力量を身に付ける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション・幼児・児童理解と教育相談 第 2 回：教育相談で出会う子どもたちの実態と理解 第 3 回：教育相談担当者の役割と資質 第 4 回：子どもの観察と実態把握からの幼児理解 第 5 回：子ども・保護者との信頼関係づくり 第 6 回：幼児・児童理解と教育相談の基礎知識 第 7 回：教育相談のための事例と支援方法（1）　カウンセリングの原理 第 8 回：教育相談のための事例と支援方法（2）　カウンセリングの基本的進め方 第 9 回：教育相談のための事例と支援方法（3）　カウンセリングの基本的技法 第 10 回：教育相談のための事例と支援方法（4）　カウンセリング・マインドとは 第 11 回：教育相談のための事例と支援方法（5）カウンセリング・マインドを活かした、 登園拒否やいじめなどの相談と支援 第 12 回：発達障害の相談と支援（1）概念と診断 第 13 回：発達障害の相談と支援（2）生活と医療 第 14 回：教育相談関係機関とその利用 第 15 回：まとめ 定期試験

アクティブラーニング	グループ学習による実際の事例等を用いた家庭への支援についての演習を取り入れて行う。
授業内のICT活用	–
評価方法	筆記試験（70%）、課題提出物（30%）、計100% （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	『保育臨床相談』小田 豊、菅野信夫、中橋美穂編、北大路書房 『子育て・保育カウンセリングワークブック』清水勇、阿部裕子、学事出版
参考図書	参考書については、授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	社会福祉学部、2610研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は子ども家庭福祉領域における「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育実習指導
科目責任者	鈴木光男
単位数他	１単位（45 時間）　選択　こども　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校インターンシップⅠⅡⅢの経験を踏まえ、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬授業など、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	１．幼稚園実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 ２．実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 ３．実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ １．事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 （1）教育実習の意義・目的・内容の理解 （2）教育実習の方法の理解 （3）教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 （4）教育実習課題の明確化 （5）研究授業の準備、指導 （6）実習記録の意義・方法の理解 （7）実習施設の理解 ２．実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。

アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内のICT活用	–
評価方法	課題（20%）、授業への取り組み（20%）、レポート（20%）、 実習報告会（20%）、模擬授業の教材研究・指導案（20%）　計100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。
指定図書	小学校学習指導要領
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する（60分）。 【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す（60分）。
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教育実習（幼・小）
科目責任者	鈴木光男
単位数他	４単位（180 時間）　選択　こども　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と教育・保育の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	小学校インターンシップⅠⅡⅢで実習した小学校で､4 週間の実習を行う｡実習の主な内容は､①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導（授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語（外国語活動）などはその中から 1～2 時間程度は担当する)、④全日指導。小学校インターンシップⅠⅡⅢから連続するため、本科目では③④が中心となる。
到達目標	1. 小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 児童の実態に即した授業の学習指導案（略案・細案）を立て、実践・評価できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 教育実習の主な内容（段階）は、①見学・観察、②教育参加・補助、③学習指導、④全日指導を体験する。この実習では小学校における教育の実際を体験することにより、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。

アクティブラーニング	実習科目である。
授業内のICT活用	–
評価方法	実習校からの評価（40%）、実習日誌・指導案等（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。
指定図書	小学校学習指導要領
参考図書	特になし
事前・事後学修	【事前学修】 各学年の子供の発達の理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、学習指導案は児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に関する目標や学習過程のみの略案（60分）。 【事後学修】 実習終了後は、小学校教諭の仕事・授業の進め方や児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする（60分）。
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	理科指導法
科目責任者	飯田真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	理科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、理科の授業を担当するための指導力を身につける。
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 理科教育の現状 第 2 回： 目標・全体構造の理解 第 3 回： 理科教育の実践例 第 4 回： 「生命領域」の学習指導法 第 5 回： 「物質領域」の学習指導法 第 6 回： 「エネルギー領域」の学習指導法 第 7 回： 「地球領域」の学習指導法 第 8 回： ICT や教材の効果的な活用方法 第 9 回： 学習指導案の検討・作成 第 10 回：「生命領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 11 回：「物質領域」 の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 12 回：「エネルギー領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 13 回：「地球領域」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 14 回： これからの理科教育について 第 15 回： まとめ（理解の確認） 定期試験

アクティブラーニング	現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬授業の立案と発表
授業内のICT活用	–
評価方法	小テスト３０％　定期試験７０％
課題に対するフィードバック	模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	指導案の作成と模擬授業の準備（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間１時間）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活科指導法
科目責任者	飯田真也
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	生活科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、生活科の授業を担当するための指導力を身につける。
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 生活科教育の現状 第 2 回： 目標・全体構造の理解 第 3 回： 「学校生活」の学習指導法 第 4 回： 「生活や出来事」の学習指導法 第 5 回： 「地域生活」の学習指導法 第 6 回： 「公共施設の利用」の学習指導法 第 7 回： 「飼育・栽培」の学習指導法 第 8 回： ICT や教材の効果的な活用方法 第 9 回： 学習指導案の検討・作成 第 10 回：「学校生活」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 11 回：「生活や出来事」 の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 12 回：「地域生活」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 13 回：「公共施設の利用」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 14 回：「飼育・栽培」の模擬授業（反省・改善点検討を含む） 第 15 回： まとめ（理解の確認） 定期試験

アクティブラーニング	現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬授業の立案と発表
授業内のICT活用	–
評価方法	小テスト３０％　定期試験７０％
課題に対するフィードバック	模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。
指定図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説生活編」（文部科学省）
参考図書	適宜プリント等を配布する。
事前・事後学修	指導案の作成と模擬授業の準備（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修） （目安時間１時間）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音楽科指導法
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	１）学習指導に必要な知識や指導力を身につける。 ２）学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 ３）模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 授業づくりの基礎１　学習指導要領を基に「教育内容」「教材」「評価」などを整理する。 第 2 回： 授業づくりの基礎２　学習指導要領を基に「音楽の要素」「ICT」「指導の留意点」などを 整理する。 第 3 回： 音楽遊び　音楽遊びとその展開について実践を通して理解する。 第 4 回: 弾き歌いの授業　第1～3学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。 第 5 回: 弾き歌いの授業　第4～6学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。 第 6 回： 合唱の授業　合唱教材を取り上げその指導方法について理解する 第 7 回： 合唱の授業　合唱曲を仕上げその指導方法と評価方法について理解する。 第 8 回： 器楽の授業　鍵盤ハーモニカを教材で取り上げ基本的な奏法と指導法について理解する。 第 9 回： 器楽の授業　打楽器、鍵盤楽器等用いて合奏を行いその指導法について理解する。 第 10 回： 音楽鑑賞の授業　小学校の鑑賞教材を取り上げその指導法について理解する。 第 11 回： 音楽づくりの授業　音楽づくりを経験しその指導法について理解する。 第 12 回： 学習指導案の作成　学習指導要領を基に単元計画と指導案の作成について理解する。 第 13 回： 学習指導案の作成　指導案を作成しその作成方法について理解する。 第 14 回： 模擬授業　作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を理解する。 第 15 回： 模擬授業　作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を振り返る。 定期試験

アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修する時間を設定しています。
授業内のICT活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けたICT活用による学修を展開する。 また、他国の教育法についても動画を通して学修する。
評価方法	指導案の評価30%　共通教材の弾き歌い30%　定期試験40%（レポート）
課題に対するフィードバック	指導案の作成、弾き歌いや歌唱表現について課題ごとに講評します。
指定図書	『初等科音楽教育法』（音楽之友社）『小学校学習指導要領』（文部科学省） 『歌はともだち』（教育芸術社）
参考図書	なし
事前・事後学修	指定図書を読み、音楽科の指導方法・理論、各楽曲の譜読みを事前に行っておいて下さい。事前・事後学修はそれぞれ1時間程度行って下さい。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業初回時に伝えます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	図画工作科指導法
科目責任者	鈴木光男
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を、子供の成長と表現・製作の発達といった観点から、 また“Education through Art（美術による教育）”と“Education for Art（美術の教育）”の観点や、美術教育の歴史的変遷などからとらえ直し、この教科特有の意味や価値について認識を深める。その上で、具体的な題材や授業を構想する力、子供の自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかるものとする。
到達目標	１ 美術教育の歴史的変遷と今日的な課題について理解する。 ２ 図画工作科の教育的意味や価値について理解し、題材や授業を構想し、作品を試作し指導案を作成することができるようになる。 ３ 様々な表現方法に応じた子供の表現のあり方を理解し、子供の表現活動について理解することができるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 美術教育の理念と課題 第１回：美術教育の目標／美術教育の変遷－その理念と思想－ ・図画工作科学習の課題と意義を考察・検討する。 第２回：子供の成長と表現 ・明治期の臨画教育や「○○式」と言われる描画指導など美術教育における様々な指導法の検討から新学習指導要領で求める図画工作科のあり方を検討・考察する。 第３回：図画工作科の性格と目標・評価 ／図画工作科の学習指導の基本 ・図画工作科で育む学力と自発的・主体的な学習者を育てるための教師のあり方を考察・検討する。 第４回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－① ・造形遊びについて理解し、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第５回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－② ・表したいことを絵に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第６回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－③ ・表したいことを立体に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第７回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－④ ・表したいことを工作に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 第８回：図画工作科の指導内容と指導の実際－指導計画や評価も含めて－⑤ ・美術館と連携･協力した鑑賞のあり方や対話型鑑賞・アートゲームなどの実際的な題材や ICT を活用した指導の実例を通じて、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。 授業づくり 第９回：学習指導案の作成① ・学習指導案の全体的な書式をはじめ目標や評価規準、児童観・題材観・指導観などについてそれぞれに記入するポイントを理解する。 第 10 回：学習指導案の作成② ・試作することを通して学習過程を構想し、導入の工夫や ICT の効果的な利用による意欲化の手立てを考える。 第 11 回：指導案の作成③

	・各自作成した学習指導案をもとにしてした模擬授業を構想し、その準備を進める。 第 12 回：模擬授業の公開・検討① ・各自の学習指導案をもとに模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 13 回：模擬授業の公開・検討② ・前時の学びを互いに振り返り、課題を絞って模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 14 回：模擬授業の公開・検討③ ・これまでの学びを総括するように模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。 第 15 回：まとめと振り返り ・図画工作科学習による主体的・対話的で深い学びを検討し、協議することで、本科目の総括をする。 定期試験は実施しない。
アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通した課題把握と模擬授業の教材研究・模擬授業の公開
授業内の ICT 活用	－
評価方法	（1）授業で課した課題の評価…40％ ＊試験はなく、学習指導案と試作した作品、並びに模擬授業に関する課題レポートを課す。 （2）授業態度（事前・事後学修の提出物、参加態度など）…60％ ＊毎時間の作品の制作態度や事前・事後学修をまとめたスケッチブックなども評価材料とし、総合的に判断し評価する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版
参考図書	参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」（文部科学省）
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オープンエデュケーションの活用	－
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	家庭科指導法
科目責任者	小清水 貴子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	学習指導要領等を通して，小学校家庭科の教科目標，指導内容と評価，情報機器及び教材の効果的な活用を含めた指導法について学びます。学習指導案の作成，模擬授業の実施と振り返りを通して，子どもの認識や思考等の実態を視野に入れた授業設計や授業改善の視点を身につけます。
到達目標	学習指導要領に示された小学校家庭科の教育目標や指導内容，指導方法について理解するとともに，具体的な授業場面を想定して授業設計を行う力を身につけます。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：家庭科教育における小学校家庭科の位置づけ，教科目標，指導内容と全体構造 第２回：「Ａ家族・家庭生活」の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法 第３回：「Ｂ衣食住の生活」の食生活の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法 第４回：「Ｂ衣食住の生活」の衣・住生活の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法 第５回：「Ｃ消費生活と環境」の指導内容と情報機器及び教材の効果的な活用法 第６回：布を用いた製作の実習指導における教材及び指導法の体験 第７回：布を用いた製作の実習指導における教材の効果的な活用の検討と情報機器の活用 第８回：布を用いた製作の場面指導における模擬授業の実践と振り返り，授業改善 第９回：食生活に関する実習指導における教材の作成 第１０回：食生活に関する実習指導における教材の体験と検討 第１１回：食生活に関する実習指導における教材の効果的な活用と指導法の検討 第１２回：食生活に関する実習指導における実践と振り返り 第１３回：学習指導案の作成と教材研究 第１４回：模擬授業の実施と振り返り，授業改善 第１５回：小学校家庭科の学習評価

アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，模擬授業，対話・討議を行います。
授業内のICT活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	課題レポート（６０％），毎回の授業の最後に提出する小レポート（４０％） レポートはルーブリックを用いて評価し，ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版，小学校家庭科教科書，伊藤葉子編著『授業力ＵＰ家庭科の授業』（日本標準）
参考図書	授業において適宜資料を配布します。
事前・事後学修	毎回の授業で，本時のまとめと次時の予告をします。指定図書や参考図書を用いて，自分ができなかった課題について復習するとともに，次時の事前課題に取り組んでください。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として，以下のURLの番組の視聴路進めます。 NHK for School カテイカ　https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	体育科指導法
科目責任者	和久田佳代
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	新学習指導要領に基づく体育科の目標・内容、全体構造を理解し、望ましい体育授業のあり方を探求する。 実際に学習指導案を作成し、模擬授業や場面指導を実践し、指導方法を身につける。
到達目標	小学校体育科の目標・内容を理解し、学習指導案を作成することができる。 現代社会の児童にあった体育科のあり方を考察できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション　体育について考える 第 2 回：現代の子供の体力・運動能力と健康 第 3 回：小学校体育科の目標と内容 第 4 回：体育科における主体的・対話的で深い学び 第 5 回：体育科における評価の在り方　学びと指導と一体となった評価 第 6 回：授業設計と学習指導案の作成 第 7 回：ICT の効果的な活用　運動が苦手な児童への指導の工夫・配慮 第 8 回：領域別指導法① 体つくり運動、体つくりの運動遊び 第 9 回：領域別指導法② 器械運動 第 10 回：領域別指導法③ 陸上運動 第 11 回：領域別指導法④ 水泳運動、表現運動 第 12 回：領域別指導法⑤ ボール運動 第 13 回：領域別指導法⑥ 保健 第 14 回：模擬授業　学習指導案の評価と修正 第 15 回：学習指導要領の理解（確認）と授業設計（まとめ）

アクティブラーニング	実技を多く取り入れて展開します。
授業内のICT活用	–
評価方法	指導案30%　模擬授業20%　毎回の活動と授業後のフィードバック30%　小テスト20%
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックします。
指定図書	鈴木直樹 他「子どもの未来を創造する体育の『主体的・対話的で深い学び』」創文企画
参考図書	「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 体育編」（文部科学省） 梅澤秋久「体育における学びあいの理論と実践」大修館書店
事前・事後学修	指定図書の関連する部分を予習・復習する。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	

科目名	英語指導法
科目責任者	池田　周
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの言語習得論や学びの特性、諸外国の小学校外国語教育の実際，日本の小学校への英語教育導入の背景と目的，年間指導計画と１時間の授業展開など，小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な基礎的理論を学ぶ。さらに ICT も積極的に活用しながら様々な言語活動を体験し、教材研究や模擬授業を通して実践的指導力を養成する。
到達目標	1. 児童の言語習得能力や発達段階、第一言語習得と第二言語習得の違いなどに関する理論的基盤を構築する。 2. 小学校外国語教育の意義と指導の特性を理解し、授業を展開するために必要な理論と指導技術を習得する。 3. 学習指導要領に基づく小学校外国語教育の目標と育成すべき資質・能力の理解に基づき、具体的な指導と評価の計画を立てる力を身に付ける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：　オリエンテーション 小・中・高等学校を通じた外国語教育改革、諸外国の小学校英語教育 第２回：　子どもの言語習得、第一言語習得と第二言語習得、 第３回：　小学校外国語教育導入の背景・その目的と意義・特徴、学習指導要領 第４回：　コミュニケーション能力・国際理解教育 第５回：　年間指導計画・単元の指導と評価の計画の立て方、ALT とのティームティーチング 第６回：　指導者に求められる資質・能力、評価のあり方 第７回：　小学校外国語教育の教材・教具、指導法、音声言語から文字言語へ 第８回：　教材研究　１〔歌・チャンツ〕・Classroom English 1〔授業運営〕 第９回：　教材研究　２〔トピックの選定、タスク活動・ゲーム〕・Classroom English 2〔指導〕 第１０回：　教材研究　３〔絵本・その他〕・発音指導 第１１回：　授業研究　１（Small Talk の指導、パフォーマンス評価の実施） 第１２回：　授業研究　２（ICT、デジタル教材の活用） 第１３回：　授業研究　３（文字指導、音声と文字とを関係づける指導） 第１４回：　小・中・高等学校の外国語教育の連携の意義とあり方 第１５回：　まとめ 今後の小学校英語教育の動向、カリキュラムマネジメント、国語科との連携 定期試験

アクティブラーニング	指導と評価の計画、模擬授業計画作成などにおいては、積極的にグループ学修を取り入れる。ディスカッションやディベートも行います。
授業内のICT活用	・電子黒板上でデジタル教材を活用した模擬授業を行う。
評価方法	授業参加（30%）、課題・模擬授業やプレゼンテーションへの取り組み（35%）、 定期試験（35%）などを基に、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業内外で取り組む課題については、コメントや授業中での講評の形でフィードバックを行う。
指定図書	『小学校学習指導要領』 『小学校学習指導要領解説』 『小学校外国語活動・外国語科 研修ハンドブック』 文部科学省 高学年外国語科対応教材 *We Can! 1 & 2* 文部科学省 中学年外国語活動対応教材 *Let's Try! 1 & 2* 文部科学省 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一 編著、三省堂、2017、ISBN 978-4385361383
参考図書	その他、授業の進行に合わせて適宜指示します。
事前・事後学修	「予習」：関係諸理論の資料確認。教材研究および模擬授業・プレゼンテーション準備（40分） 「復習」：授業の振返り記録〔ポートフォリオ〕（40分）
オープンエデュケーションの活用	・自主学習として文部科学省 MEXT Channel の視聴を勧めます。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	該当なし

科目名	保育内容総論
科目責任者	山内　博子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。
到達目標	・保育内容について理解し、子どもの発達との関係を理解する。 ・子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　オリエンテーション　―保育実習の振り返りを通して― 第 2 回：　子どもを取り巻く環境とこれからの保育内容 第 3 回：　保育所・幼稚園・認定子ども園の役割 第 4 回：　乳幼児期にふさわしい生活 第 5 回：　保育内容を展開するプロセス 第 6 回：　乳児（1 歳未満）の保育内容 第 7 回：　１・２歳児の保育内容 第 8 回：　３・４・５歳児の保育内容 第 9 回：　幼保小の連携と接続 第 10 回：　異年齢児の保育内容 第 11 回：　子育て支援を創造する保育内容 第 12 回：　地域に根差した保育内容の展開 第 13 回：　保育内容の変遷 第 14 回：　諸外国の保育内容 第 15 回：　これからの保育内容の課題

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスワークや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験（60%）、課題への取組（20%）、受講態度（20%）にて総合的に評価する
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う
指定図書	実践を創造する　演習・保育内容総論　〔第2版〕　豊田和子編　　みらい
参考図書	保育所保育指針ハンドブック　2017告示版 幼稚園教育要領ハンドブック　2017告示版 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領ハンドブック　2017告示版
事前・事後学修	事前学習；保育実習を踏まえ、５つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について学びます。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	障害児保育
科目責任者	松下　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP2　専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 様々な障害について理解し、こどもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健･医療･福祉･教育等の現状と課題について理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：障害児保育とは。（到達目標ー障害というものを知ること） 第 2 回：障害児保育の基本（到達目標ー障害者への対応の基礎） 第 3 回：障害の理解と保育（１）（到達目標ー知的障害の理解） 第 4 回：障害の理解と保育（２）（到達目標ー肢体不自由／聴覚障害／視覚障害の理解） 第 5 回：発達が気になる子どもの理解と保育（到達目標ー発達障害の理解） 第 6 回：障害の理解と保育（３）（到達目標ー自閉症スペクトラム／学習障害／注意欠如・多動性障害の理解） 第 7 回：子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価（到達目標ー子どもの行動観察） 第 8 回：個々の発達をうながす生活やあそびの環境（到達目標ー遊びの工夫） 第 9 回：他者とのかかわりと育ちあい（到達目標ー関わることの重要性を学ぶ） 第 10 回：職員間の協力関係（到達目標ー協力から何を得るか） 第 11 回：家庭や関係機関との連携（到達目標ー連携の意味を理解すること） 第 12 回：障害のある子どもの早期発見と支援（到達目標ー早期発見のための工夫を学ぶ） 第 13 回：障害のある子どもの就学に向けての支援（到達目標ー就学時の連携を理解する） 第 14 回：障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題（到達目標ーどのような関連機関があるかを知ること） 第 15 回：支援の場の広がりとつながり（到達目標ー支援広場の役割を学ぶ）

アクティブラーニング	・この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。
授業内のICT活用	なし
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパーへのコメントは毎回次の授業でフィードバックします。
指定図書	『障害児保育ワークブック』: 星山麻木　編著　　萌文書林
参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
事前・事後学修	・毎回ワークシートを使って事前課題・事後課題を出します。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小学校インターンシップⅡ
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	１単位（45 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ｉ同様に、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科･領域の学習や特別活動など授業内外の場面で児童と個別の関わり、その関わり方を実践的に理解することを目的とする。
到達目標	インターンシップ実習Ｉを踏まえ、同じ小学校にて実習し、教科・領域の授業や特別活動を中心に授業内外の学習支援や個別指導に携わることを通して個々の児童への関わり方を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 目標と計画の設定 授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定 ※受け入れ先小学校への事前訪問は４月中に済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。 ※その後、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 【実習の進め方】 １．学生はインターンシップ実習Ｉと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う ３．実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 ４．実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①Ｉから引き続き、授業や特別活動を通して児童へのかかわり方を理解し、個別に実践する ②授業内で児童の学習支援・個別指導に携わる ・ドリルやノートの答え合わせ・丸付け ・つまずきへの対応　など ③授業前後の教師の学習指導に携わる ・教材づくりを手伝う（プリントの印刷・学習資料の掲示）など ・学習プリントやドリルなどの丸付け ④放課後児童クラブやプール開放などでの指導内容や児童の動きを知る ・安全管理や個別の指導（学習や水泳）など 【事中指導】(5 月.6 月に１時間ずつ２回実施) インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】(7 月) 実習の振り返り（発表と共有）

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内のICT活用	–
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計100%
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	小学校インターンシップⅢ
科目責任者	鈴木光男
単位数他	１単位（45 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ⅱ同様に、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科･領域の学習や特別活動など主には授業場面で児童と関わり、授業の進め方を実践的に理解することを目的とする。
到達目標	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、同じ小学校にて実習し、主には教科･領域の授業内での児童の学習指導に関わり、教師の役割を知ると共に基本的な授業の進め方を理解し、次年度の教育実習につなげる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞　鈴木光男、飯田真也、福重浩之 【事前指導】 目標と計画の設定 授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定 ※受け入れ先小学校への事前訪問は 10 月初旬までに済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。 ※その後、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 【実習の進め方】 １．学生はインターンシップ実習ⅠⅡと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う ３．実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 ４．実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①Ⅰ・Ⅱから引き続き授業内外の活動を通して、児童への関わりを深める ②つまずきのある児童や特別な支援を必要とする児童への支援･指導のあり方を知り、授業内で関わる ・教師の支援・指導上のポイントの把握　など ③授業や特別活動を通して、児童へのかかわり方を理解し、実践する ・運動会や各種行事での指導のあり方の把握 ・各授業の学習過程の違いやポイントの理解など 【事中指導】（11 月.12 月.1 月に 1 時間ずつ 3 回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（3 月） 実習の振り返り（発表と共有）

アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
授業内のICT活用	–
評価方法	実習先小学校からの評価（40%）、実習ノート（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計100%
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	小学校学習指導要領
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。（目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際バカロレア教育概論
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP７　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレア（IB）教育の概要について四つの視点から概観する。①国際バカロレアの成り立ち、その発展、日本への導入の経緯　②国際バカロレアのミッションの成り立ちとその意義　③国際バカロレアの学習者像の意義。④グローバル人材を育くむ国際教育とバカロレア教育
到達目標	１.国際バカロレアの概観を理解する。 ２.わが国で実践されて来た教育と国際バカロレア教育の差異を理解する。 ３.各自が授業の進行に積極的に参加する。
授業計画	＜＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：授業のオリエンテーション 国際バカロレアの成り立ちとグローバル教育（ヨーロッパ） 第 2 回：国際バカロレアの成り立ちとグローバル教育（米国） 第 3 回：国際バカロレアとクルト・ハーン 第 4 回：DP から MYP PYP への発展 第 5 回：ミッションとそれに含まれる意義 ①国際教育と多様な文化と異文化 第 6 回：ミッションとそれに含まれる意義 ②国際的教育と世界平和構築 第 7 回：IB の学習者像　その意義と実戦 第 8 回：IB の学習者像：探求する人 第 9 回：IB の学習者像：知識のある人、考える人　バランスのとれた人 第 10 回：IB の学習者像：コミュニケーションができる人 第 11 回：IB の学習者像：心を開く人　信念を持つ人　思いやりのある人 第 12 回：IB の学習者像：挑戦する人 第 13 回：IB の学習者像　振り返りのできる人 第 14 回：グローバル人材の育成　　人の違いを認めるという事 第 15 回：グローバル人材の育成　教官を持って生涯に学ぶ事 ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含みます。

アクティブラーニング	全てに授業は担当学生によって進行する。
授業内のICT活用	–
評価方法	授業担当成果：40%　リアクションペーパー：30%　リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。
指定図書	授業開始のシラバスにて指定　基本的にプリント使用
参考図書	授業開始のシラバスにて指定
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業初回に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は　幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際バカロレア教育課程論
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP７　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレア・プログラムのカリキュラムはこれまでの日本のカリキュラムとは大きく異なる。そこで世界のカリキュラムと国際バカロレアのカリキュラムを比較分析する。教育過程におけるティーチング＆ラーニングの視点から学習集団でどの様に協働の学びが期待されるかという視点から国際バカロレアのカリキュラムを捉えて行く。
到達目標	１．国際バカロレアの各プログラムのカリキュラム構造を理解する。 ２．それぞれのプログラムの相違点を認識する。 ３．ATL、TAL などをしっかり理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：授業のオリエンテーション 第 2 回：カリキュラムの理念と理論Ⅰ 第 3 回：カリキュラムの理念と理論Ⅱ 第 4 回：概念を理解させる為のカリキュラムとは 第 5 回：世界のカリキュラムを概観する（欧米各国） 第 6 回：世界のカリキュラムを概観する（アジア各国） 第 7 回：PYP のカリキュラムの理念と実践 第 8 回：MYP のカリキュラムの理念と実戦 第 9 回：DP のカリキュラムの理念と実践 第 10 回：TOK、CAS、EE のカリキュラムでの位置付け 第 11 回：カリキュラム構築における探究学習の保証 第 12 回：ティーチング＆ラーニングのためのカリキュラム構築 第 13 回：カリキュラムと教員のあり方 第 14 回：発展を続ける国際バカロレア・カリキュラム 第 15 回：国際バカロレア・カリキュラムの今後の可能性 ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含みます。

アクティブラーニング	全てに授業は担当学生によって進行する。
授業内のICT活用	–
評価方法	授業担当成果：40%　リアクションペーパー：30%　リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。
指定図書	授業開始のシラバスにて指定　基本的にプリント使用
参考図書	授業開始のシラバスにて指定
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業の初回に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は　幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際バカロレア教育方法論
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP７　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレアを現場で実践していくためには　その教育方法を確実に体得する必要がある。日本の教育を受け、日本で教育養成をされた教師にとって、国際バカロレアの教育方法を実践する事は想像以上に難しいのが現状である。そこで、当講ではユニット・プランの構築を中心に国際バカロレアの教育方法を探求していく。
到達目標	１.21 世紀のティーチング＆ラーニングに見合ったカリキュラムの実践への取り組み ２.作成されたカリキュラムがダイバースな国際社会や地域社会を反映する重要度 ３.IB 機構により変遷して行くカリキュラムへの対応のあり方
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：授業のオリエンテーション　及び　当講義の課題の提示 第 2 回：TOK のガイドブックの研究 第 3 回：学習の誠実性ガイドブックの研究 第 4 回：CAS の指導の手引きの研究 第 5 回：課題研究の手引きの研究 第 6 回：各科目のガイドブックの研究 第 7 回：社会構成主義について探る 第 8 回：社会構成主義と国際バカロレア教育 第 9 回：コンピテンシーと国際バカロレア 第 10 回：学習者のセルフという概念 第 11 回：ファシリテーターとしての教師とセルフ 第 12 回：セルフ・エスティームと国際バカロレア 第 13 回：IB のテキストブックの研究 第 14 回：ユニット・プランの仕上げ 第 15 回：今回の授業で学んだ事をもと書きあげたユニット・プランの共有 ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含みます。

アクティブラーニング	全てに授業は担当学生によって進行する。
授業内のICT活用	–
評価方法	授業担当成果：40%　リアクションペーパー：30%　リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。
指定図書	授業開始のシラバスにて指定　基本的にプリント使用
参考図書	授業開始のシラバスにて指定
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業初回に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は　幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際バカロレア教育学習アセスメント
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP７　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレアにおけるアセスメントは　これまでの日本の既存の評価とはずいぶん異る。日本の評価も相対評価から絶対評価に変わりつつある。しかし、わが国では大学受験という関門で相対評価が控えており、絶対評価を促進する足かせとなっている。この様な環境で、どの様に国際バカロレアのアセスメントを捉えるべきかを探って行く。
到達目標	1. 学校文化での評価の在り方と日本文化の在り方を把握する 2. 評価する時に IB ではどの様な哲学で行うか理解する 3. ルーブリック評価を体得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：学習とは何か。その評価はどの様にすべきか。 第 2 回：学習のアチーブメントの捉え方とその評価について 第 3 回：世界の高等教育における入学試験基準と評価について（Ⅰ） 相対評価中心のアジアの国々の高等教育入試 第 4 回：世界の高等教育における入学試験基準と評価について（Ⅱ） 資格試験が中心の欧米の高等教育機関の選抜について 第 5 回：相対評価と絶対評価のおける文化的背景 第 6 回：大学入試におけるエッセイと推薦状の在り方 第 7 回：日本社会における評価の抱える課題 第 8 回：日本人にとって偏差値社会と評価のあり方 第 9 回：国際バカロレアにおけるアセスメントの実践（ルーブリック）方法 第 10 回：国際バカロレアの評価と教師の視点 第 11 回：国際バカロレアにおけるアセスメントの標準化について 第 12 回：DP スコアと予想スコアの捉え方 第 13 回：アセスメントの実践Ⅰ 第 14 回：アセスメントの実践Ⅱ 第 15 回：当授業を通して、刷新された自分の評価への価値観を共有する ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含みます。

アクティブラーニング	全てに授業は担当学生によって進行する。
授業内のICT活用	–
評価方法	授業担当成果：40%　リアクションペーパー：30%　リフレクション：30% 評価詳細は第一回授業にて説明する。ルーブリックを使用する。基準等は授業内にて説明する。
課題に対するフィードバック	授業の評価等、360度多面評価により相互のフィードバックを行う。
指定図書	授業開始のシラバスにて指定　基本的にプリント使用
参考図書	授業開始のシラバスにて指定
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約40分】
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業にて提示する。
実務経験に関する記述	本科目は　幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	国際バカロレア教育総合演習
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP７　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際バカロレアの授業を通して理解した事をもとに演習を行う。小学校の IB 実践を見学し、最終的に実習を体験する。見学・実習の計画を自ら設定し、実践し、最後にリフレクションを行なう。当授業担当の教師はこの演習では指導者でなく、ファシリテーターとしての役割を担う。
到達目標	見学・実習の計画を作成 見学・実習のリフレクション作成
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：現場に出るため、本科目の趣旨と目的、授業計画、本学の教育目的の理解 参加授業の設定 第 2 回：IB 小学校のコーディネーターを招聘し、実践経験の講話 第 3 回：IB 小学校のコーディネーターと、学生たちと見学の為の協働計画案づくり 第 4 回：IB 小学校のコーディネーターと最終計画 第 5 回 第 6 回：第 7 回：授業見学（一週間同授業参観） 第 8 回：見学のリフレクションの共有 第 9 回：実習に向けて各自ユニット・プランのコラボレーション(1) 第 10 回：実習に向けて各自ユニット・プランのコラボレーション（Ⅱ） 第 11 回　第 12 回　実習授業 第 13 回：各自実習授業のリフレクションの共有（Ⅰ） 第 14 回：各自実習授業のリフレクションの共有（Ⅱ） 第 15 回：実習校のコーディネーター、担当教員とリフレクションの共有 ※到達目標を達成するための各回の具体的内容をできるだけ詳細に記述してください。 ※科目担当者が 1 人の場合は各回の担当教員名は不要です。担当教員にはゲストスピーカー等も含みます。
アクティブラーニング	全てに授業は担当学生によって進行する。
授業内の ICT 活用	

評価方法	リフレクション（＋自己評価）：30%（＋30%）　学生相互評価　20% 総合評価　20%　　ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	授業の評価等、360 度多面評価により相互のフィードバックを行う。
指定図書	授業開始のシラバスにて指定　基本的にプリント使用
参考図書	授業開始のシラバスにて指定
事前・事後学修	授業開始時に渡される詳細シラバスに基づいて事前学習・リフレクションを行うことが期待される。【学修時間の目安は約 40 分】
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	授業初回にて提示する。
実務経験に関する記述	本科目は　幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	多文化共生と教育
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　こども　7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	グローバル化の進行に伴い、国籍や文化的背景が異なる人々との間の相互理解と共生に向けて必要とされる点（価値観・ゴール・方法）について学ぶ。外国籍の子どもたちの学習・生活支援について、教育現場等に出向き理解を深める。
到達目標	1.　地域共生社会について、その理論と実際を理解する。 2.　国際理解教育について理解する。 3.　外国籍の子どもたちの支援について理解し、方法を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　多文化共生社会とは 第 2 回　異文化の人々との共生についての理解 第 3 回　地域共生モデル事業（浜松市の取組） 第 4 回　コミュニティー・エンパワメント、コミュニティリーダーの育成 第 5 回　国際理解教育とは（概要） 第 6 回　国際理解教育とは（実践事例） 第 7 回　外国籍の子どもたちとその保護者について（現状やニーズの把握） 第 8 回　外国籍の子どもたちとその保護者に対する支援（浜松市等の取組） 第 9 回　就学前教育・小学校等のクラスルームでの支援（概要） 第 10 回 就学前教育・小学校等のクラスルームでの支援（実践事例） 第 11 回　外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援（事前学習） 第 12 回　外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援（実践 1 回目） 第 13 回　外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援（実践 2 回目） 第 14 回　外国籍の子どもたちに対する生活・学習支援（事後学習・評価） 第 15 回　まとめ

アクティブラーニング	現場での観察・実践・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	-
評価方法	レポート課題・振り返りシート　80%、授業への取り組み20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	－
オフィスアワー	初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	多様な子どもの理解
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　こども　5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	子どもの複雑化・多様化した課題（不登校・貧困・外国国籍・発達支援等）に対応するための「チーム学校」としてのあり方を学ぶ。個々の問題やニーズの理解と方法、協力体制の作り方について理解を深める。
到達目標	1.　様々な課題を抱える子どもやその家庭の現状について理解する。 2.　支援のための方法を理解する。 3.　チーム・アプローチについて理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　特別な支援を必要とする子どもについての理解（現状） 第 2 回　発達障害特性がある子どもについての理解 第 3 回　発達障害特性がある子どもへの支援（事例検討） 第 4 回　いじめ、不登校、問題行動のある子どもについての理解 第 5 回　いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討①） 第 6 回　いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討②） 第 7 回　言語・文化の異なる子ども（外国国籍）についての理解 第 8 回　家庭の問題について（貧困） 第 9 回　家庭の問題について(養育の問題) 第 10 回　その他課題がある子どもの理解（LEBT、ギフテッド） 第 11 回 学校や地域におけるチーム・アブローチについて（概要） 第 12 回　学校や地域におけるチーム・アブローチについて（実践事例） 第 13 回　クラス運営―子ども同士の関わり 第 14 回　支援のための計画・評価 第 15 回　まとめ

アクティブラーニング	事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	-
評価方法	レポート課題・振り返りシート　80%、授業への取り組み20%　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	－
オフィスアワー	初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	多様な子どもの支援
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　こども　6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	複雑化・多様化する子どもの問題構造と支援方法について、事例から理解する。子どもの背景・文脈を含めた多様なアセスメントと問題解決の実際を学ぶ。「チーム学校」として機能するためのあり方について理解を深める。
到達目標	1. 個別アセスメントの方法を理解する。 2. 学習支援の方法について理解する。 3. 校（園）内連携・専門職連携の実際について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　支援のためのアセスメントとは 第 2 回　アセスメントの方法 第 3 回　自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法 第 4 回　自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法（ワーク） 第 5 回　学習支援の基本 第 6 回　個々の課題に即した授業展開 第 7 回　学習のためのユニバーサル・デザイン 第 8 回　個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）① 第 9 回　個別課題に合わせて指導計画と模擬授業（保育）② 第 10 回　模擬授業に対するフィードバック 第 11 回 ソーシャルワーク的アプローチ（貧困・養育の問題） 第 12 回　保護者に対する相談支援の技法 第 13 回　校（園）内連携・専門職連携の実際①　事例からの考察 第 14 回　校（園）内連携専門職連携の実際②　支援のための計画（ワーク） 第 15 回　まとめ

アクティブラーニング	ワークや事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	-
評価方法	レポート課題・振り返りシート　80%、授業への取り組み20%　ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。
指定図書	プリント等を配布する。
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること
オープンエデュケーションの活用	－
オフィスアワー	初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	プログラミング教育Ⅰ
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	2017 年公示の小学校学習指導要領で実施することが示されたプログラミング教育のねらいについて検討し理解した上で、実施内容が例示されている算数・理科・総合的な学習の時間や、それ以外の教科学習等における授業実践例をもとに具体的な実践のあり方を分析・検討する。また、小学生が使用可能なプログラミング言語を体験的に学び、それらの授業での活用方法等について議論する。これらをとおして、小学校のプログラミング教育についての理解を深められるようにする。
到達目標	1. プログラミング教育のねらい、基礎について理解する。 2. 小学校におけるプログラミング教育のねらいや先進的実践事例を理解し、その上で実際にプログラミングを体験し、それらをもとに小学校プログラミング教育実施に向けての理解と見通しを持つことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯 第 2 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(算数科学習を主として) 第 3 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(理科学習を主として) 第 4 回：先進的に行われている授業実践事例の検討(総合的な学習の時間を主として) 第 5 回：子供たちが使用可能なプログラミング言語 第 6 回：プログラミング体験①（誰にでもできる簡単な作品作りを行う） 第 7 回：プログラミング体験②（体験①を踏まえて工夫・応用する） 第 8 回：その他の授業実践の分析と検討①（グループで実践事例を収集し分析・検討） 第 9 回：その他の授業実践の分析と検討①（グループごとの実践事例の紹介・共有） 第 10 回：プログラミング教育の取り入れ方に関する検討とディスカッション 第 11 回：プログラミング教育実践の開発①（グループで自分たちの学習指導案を作成） 第 12 回：プログラミング教育実践の開発②（グループで学習指導案をもとに模擬授業の準備） 第 13 回：プログラミング教育実践の開発③（模擬授業の発表） 第 14 回：プログラミング教育実践の開発④（模擬授業の振り返り） 第 15 回：授業のまとめと振り返り

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場授業実践の収集・検討や考察・協議 グループによる模擬授業の立案と発表
授業内のICT活用	–
評価方法	（1）授業で課した課題（模擬授業・指導案など）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60%
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	特になし
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	

科目名	プログラミング教育Ⅱ
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　８セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	小学校学習指導要領で、新たな学習内容としてプログラミング教育が導入された。学修指導要領では、理科や算数でのプログラミング教育の例示があるが、これらの教科のみならず多様な教科や総合的な学習の時間での教科横断的な学習指導が必要となる。そこでは、ねらいである論理的思考力の育成や情報システム理解を目的とする授業づくりが求められている。そこで、これらのことを体験的に学習し、授業づくりのアイデアを具体的に考えられるようにする。
到達目標	1. 入出力インターフェースを用いたプログラミングによる制御の基礎を理解する。 2. ロボット教材や子供向けプログラミング言語を用いた学習指導法について理解する。 3. プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業づくりについて理解し、教材研究をとおして模擬授業を公開する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：小学校プログラミング教育のねらいと基礎 第 2 回：入出力インターフェースを用いた情報システム理解 第 3 回：ロボット教材を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成 第 4 回：プログラミング言語を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成①（Viscuit 等） 第 5 回：プログラミング言語を用いた創作表現活動と論理的思考力の育成②（Scratch 等） 第 6 回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業づくり 第 7 回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討①（グループで実践事例を収集し分析・検討） 第 8 回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討②（グループで実践事例を収集し分析・検討） 第 9 回：その他の授業実践の分析と検討①（グループごとの実践事例の紹介・共有） 第 10 回：プログラミング学習のための教科および教科横断的な授業実践の分析と検討③（グループで実践事例を収集し分析・検討） 第 11 回：プログラミング教育実践の開発①（グループで自分たちの学習指導案を作成） 第 12 回：プログラミング教育実践の開発②（グループで学習指導案をもとに模擬授業の準備） 第 13 回：プログラミング教育実践の開発③（模擬授業の発表） 第 14 回：プログラミング教育実践の開発④（模擬授業の振り返り） 第 15 回：授業のまとめと振り返り

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場授業実践の収集・検討や考察・協議 グループによる模擬授業の立案と発表
授業内のICT活用	–
評価方法	（1）授業で課した課題（模擬授業・指導案など）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60%
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	授業時に資料配付
参考図書	特になし
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	

科目名	子ども家庭支援論
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP6　専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	現代の家族を取り巻く社会環境と家庭生活における人間関係についての理解を深め、なぜ支援が必要となるのか、その背景要因や支援の意義について学ぶ。また、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援の展開、地域の資源の活用、関係機関との連携・協力について理解する。
到達目標	１．現代家族における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ２．子どもの人権擁護について理解する。 ３．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ４．子ども家庭福祉の現状と課題、動向・展望について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　子ども家庭福祉の理念と概念 第 2 回：　子ども家庭福祉の歴史的変遷 第 3 回：　現代家族をめぐる子育て環境 第 4 回：　子どもの人権擁護 第 5 回：　児童の権利に関する条約 第 6 回：　子ども家庭福祉の制度・法体系・実施体系 第 7 回：　児童福祉施設 第 8 回：　子ども家庭福祉の専門職 第 9 回：　子ども家庭福祉の現状と課題 第 10 回：　虐待・DV の防止 第 11 回：　さまざまな家族（貧困・外国籍の子ども）とのかかわり 第 12 回：　保育所等における家庭への支援（地域子育て支援） 第 13 回：　社会的養護における家庭への支援 第 14 回：　子ども家庭福祉の動向と展望 第 15 回：　振り返りとまとめ

アクティブラーニング	グループ学習による実際の事例等を用いた子ども・家庭への支援についての演習を取り入れて行う。
授業内のICT活用	–
評価方法	平常点（30%　毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）、定期試験（70%）ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「子どもの福祉と子育て家庭支援」　星野正明（編著）　（株）みらい
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	–
オフィスアワー	初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「幼保連携型認定こども園」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	子育て支援
科目責任者	太田雅子
単位数他	1単位（１５時間）　選択　　こども　6セメスター
DP番号と科目領域	DP7　専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	保育士が行う子育て支援について、その状況・ニーズに合わせての内容・方法（技術）や展開の仕方について実践事例等を通して具体的に学ぶ。地域の関係機関との連携・協働、保育所全体の体制作りについて理解を深める。
到達目標	1. 保育の専門性を用いての保護者に対する相談・助言（保育相談支援）について理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について様々な場や対象に合わせての支援の内容・方法・技術を実践（事例）を通して具体的に理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：子育て支援・保護者支援とは 第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成 第3回：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 第4回：ニーズへの気づきと多面的な理解（発達支援を中心に） 支援の実践（計画・記録・評価）・カンファレンス 第5回：保育所・認定こども園における子育て支援とその実際 第6回：多様なニーズを抱える子育て家庭（貧困・外国籍の子ども等）に対する支援 第7回：子ども虐待防止と対応・要保護児童等の家庭に対する支援 第8回：まとめ　（小テスト）

アクティブラーニング	学生自身が子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けての調査・グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
授業内のICT活用	-
評価方法	授業態度（子育て広場への参加・グループ課題の発表）50%　　小テスト・レポート50% ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー等を次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	その都度プリントを配布する。
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い子育て支援の実践準備をすること。
オープンエデュケーションの活用	-
オフィスアワー	授業の初回に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実習指導Ⅱ
科目責任者	太田雅子
単位数他	1単位（15時間）選択　こども　6セメスター
DP番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ＩＡを踏まえ、実習の全領域（半日実習もしくは1日実習）にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	１．保育実習の意義・目的が理解できる。 ２．保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。 ３．保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。 ４．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	＜担当教員名＞　　太田雅子、鈴木光男、細田直哉、二宮貴之 ＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 【事前指導】 第1回：オリエンテーション　　科目担当者全員 保育実習Ⅱの目的・事務手続き 第2回：保育の記録（実習日誌の書き方）　　細田直哉 第3回：保護者への支援・地域子育て支援とは　　太田雅子 第4回：教材研究と指導計画の作成①　　二宮貴之 手遊び・歌・楽器遊び 第5回：教材研究と指導計画の作成②　　鈴木光男 制作活動など 第6回：実習直前指導、事務連絡　　科目担当者全員 【事後指導】 第7回：実習の振り返り　　科目担当者全員 第8回：実習報告会の計画・準備・個人面談　　科目担当者全員
アクティブラーニング	演習科目です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	プレ実習の記録（20%）、課題（10%）、授業への取り組み（20%）、実習レポート（30%）、実習報告会（20%）　ルーブリックを用いて評価を行う。基準や内容については授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をします。また、実習報告会では、教員からの講評をします。
指定図書	厚生労働省編（2008）『保育所保育指針解説』、 開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社

参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、 自己課題を見出します。＜それぞれの目安時間は約 40 分＞
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	初回授業時にお知らせいたします。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実習指導Ⅲ
科目責任者	太田雅子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　こども　6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	１．保育実習ＩＢの経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める ２．領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化す ３．施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する ４．他の専門職との連携について理解する
授業計画	＜担当教員名＞　太田雅子、坂本道子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション　保育実習ＩＡとの違いについて 第 2 回 : 各配属領域についての調査 第 3 回 : 各配属領域の保育の実際 第 4 回 : 職員の職務や連携の重要性について 第 5 回 : 入所理由を理解と関わり方について 第 6 回 : 各配属領域と地域との連携について 第 7 回 : 実習日誌とオリエンテーションについて 第 8 回 : 実習についてのまとめ 第 9 回 : 事後指導①　実習報告 第 10 回: 事後指導②　自己覚知と実習の振り返り
アクティブラーニング	実習中の体験等を中心としたグループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み（20％）、課題（20％）、レポート（30％）、実習報告会（30％）計 100%で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし

オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園・認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	保育実習ＩＢ
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　　こども　５セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	１．子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わることができる。 ２．児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 ３．保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。
授業計画	＜担当教員名＞太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習内容：詳細は保育実習ＩＢの手引きを参照 １．養護の一日の流れを理解し、参加する。 ２．子どもの集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。 ３．子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。 ４．保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ５．施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 ６．施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。 実習の進め方 〇保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 〇実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。 〇実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。
アクティブラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習施設からの評価（40%）、実習日誌（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学修】実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。 また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに 必要箇所の記入をします。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせいたします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	保育実習Ⅱ
科目責任者	太田雅子
単位数他	2単位（90時間）　選択　　こども　6セメスター
DP番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ＩＡでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。 ２．保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	＜担当教員名＞太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉、飯田真也、福重浩之 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は保育所・認定こども園にて90時間（10日間）以上の配属実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 ３．実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．観察実習 １）乳幼児の１日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもとの関わりを深める。 ２）乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とのかかわり方を知る。 ３）保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ２．参加・部分実習 １）保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 ２）乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 ３）担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 ３．責任実習 １）担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。 ２）保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。 ３）１日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。 ４）課題を設定し、問題意識をもって実習をする。
アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。
課題に対す	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

るフィードバック	
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう。また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達の則した内容を作成しましょう。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業の初回にお知らせします。実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	保育実習Ⅲ
科目責任者	太田雅子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　６セメスター
DP 番号と科目領域	DP5　専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ＩＢでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童 を理解する。 ２．保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。 ４．施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する
授業計画	＜担当教員名＞ 太田雅子、坂本道子、鈴木光男、飯田真也、和久田佳代、細田直哉、二宮貴之、福重浩之 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．施設の社会的使命を理解する ２．職員の職務やチームワークを理解する ３．施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する ４．担当する子どものケーススタディの実践を理解する ５．地域事業との関連について理解する ６．各種法令・法規と施設との関係について理解する 実習の進め方 ・保育所以外の児童福祉施設等にて 10 日間の配属実習を行う ・実習日誌に１日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける ・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う
アクティブラーニング	自ら積極的に実習を行う中で学びを深める。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。

指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅡ　※社会福祉学科
科目責任者	野田由佳里
単位数他	２単位（90 時間）　選択　６～７セメスター
DP 番号と科目領域	DP１専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップを通して管理者としての自覚を持ち、多角的に経営をする大規模法人における社会福祉及び地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を理解することを目的としている。さらに、キャリアモデルについて考える機会を提供する科目である。
到達目標	1. 社会福祉士養成教育及び介護福祉士養成教育で習得した知識を就職への動機づけとして考えることができる。 2. 介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・ソーシャルワーク実習で習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。 3. 地域貢献を目指す法人の機能及び実際的な役割の理解ができる。 4. 専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性について言語化できる。 5. 大規模法人の役割・地域で果たす役割や地域資源について理解することができる。 6. 多くの職員や法人スタッフとの交流を通してキャリアデザインを描くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　オリエンテーション 【インターンシップ先の理解】 第２回　配属発表・配属先研究 第３回　問題意識の明確化、自己課題の抽出 第４回　インターンシップ計画 【インターンシップの実際】 第５回　インターンシップ：事前訪問 第６回　インターンシップ：施設見学及び施設利用法 第７回　インターンシップの振り返り 第８回　インターンシップ：配属部署の見学 第９回　インターンシップ：配属先の会議への参加 第10回　インターンシップ：配属先の管理者との面談 第11回　インターンシップの振り返り 【インターンシップを通しての専門職理解】 第12回　インターンシップ体験に関するアウトプット 第13回　インターンシップを通しての自己覚知 第14回　報告会準備 第15回　報告会

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、課題はWebclassに提出する。
授業内のICT活用	・ICT機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・インターンシップ前の準備段階では双方向授業としてWebclassを活用します。
評価方法	課題レポート2回（100%）
課題に対するフィードバック	Webclassに提出された課題については、次の授業時にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学習：インターンシップ計画の目的、毎回の目標をしっかり設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。(40分) 事後学修：インターンシップ後、振り返りレポートの作成をしてください。事後学習は必ず40分程度を行いましょう。振り返りをしっかり行い、今後の就職活動に活用して下さい。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅢ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	１単位（45 時間）　選択　社福　５～８セメスター
DP 番号と科目領域	DP１専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	外部の専門機関・団体が提供するインターンシッププログラムなどを活用しながら、学生自身が求めるキャリアプランに関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。概ね５日間程度の配属実習と事前事後学修で展開される。
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、専門職としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2.　主体的に利用者等や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける
授業計画	＜担当教員名＞佐藤順子 学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画の検討 2. インターンシップ等への参加 ・一つの機関・団体において５日間程度の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です
授業内のICT活用	なし
評価方法	事前・事後学習への取り組み20% 配属実習での取り組み40% 定期試験（レポート）40%
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	特になし
参考図書	特になし
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること （目安時間40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間は初回の授業において提示します。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	児童・家庭支援とソーシャルワーク
科目責任者	佐藤順子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本講義では、児童虐待、子どもの貧困等、現代社会において子どもと家庭が抱える諸問題を理解し、ソーシャルワーカーがどのように対応していくべきか、講義と演習、フィールドワークなどをとおして理論的・実践的に学修する。
到達目標	1. 児童虐待、子どもの貧困等、現代社会における子どもと家庭が抱える諸問題を具体的に理解する。 2. 子どもと家庭が抱える諸問題に対応する専門機関の役割について理解する。 3. 問題を抱えた子どもとその家族に対して、具体的にどのように介入し、支援を展開するのか、実践的に理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　現代における家族・家庭とは 第 3 回　子ども発達と家族・家庭の役割 第 4 回　現代社会における子どもと家族・家庭が抱える諸問題① 第 5 回　〃　② 第 6 回　子どもと家族・家庭問題を分析するための理論 第 7 回　子どもと家族・家庭支援における専門機関と専門職① 第 8 回　〃　② 第 9 回　子どもと家庭・家族を支援するための実践モデル①　〃 第 10 回　〃　② 第 11 回　〃　③ 第 12 回　事例検討① 第 13 回　〃　② 第 14 回　〃　③ 第 15 回　まとめ

アクティブラーニング	反転授業、フィールドワーク、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	・Webclassを活用して双方向型授業を行う ・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う ・事前・事後学修課題についてはWebclassに提出する
評価方法	定期試験60%、中間テスト20%、課題10%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	未定
参考図書	授業の中で示す
事前・事後学修	事前学修：毎回事前課題を出すので、それに取り組んだ上でグループワークに臨む 事後学修：毎回学びをまとめ、Webclassに提出する （目安時間約40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	自立支援論
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	「自立」の概念は、生活の場でどのように暮らしたいのか、自分がどのような人生を送りたいかを選ぶことである。自ら決定し責任をもって生きる「自己決定」の行使について学習する。高齢者でも障害があっても自分の望む暮らしを主張し、自らの生き方を自らで決定し生きて行ける力を支援するための「自立支援」の方法論を学習する。さらに重度化の防止としての介護予防の位置づけについて学習する。
到達目標	1. 介護における自立は何かを理解する。 2. 「その人らしさ」「自分らしさ」を尊重するために、専門職として配慮すべき点を理解する。 3. 重度化の防止と自立支援の関連づけを理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 授業ガイダンス 「自立」とは何か 第 2 回 : 歴史の中の「自立」 第 3 回 :「自立」と「依存」のあり方 第 4 回 : 自立と自己決定・自己選択 第 5 回 : 自立の意欲と動機づけ 第 6 回 : 自立した生活を支えるための援助の視点 第 7 回 :「している活動」と「できる活動」 第 8 回 : 重度化の防止と介護予防の考え方 第 9 回 : 重度化の防止と自立支援 第 10 回 :「その人らしさ」への理解 第 11 回 : 介護技術としての個別ケア 第 12 回 : 生活支援としての個別ケア 第 13 回 : 個別性の多様化 第 14 回 : 事例検討（グループワーク） 第 15 回 : 事例検討発表　まとめ

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	Web Classにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：提示した当日授業の単元語句を調べる。 奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示した演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉サービス工学入門
科目責任者	井川 淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP4　専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	私たちは、日々、種々の影響を含めサービスを受けながら生活している。または、サービスなしでは生きられない。本科目はこのような社会科学、人文科学、自然科学にわたる学際的に広範囲な分野を満足の科学、健康の科学としてとらえた福祉工学を実践的に構成する一つの手法である。各項目において福祉工学の基礎を盛り込む。
到達目標	(1)人、社会、人為環境、自然環境からサービスの提供を受けていることを理解する。 (2)サービスが心の満足、身体の満足を誘導し、その結果健康を作ることを理解する。 (3)他の人に提供するサービスが持つ意味を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 導入―サービスを受けて生活していること（システム工学の考え方） 第 2 回 : することと、してもらうことの関係（提供者と被提供者） 第 3 回 : 心の満足・身体の満足と健康 第 4 回 : モノ、情報、動作等というサービスがもたらす満足 第 5 回 : 言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連) 第 6 回 : 屋内環境が提供するサービスがもたらす満足 第 7 回 : 社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足 第 8 回 : おもてなし(提供する心と享受する心の整合) 第 9 回 : ストレスと満足と無関心 第 10 回 : 健康をつくる５個の要素 第 11 回 : 社会参加とコミュニティ 第 12 回 : 願望と畏敬が導いた満足と健康（道具の歴史に託された心） 第 13 回 : 身体の衣食住と心の衣食住 第 14 回 : 介護というサービスを提供する立場 第 15 回 : 職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内のICT活用	介護支援型ロボット、およびコミュニケーションロボットのPC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	レポート60%、授業参加度30%、課題提出物10%、計100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	WebClassに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし
参考図書	授業時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：毎回、シラバスに示した内容について事前に調べ、授業内で報告できるよう準備をしておく。(40分) 事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（2605研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉実践演習
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「人間と社会」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる 3. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「「こころとからだのしくみ」」の内容のすべてが理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回　人間と社会　・・・人間の尊厳と自立　人間関係とコミュニケーション 社会の理解 第２回　介護の基本①・・・介護福祉士を取り巻く状況、 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護、 第３回　介護の基本②・・・自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、 介護実践における連携、安全の確保とリスクマネジメント 第４回　コミュニケーション技術・・・介護におけるコミュニケーションの基本、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第５回　生活支援技術①・・・自立に向けた身じたく、移動、食事、入浴・清潔、排泄 第６回　生活支援技術②・・・自立に向けた家事、睡眠、終末期の介護、 第７回　介護過程・・・・・介護過程の意義、介護過程の展開、チームアプローチ 第８回　発達と老化の理解①・・・人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 第９回　発達と老化の理解②・・・高齢者と健康 第10回　認知症の理解①・・・認知症を取り巻く状況、　医学的側面からみた認知症の基礎 第11回　認知症の理解①・・・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、 第12回　障害の理解①・・・障害の基礎的理解、障害の医学的側面の基礎的理解(身体、精神) 第13回　障害の理解②・・・障害の医学的側面の基礎的理解（知的、発達、難病)、障害のある人の心理、障害に伴う機能の変化と影響家族への支援 第14回　こころとからだのしくみ①・・・こころのしくみの理解、からだのしくみの理解 第15回　こころからだのしくみ②・・・身じたく、移動、食事、入浴・清潔、排泄、睡眠、 ターミナル期、医療的ケア

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
授業内のICT活用	必要に応じて、iPadとlearning Canvas （電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。
評価方法	授業態度20%、課題提出物20%、筆記試験60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	授業態度20%、課題提出物20%、筆記試験60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 毎回の課題（国試問題プリント）（40分） 事後学修：国試問題の正答根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。（40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	共生型サービス論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
DP 番号と科目領域	DP4　専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	保健医療福祉領域における介護福祉士としての専門性を自覚し、他者の役割を理解するとともに自らの役割を果たし、専門職として組織や他機関との協働について理解する。 対象者のニーズに合わせた適切な支援方法の学修を通して、共生型サービス論の理論と方法を身につける。
到達目標	1. 共生型サービス論に関する必要な福祉サービス、他職種・他機関との連携について説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要な共生型サービス論の支援方法について、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護福祉士による生活支援、事例に基づく利用者理解 第 2 回：共生型サービスとは、社会福祉制度 第 3 回：事例：退院支援と生活支援 第 4 回：事例：障害福祉サービス事業所における地域移行 第 5 回：事例：コロニー政策における頸髄損傷者の支援技術 第 6 回：事例：地域以降を望む自立生活 第 7 回：事例：近隣住民との連携、地域の事業所の理解 第 8 回：高齢者の福祉制度と障害者の福祉制度 第 9 回：介護保険制度と障害者総合支援法 第 10 回：ケア内容のマネジメントと、介護職チームのマネジメント 第 11 回：住みやすいまちづくり　地域での生活の継続と介護福祉士の役割 第 12 回：事例：介護離職問題「親の認知症の症状出現による介護離職」 第 13 回：事例：地域で生活を続けるための「地域包括ケアシステム」 第 14 回：ケア単位の小規模化と個別ケア 第 15 回：共生型サービスと介護福祉士の今後

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはWebclassにて提出する。
授業内のICT活用	・ICT機器を活用し、資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・授業全般でWebclassを活用します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	WebClassにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『生活支援総論』光生館
参考図書	SE:共生型サービスに対応、介護保険・障害者福祉のしくみ
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。